

中津城下町遺跡12・13次調査
定留遺跡7次調査

中津城下町遺跡12・13次調査 定留遺跡7次調査

市営京町住宅建設、市道鷹匠町おかこい山線新設、市道定留・諸田線新設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告
第91集

2019

中津市教育委員会

2019
中津市教育委員会

中津城下町遺跡12・13次調査 定留遺跡7次調査

市営京町住宅建設、市道鷹匠町おかこい山線新設、市道定留・諸田線新設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2019
中津市教育委員会

序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。近年は、自動車関連会社などの進出を受け、工業の町としての新たな側面を見せはじめています。

一方、経済活動の発展・促進は、埋蔵文化財へ影響を与えていることも事実です。市内では、中津日田道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査が大分県教育委員会により行われ、当市教育委員会も集合住宅建設など民間開発事業に伴う本発掘調査を行っております。

本書はこうした開発の中で、中津城下町遺跡と定留遺跡で行われた市営住宅建設と市道建設に先立ち行われた発掘調査報告書です。調査により中津城下町遺跡では江戸時代後期を中心とした土坑などが発見され、当時の屋敷地利用を考える上で貴重な資料となりました。また、定留遺跡では中世から近世の集落の一端を窺わせる遺構が発見されました。

本書が学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護や活用への一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力賜りました関係各位、及び、調査に従事して下さった方々に対し、深甚から感謝申し上げます。

平成31年3月29日

中津市教育委員会
教育長 廣畠 功

例　　言

1. 本書は大分県中津市教育委員会が平成21（2009）年度、平成29（2017）年度に実施した中津城下町遺跡12・13次調査、定留遺跡7次調査の発掘調査報告書である。
2. 中津城下町遺跡13次調査・定留遺跡7次調査は、中津市役所道路課より依頼を受け中津市教育委員会が実施した。中津城下町遺跡12次調査は、中津市役所建築課より依頼を受け中津市教育委員会が実施した。
3. 出土遺物の整理作業は、平成21・29・30年度に実施した。
4. 出土遺物は旧東谷小学校にて保管している。
5. 遺物の洗浄・注記・実測・拓本・浄書・観察表作成等は、末永弥義（中津市教育委員会嘱託）、臨時職員安部方恵、栗田真弥、衛藤京子、奥塚恭子、吉上かおり、久原彩、高橋裕美、長倉朱見（敬称略、50音順）の協力を得た。
6. 遺構名称は下記のように略し掲載している。
SK=土坑 SD=溝状遺構 SE=井戸 SF=道路状遺構
7. 遺物の形状を報告するため遺物写真を実測図に付しているものがあるが、実測図との縮尺は不同一である。
8. 中津城下町遺跡12次調査出土遺物16・20・21・62・131・135・202・243・246・247・271・272、中津城下町遺跡13次調査出土遺物22・32・33・105・150については、吉田寛氏（大分県立埋蔵文化財センター）に産地等をご教示いただきました。記して感謝申し上げます。
9. 本書の執筆は、第1章、第2章、第3章第1節・第2節、第4章を浦井が、第3章第3節を末永が担当した。
10. 本書中に掲載した部署名・肩書きは当時のものである。
11. 本書の編集は浦井が担当した。

目 次

第1章 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	2
第3章 各遺跡の調査	
第1節 中津城下町遺跡12次調査	4
1. 調査の概要	
2. 遺構と遺物	
3. 小結	
第2節 中津城下町遺跡13次調査	36
1. 調査の概要	
2. 遺構と遺物	
3. 小結	
第3節 定留遺跡7次調査	68
1. 調査の概要	
2. 遺構と遺物	
3. 小結	
第4章 総 括	74
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 中津市内主要遺跡分布図	3	第18図 城下町12次 SK6 出土遺物(2)	21
第2図 城下町12次 調査区位置図	4	第19図 城下町12次 SK6 出土遺物(3)	22
第3図 城下町12次 遺構配置図	5	第20図 城下町12次 SK6 出土遺物(4)	23
第4図 城下町12次 SK1・2・3 平・断面・土層図	6	第21図 城下町12次 SK6 出土遺物(5)	24
第5図 城下町12次 SK2 出土遺物(1)	7	第22図 城下町12次 SK7 出土遺物	25
第6図 城下町12次 SK2 出土遺物(2)	8	第23図 城下町12次 SD1 平・断面図 出土遺物	26
第7図 城下町12次 SK2 出土遺物(3)	9	第24図 城下町12次 SE1 平・断面・土層図 出土遺物(1)	27
第8図 城下町12次 SK3 出土遺物(1)	10	第25図 城下町12次 SE1 出土遺物(2)	28
第9図 城下町12次 SK3 出土遺物(2)	11	第26図 城下町12次 一括出土遺物	29
第10図 城下町12次 SK3 出土遺物(3)	12	第27図 城下町13次 調査区位置図	36
第11図 城下町12次 SK3 出土遺物(4)	13	第28図 城下町13次 遺構配置図	37
第12図 城下町12次 SK3 出土遺物(5)	14	第29図 城下町13次 SK1・2 平・断面図 出土遺物	38
第13図 城下町12次 SK3 出土遺物(6)	15	第30図 城下町13次 SK3 平・断面図 出土遺物	39
第14図 城下町12次 SK3 出土遺物(7)	16	第31図 城下町13次 SK4 平・断面図 出土遺物	39
第15図 城下町12次 SK3 出土遺物(8)	17	第32図 城下町13次 SK6 平・断面図 出土遺物	40
第16図 城下町12次 SK5 平・断面図 出土遺物	19	第33図 城下町13次 SK7 平・断面図 出土遺物	40
第17図 城下町12次 SK6・7 平・断面・土層図 SK6 出土遺物(1)	20	第34図 城下町13次 SK8 平・断面・土層図 出土遺物	41
		第35図 城下町13次 SK9 平・断面・土層図	42

第36図	城下町13次	SK9	出土遺物(1)	43	第49図	城下町13次	SK11	平・断面図	出土遺物	55
第37図	城下町13次	SK9	出土遺物(2)	44	第50図	城下町13次	一括	出土遺物(1)	56	
第38図	城下町13次	SK9	出土遺物(3)	45	第51図	城下町13次	一括	出土遺物(2)	57	
第39図	城下町13次	SK9	出土遺物(4)	46	第52図	城下町13次	一括	出土遺物(3)	58	
第40図	城下町13次	SK9	出土遺物(5)	47	第53図	定留遺跡7次	調査区位置図	68		
第41図	城下町13次	SK9	出土遺物(6)	48	第54図	定留遺跡7次	A区全体図	69		
第42図	城下町13次	SK9	出土遺物(7)	49	第55図	定留遺跡7次	A区SK1・SK2・SK3実測図	69		
第43図	城下町13次	SK9	出土遺物(8)	50	第56図	定留遺跡7次	B区全体図	70		
第44図	城下町13次	SK9	出土遺物(9)	51	第57図	定留遺跡7次	B区SE1実測図	71		
第45図	城下町13次	SK9	出土遺物(10)	52	第58図	定留遺跡7次	B区SF1土層断面図	71		
第46図	城下町13次	SK9	出土遺物(11)	53	第59図	定留遺跡7次	調査出土遺物実測図	72		
第47図	城下町13次	SK9	出土遺物(12)	54	第60図	城下町調査箇所	75			
第48図	城下町13次	SK10	平・断面図	出土遺物	55						

表 目 次

表1	奥平時代火災史	30
表2	城下町12次出土遺物観察表(1)	31
表3	城下町12次出土遺物観察表(2)	32
表4	城下町12次出土遺物観察表(3)	33
表5	城下町12次出土遺物観察表(4)	34
表6	城下町12次出土遺物観察表(5)	35
表7	城下町12次出土軒平瓦観察表	35
表8	城下町13次出土遺物観察表(1)	61
表9	城下町13次出土遺物観察表(2)	62
表10	城下町13次出土遺物観察表(3)	63
表11	城下町13次出土遺物観察表(4)	64
表12	城下町13次出土遺物観察表(5)	65
表13	城下町13次出土遺物観察表(6)	66
表14	城下町13次出土遺物観察表(7)	67
表15	城下町13次出土瓦観察表	67
表16	定留遺跡7次調査出土遺物観察表	72

写 真 目 次

写真図版1	(城下町12次) 調査区全景 SK3完掘 SK3土層②	79
写真図版2	(城下町12次) 調査区出土遺物	80
写真図版3	(城下町13次) 調査区全景 SK8 SK9	81
写真図版4	(城下町13次) 調査区出土遺物	82
写真図版5	(定留遺跡7次) 調査区全景 A区全景 SK1 SK2 SK3	83
写真図版6	(定留遺跡7次) B区全景 SF1 SE1 調査区出土遺物	84

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

中津市は市民の利便性向上のため諸施策を実施している。その中には、市道建設や市営住宅建設などの事業があり、本報告は、平成21年度に行われた市営京町住宅建設、市道鷹匠町おかげ山線新設、平成29年度に行われた市道定留・諸田線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

第2節 調査体制

平成21年度の体制は下記のとおり。

調査主体 中津市教育委員会

調査責任者 北山 一彦（中津市教育委員会教育長）

調査事務 荒川 節幸（ 同 文化振興課長）

酒井 英司（ 同 文化財係長）

調査担当 浦井 直幸（ 同 文化財係員）

平成29・30年度の体制は下記のとおり。

調査主体 中津市教育委員会

調査責任者 廣畠 功（中津市教育委員会教育長）

調査事務 高尾 良香（ 同 社会教育課長）

高崎 章子（ 同 文化財室長）

花崎 徹（ 同 文化財係主幹）

調査担当 浦井 直幸（ 同 文化財係員）

末永 弥義（ 同 文化財係嘱託）

発掘調査は下記の皆さんの協力による。（50音順、敬称略）

石塔美代子 宇野智恵 川口政代 岸原一己 角 美枝子 田城芳美 松本浩司 森山勝城
若木和美（平成21年度）

磯村義人 後藤満廣 末廣洋子 祐成本文 中坂真基子 深蔵康夫 松村たか子 村上由美子
(平成29年度)

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万4千人、面積491km²を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。賴山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬渓として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

第2節 歴史的環境

旧石器時代 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡（35）や法垣遺跡（19）で発見されている。

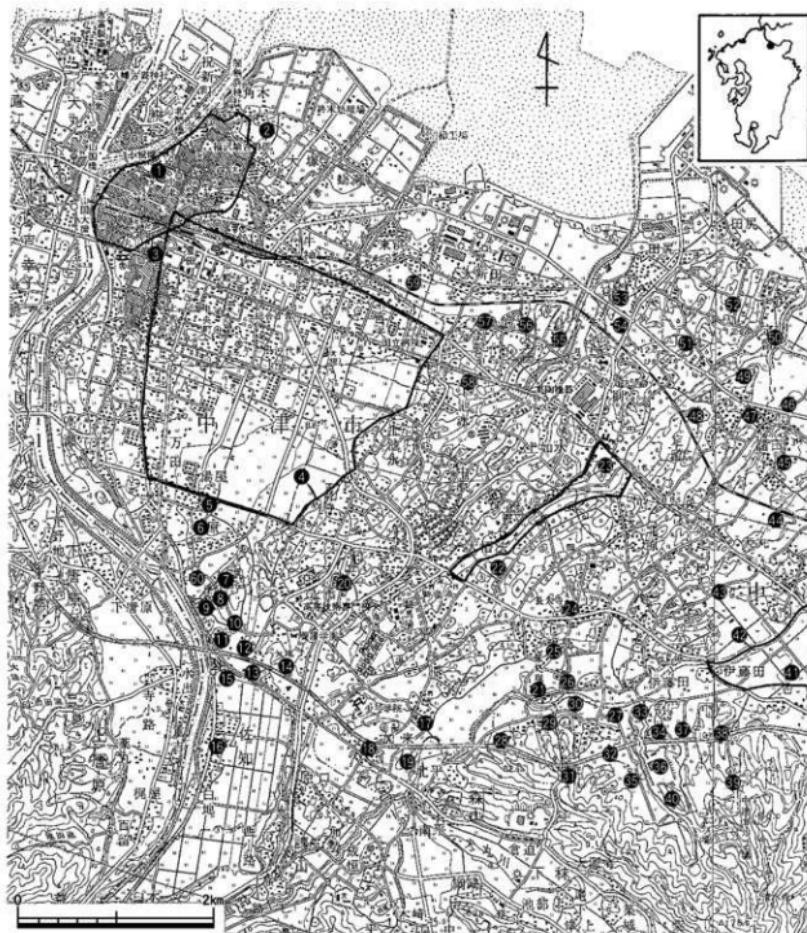
縄文時代 上畠成遺跡（43）で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡（18）で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡（21）、女体像と見られる土偶が出土した高畠遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が検出され注目されている。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壙墓・住居跡・溝が福島遺跡（25）で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡（28）で検出された。

古墳時代・古代 亀山（亀塚）古墳（58）が挙げられるが、調査せず破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀中頃には山国川に面する勘助野地遺跡（12）で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群（11）が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群（29）、城山古墳群（34）、城山横穴墓群（33）などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡（7）で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡（45）や定留遺跡（47）でまとまって発見されている。古代には7世紀末に白鳳系の相原廃寺（6）が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制（4）が施行されたと考えられ、条里的南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衛正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡（20）が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡（37）、踊ヶ迫窯跡（38）、洞ノ上窯跡（31）などがある。集落遺跡としては10世紀代の縁釉陶器や墨書き土器が出土した三口遺跡（60）がある。

中世 長久寺の田丸城跡（24）など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城跡（1）が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632（寛永9）年に完成を見る（2）。1717（享保2）年に奥平氏が入部し、1871（明治4）年の廢藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



1. 中津城跡
2. 中津城下町遺跡
3. 豊田小学校校庭遺跡
4. 冲代地区条里跡
5. 市場遺跡
6. 相原庵寺
7. 相原山首遺跡
8. 鶴市神社裏山古墳
9. 板手隈横穴墓群
10. 弊旗塚古墳
11. 上ノ原横穴墓群
12. 勘助野地遺跡
13. 上ノ原平原遺跡
14. 大池南遺跡
15. 佐久保烟遺跡
16. 佐知道跡
17. 加来居屋敷遺跡
18. 黒水遺跡
19. 法垣遺跡
20. 長者屋敷官衙遺跡
21. ボウガキ遺跡
22. 大悟法地区条里跡
23. 原遺跡
24. 田丸城跡
25. 福島遺跡
26. 福島地下式横穴
27. 前田遺跡
28. 森山遺跡
29. 岩井崎横穴墓群
30. 犬丸川流域遺跡
31. 洞ノ上窯跡
32. 安平遺跡
33. 城山横穴墓群
34. 城山古墳群
35. 才木遺跡
36. 城山窯跡群
37. 草場窯跡
38. 蹤ヶ迫窯跡
39. ホヤ池窯跡
40. 大谷窯跡
41. 野依遺跡
42. 野依地区条里跡
43. 上畠南遺跡
44. 諸田南遺跡
45. 諸田遺跡
46. 天貝川遺跡
47. 定留遺跡
48. 定留貝塚
49. 和間貝塚
50. 定留鬼塚遺跡
51. 是能遺跡
52. 田尻大追遺跡
53. 舞手橋東段上遺跡
54. 是則遺跡
55. 全德遺跡
56. ガラヌノ遺跡
57. 合馬遺跡
58. 亀山古墳
59. 東浜遺跡
60. 三口遺跡

第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S = 1/50,000)

第3章 各遺跡の調査

第1節 中津城下町遺跡12次調査

1. 調査の概要

平成21年、中津市役所建築課より市教委へ中津市1441番地2（京町）における市営京町住宅建設に伴う発掘調査について協議依頼がなされた。当該地には閉店した信用金庫があり、それらを取り壊し、面積約1,300m²の敷地に木造2階建て住宅を計4棟建設する計画であった。当該地は中津城下町遺跡の範囲内であり、発掘調査を行うことが確認された。但し、信用金庫建物部分の地下は基礎などにより搅乱を受けていることが予想された。

平成21年10月20日、建設予定地に6本のトレチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。当初の予想通り建屋範囲は搅乱を受け遺構は遺存していなかったが、調査区北西に設定したトレチの地表下80cmにて複数の土坑と遺物を確認した。このため本調査へ移行し、11月2日まで調査を実施した。調査終了前の10月31日に周辺住民向けに発掘調査地元説明会を開催し、約20名の参加を得た。

平成30年度、出土遺物の実測・撮影・済書等の整理作業を行った。

2. 遺構と遺物

出土した主な遺構は、江戸時代の土坑7基、井戸跡1基、溝状遺構1条などである。遺物は、各遺構内でまとめて出土している。特にSK2・3は規模が大きい火災処理土坑である。

出土遺物は、18世紀後半以降の陶磁器類が最も多く、17世紀初頭と考えられる遺物が若干出土している。各遺構は、出土した遺物を基本に遺構時期を比定した。

土 坑

SK1・2・3（第4～15図）

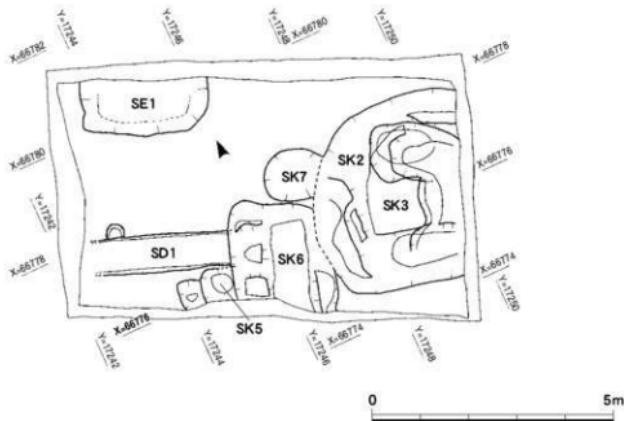
調査区中央東より検出した。東端部は調査区外となり全形は不明である。SK3は北-南方向に3.6m、東-西方向に2.9m+α、深さ1.5mを測る規模の大きい土坑である。断面形状は北と西側法面が所々段を呈し、南の立ち上がりは急である。底の形状は中央付近は深さ25～40cmの窪みが2箇所ある。埋土は4・6～10層で、ほとんどに焼土粒や炭粒などが混入している。特に埋土の大半を占める6層は黒褐色を呈し、陶磁器や瓦などを多量に包含していた。焼土や多量の土器を含む埋土の状況から、本遺構は火災処理遺構であると考える。その時期は出土する遺物の大半が18世紀後半以降の所産であるため、その頃に構築された遺構であろう。

SK2はSK3内で検出した遺構であるが、明確なプランを形成していないため、SK3が埋まる途中もしくは、埋没後に構築された土坑と考えられる。遺物はSK3出土資料の所産時期と大差ないことから同時期に構築されたものであろう。

SK1は調査区東壁で検出した土坑である。SK2・3埋没後、構築されたと考えられる。時期的には



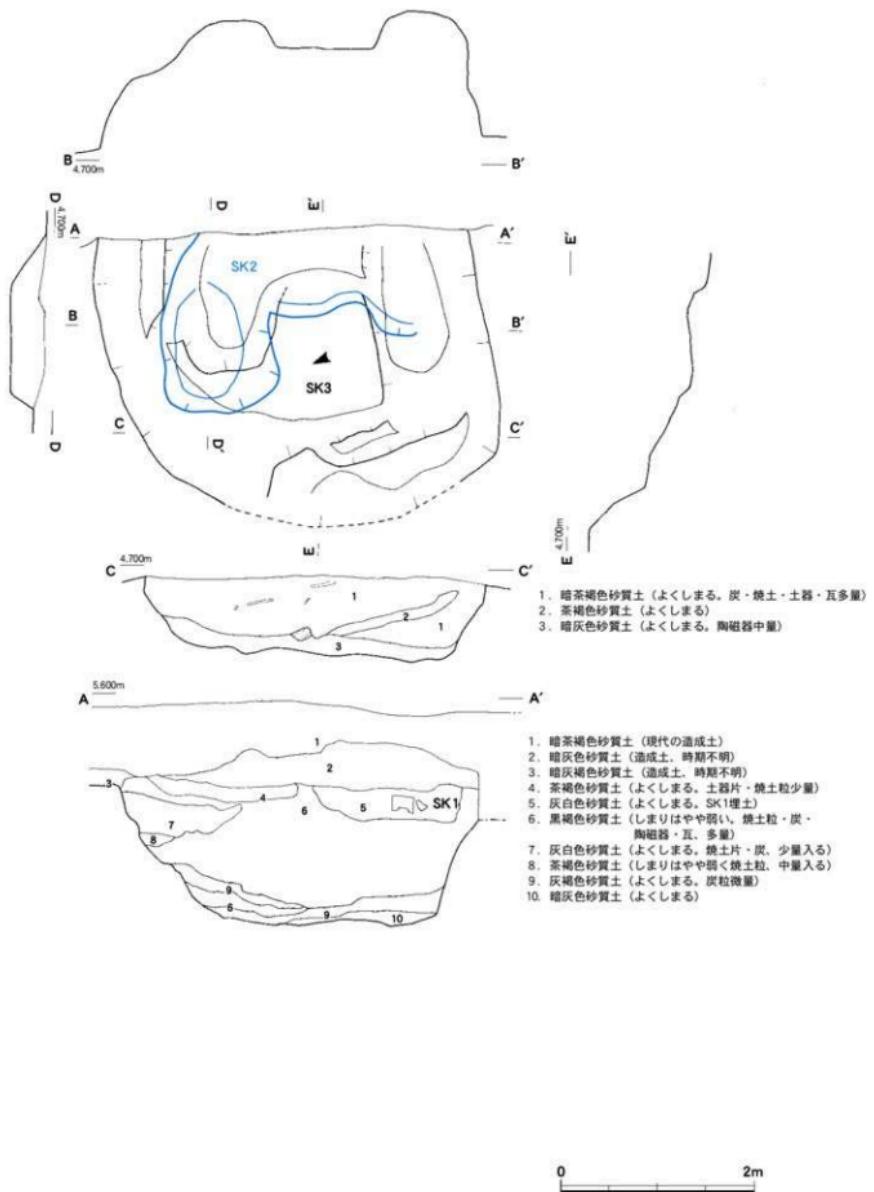
第2図 城下町12次 調査区位置図



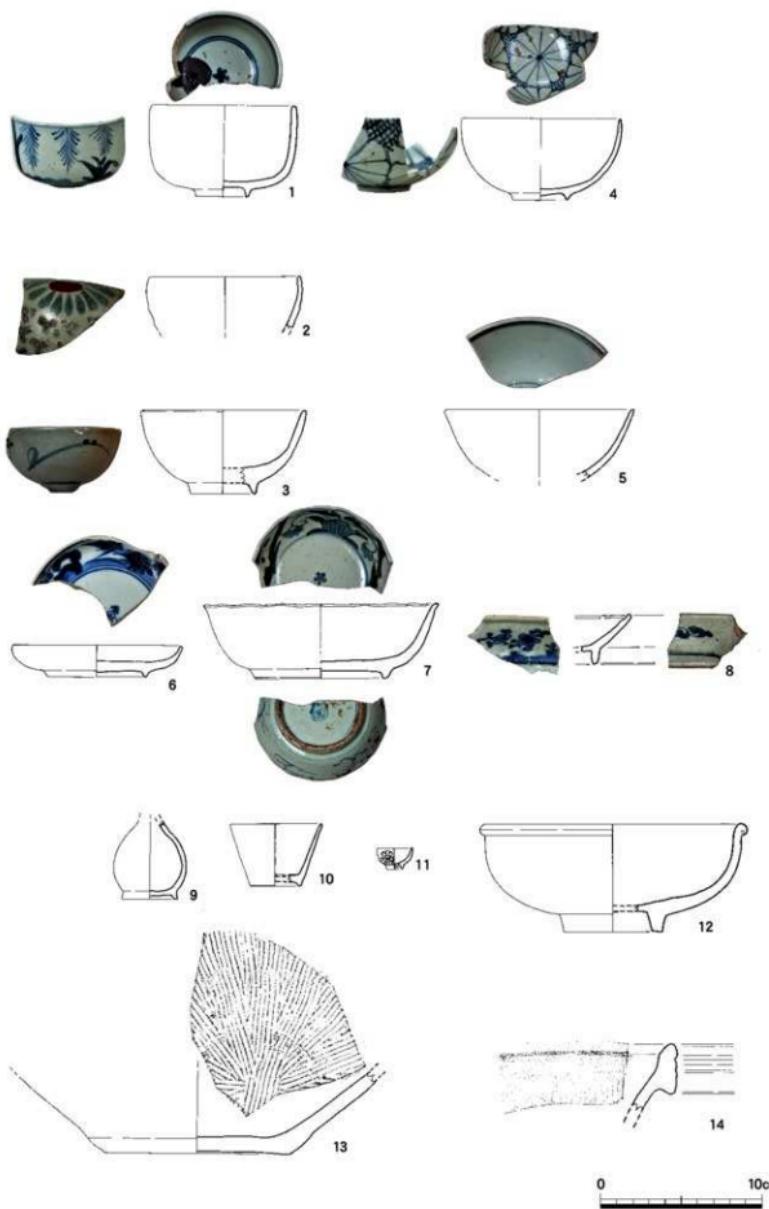
第3図 城下町12次 遺構配置図 (S=1/100)

SK2・3に近い構築時期と考えられる。

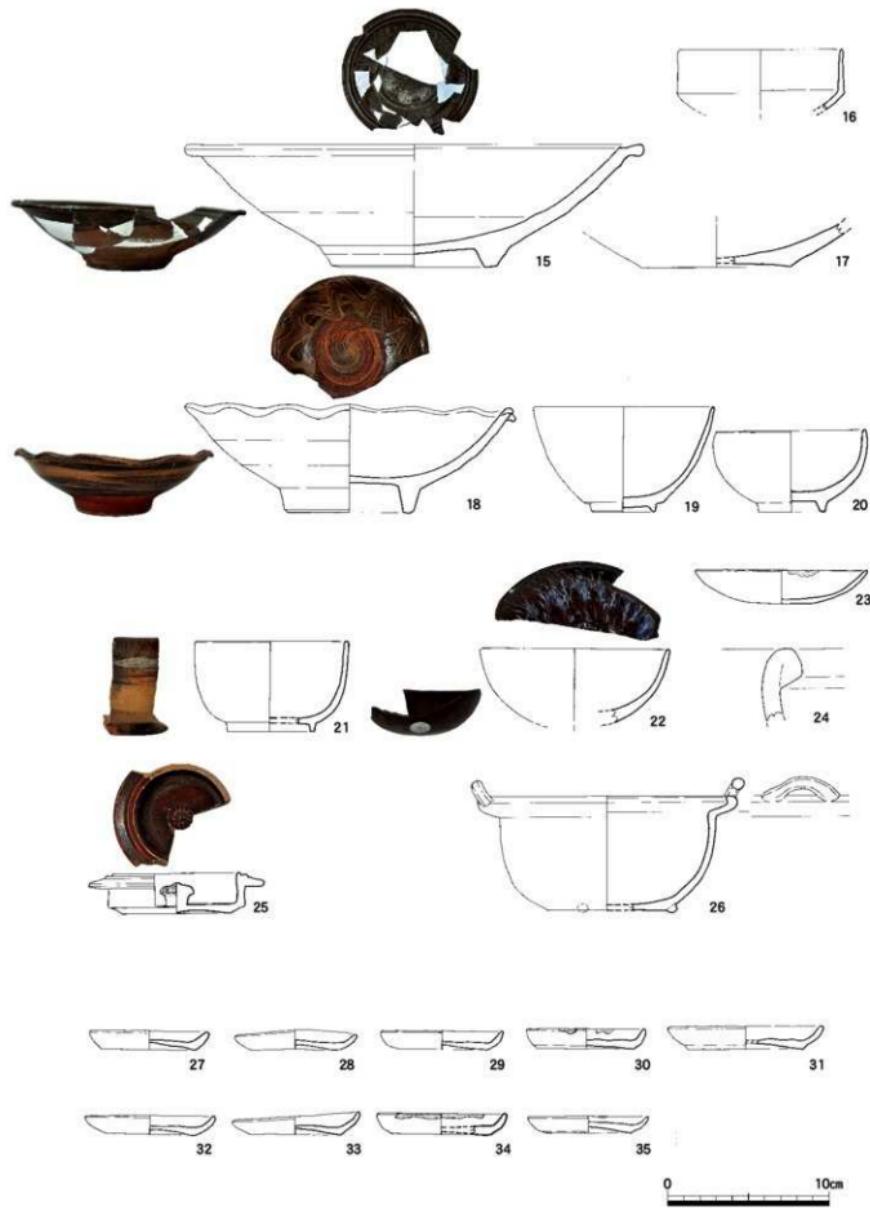
1～165はSK2・3から出土した遺物である。1は肥前系磁器碗。18世紀後半以降の所産か。2は外面に日輪を描く。時期不明。3は陶胎染付碗。17世紀後半～18世紀前半の時期。4～11は18世紀後半以降と考えられる肥前系磁器類。4は内外面に菊花文を描く。6は皿。見込みの紋様は松竹梅か。7は鉢で、縁は輪花状とする。8は内面に梅樹を描く。9は瓶。10は猪口。11はまごと碗か。12～26は陶器。12は鉢。13・14は擂鉢。スリ目は密に入る。15～18は鉢。15は肥前系。内外面に刷毛目を施す。17世紀後半～18世紀前半。18は内面にのびやかな波状文を施す。19～22は碗。21は貫入が見られる。23は皿。24は壺の口縁部か。25は鉄軸を施した蓋。つまみ部は菊花状を呈す。26は陶器の鍋。取手部が2つある。27～35は土師器の小皿。底部は糸切り。30・32・34・35は灯明皿として使用されている。36～41は土師質土器。36・37は鉢。38～40は高村焼の焰焰。41は火鉢か。42・43は用途不明の銅製品。44は陶胎染付のくらわんか碗。17世紀後半～18世紀前半。45～47、49～91は磁器。45～53は碗。45は外面下位に梅樹を描く。47は紅葉を描く。48は陶器で唐草を描く陶胎染付碗。49は白磁。50は家屋や松を描く広東碗。庭園がモチーフか。1780～1810年代の所産。54は小坪。55～62は皿で、55・56・58は口縁部を輪花とする。55は見込みに「太明成〇〇製」の銘あり。56は内面に丁寧に青海波などを描く。57は動物を描く。龍か。58は内面に鶴を描く。59は青磁釉を施す。60は内面に見込み釉剥ぎが残る。61は内面に梅花と唐草文を施す。62は型打ちの製品か。63～67は瓶。いずれも透明釉を掛ける。68・69は皿。70は鉢。高台に二重圓線を巡らす。71～73は小坪。71は見込みに籠を描く。75は唐草文を描く。76～80は猪口である。81は蓋。82～84は壺。84は油壺か。85・86は火入れ。87は用途不明。88は仏花瓶。89は湯のみ。見込みに継いた痕跡あり。90・91は香炉であろうか。92～130、134～143は陶器。



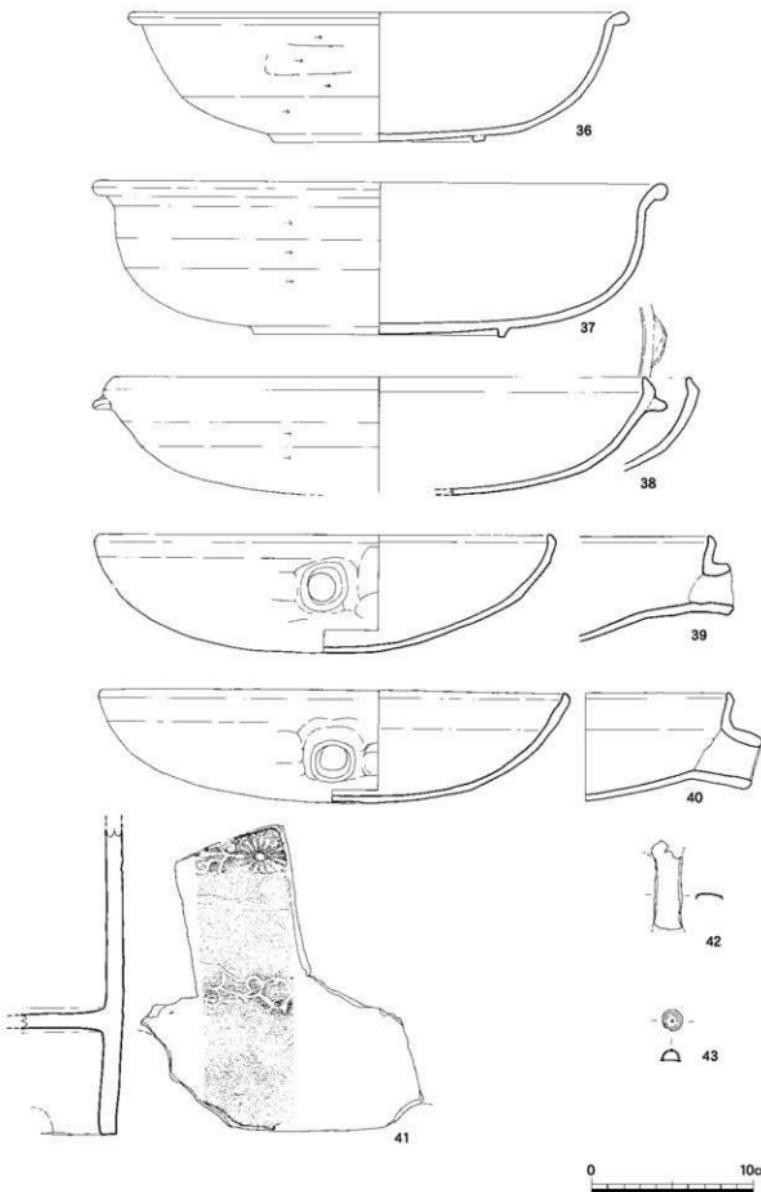
第4図 城下町12次 SK1・2・3 平・断面・土層図 (S=1/50)



第5図 城下町12次 SK2 出土遺物 (1) (S=1/3)



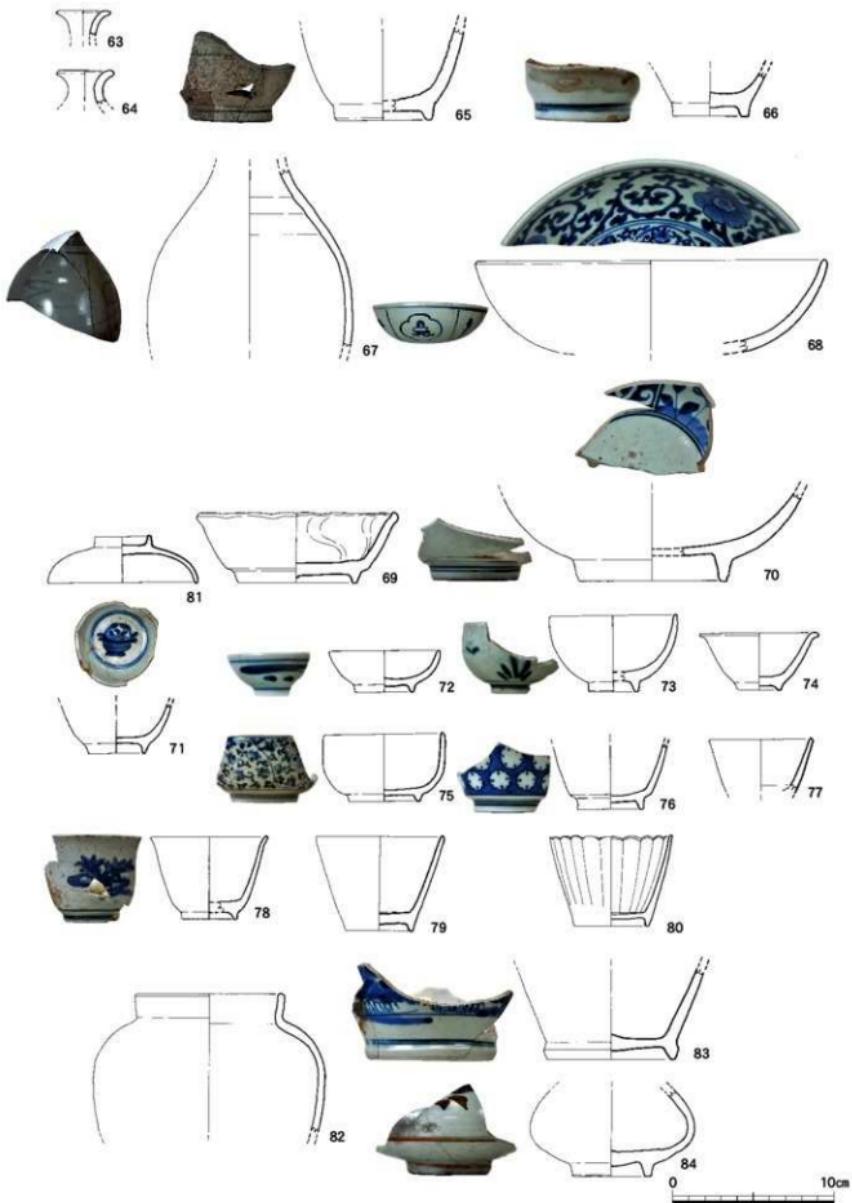
第6図 城下町12次 SK2 出土遺物 (2) (S=1/3)



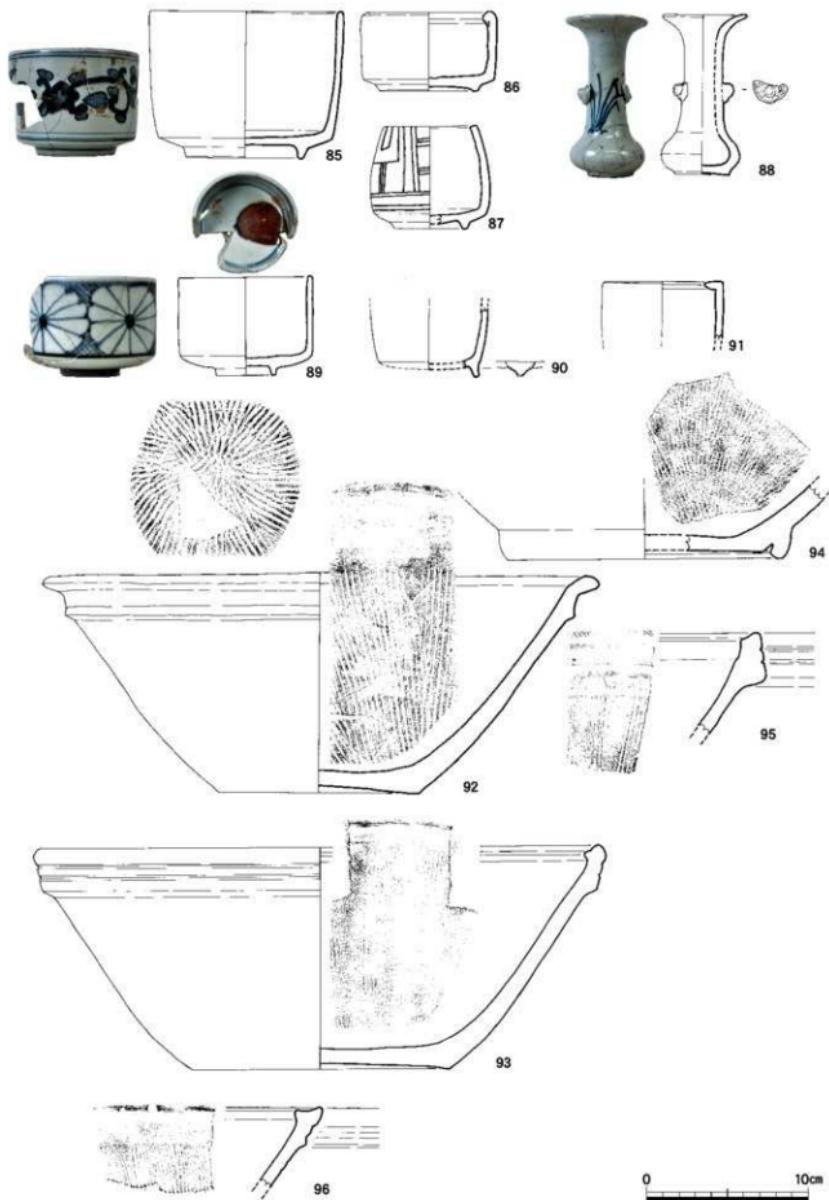
第7図 城下町12次 SK2 出土遺物(3) (S=1/3)



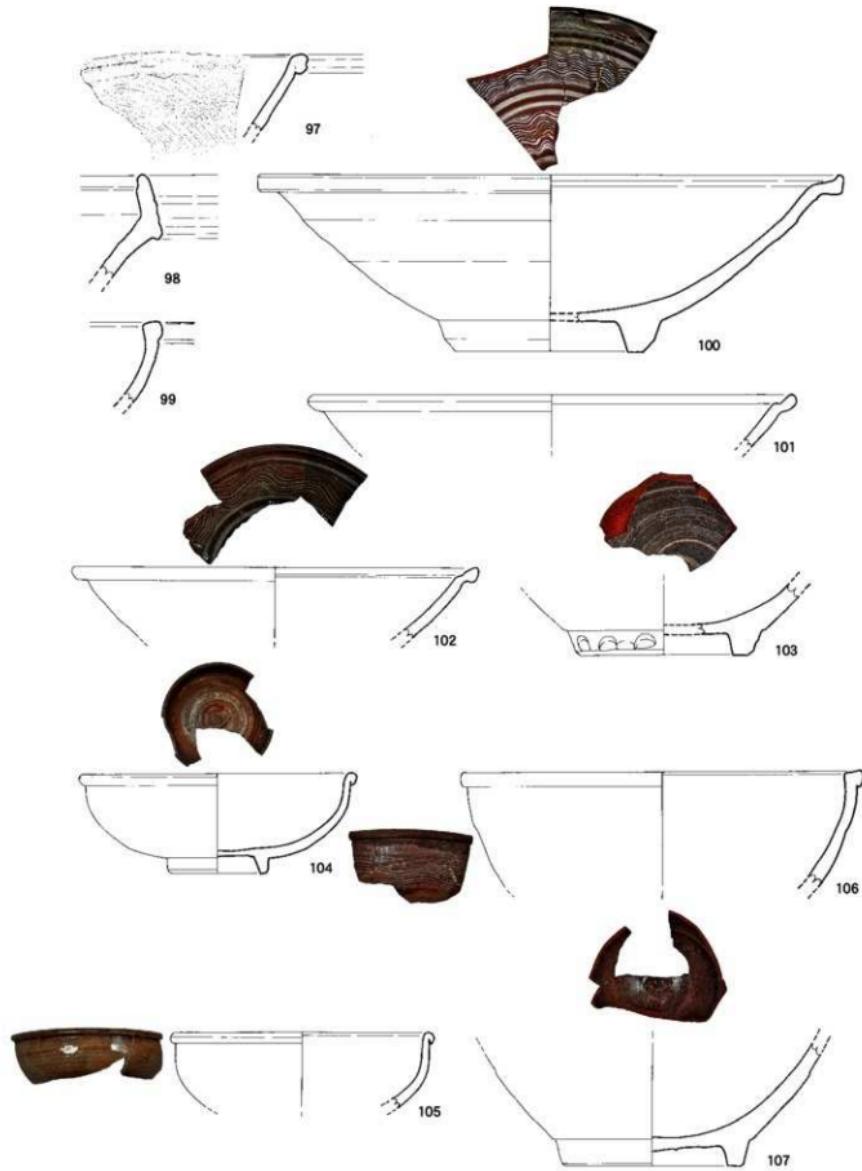
第8図 城下町12次 SK3 出土遺物 (1) (S=1/3)



第9図 城下町12次 SK3 出土遺物(2) (S=1/3)

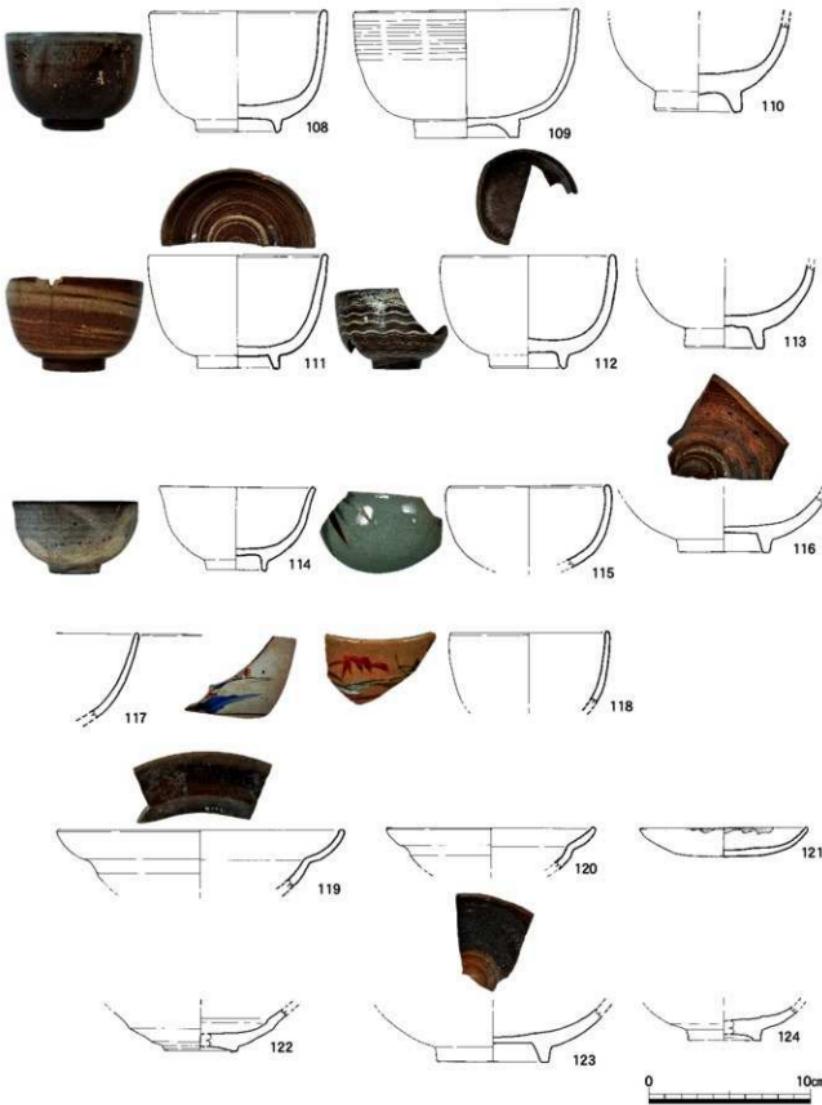


第10図 城下町 12次 SK3 出土遺物 (3) (S=1/3)

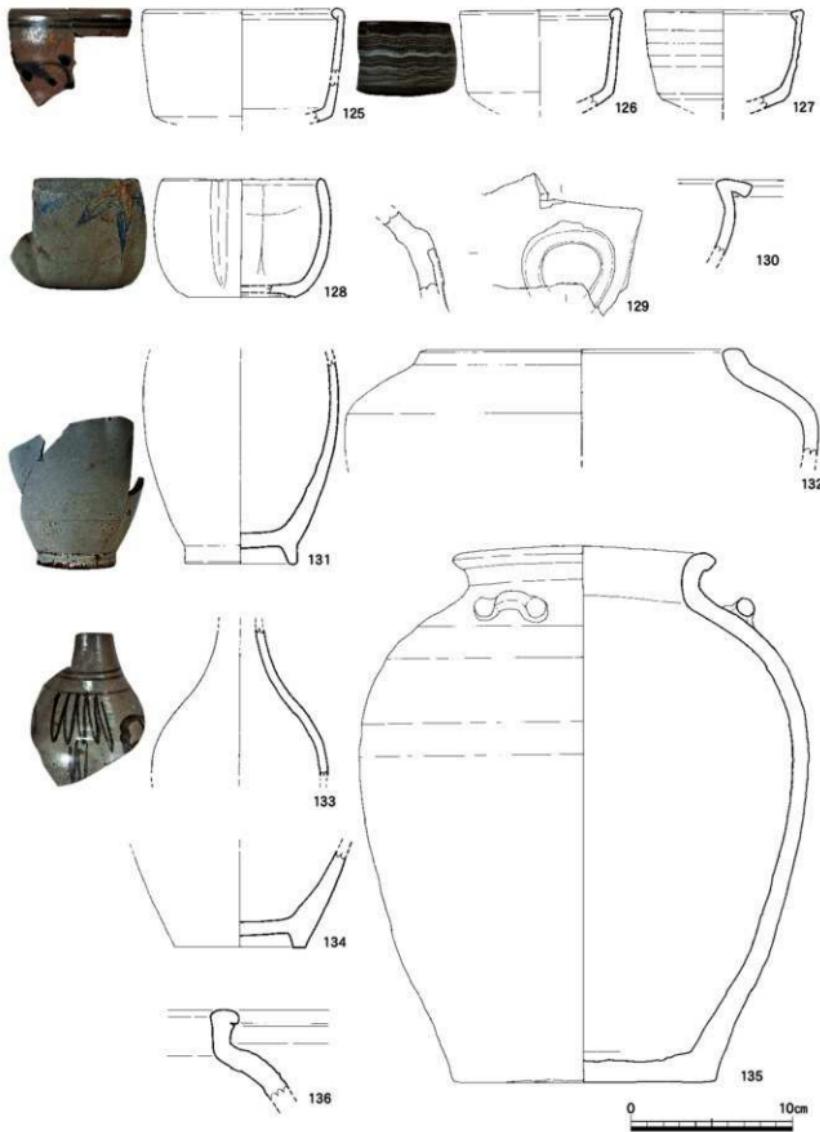


0 10cm

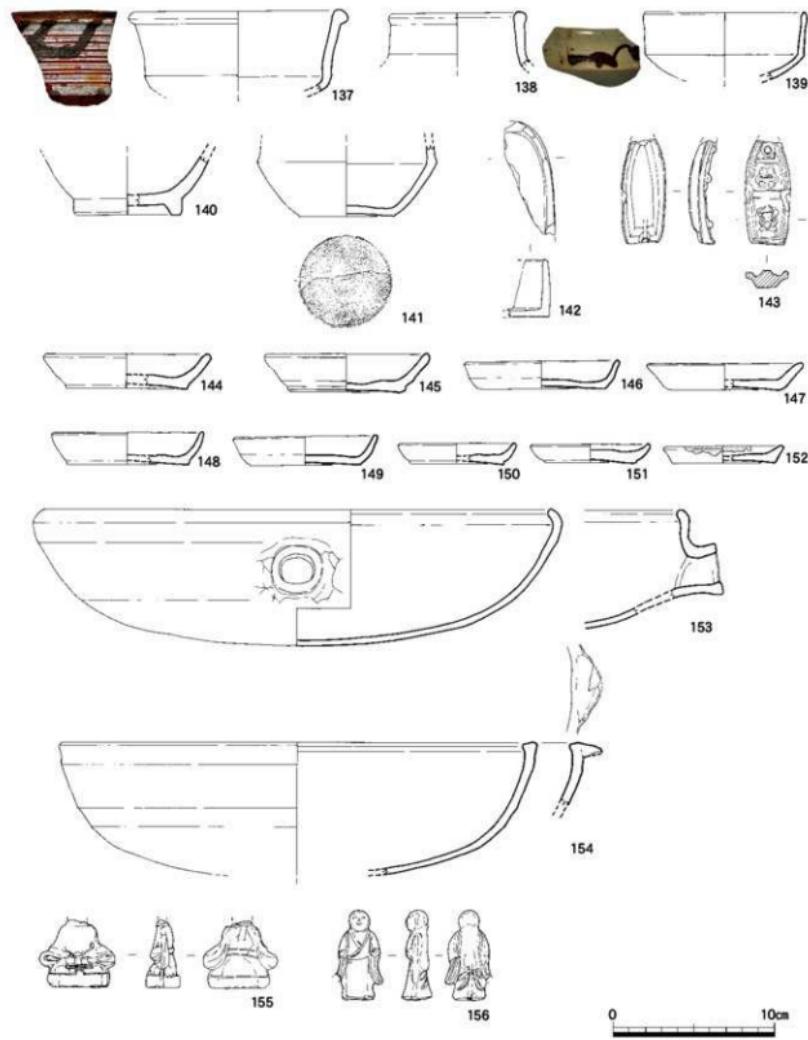
第11図 城下町12次 SK3 出土遺物(4) (S=1/3)



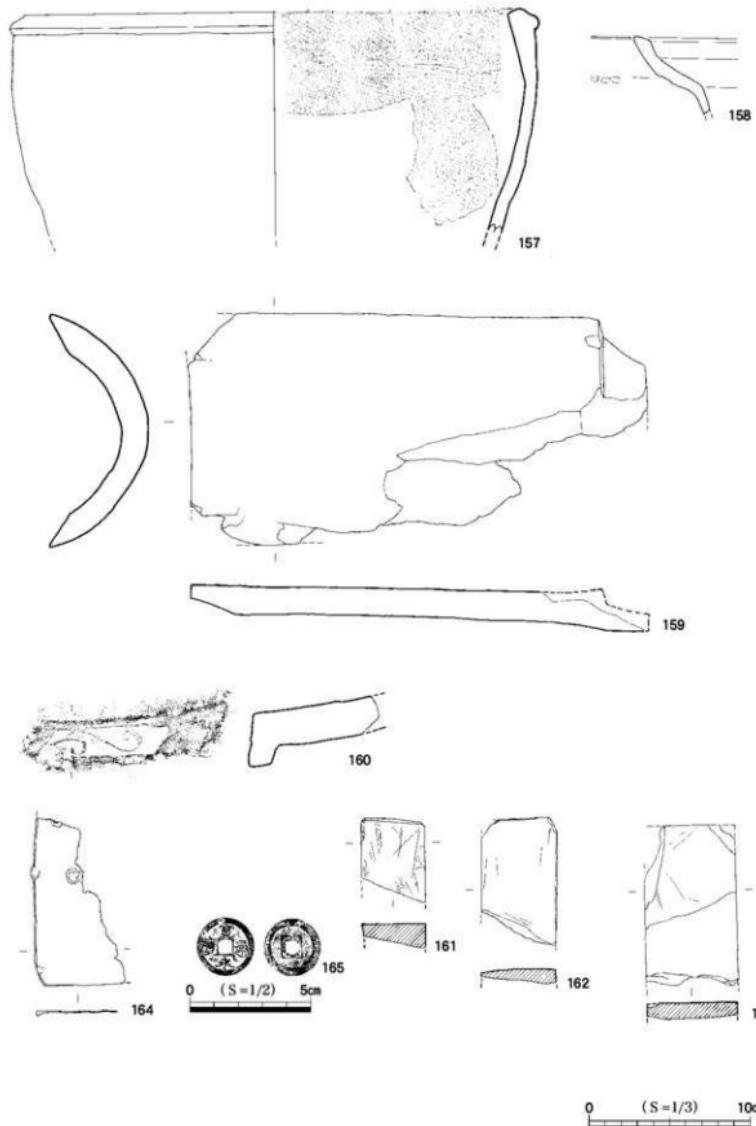
第12図 城下町12次 SK3 出土遺物(5) (S=1/3)



第13図 城下町12次 SK3 出土遺物 (6) (S=1/3)



第14図 城下町12次 SK3 出土遺物(7) (S=1/3)



第15図 城下町12次 SK3 出土遺物(8) (S=1/3、S=1/2)

92～97は擂鉢。98～107は鉢。100は見込みに刷毛目を施す。102は17世紀後半～18世紀前半の時期。104～107の口縁部は玉縁状を呈す。108～118は碗。112は肥前系。現川焼か。17世紀後半～18世紀前半の所産。119～123は皿。121は器高が低い。124は碗の底部。125～128は火入れ。口縁端部を内側に肥厚させることが特徴。125は陶胎染付。126は肥前系。現川焼か。17世紀後半～18世紀前半の所産。128は外面に植物の葉を描く。129は甕。130は鉢。131は磁器の瓶。132は土師質土器の壺。133は磁器の瓶。船利利か。134は瓶の底部。135～142は陶器。135は頸部下に取手を有す。136は備前焼の壺。137は碗か。138は壺であろう。139は碗か。口縁部は直立する。140は瓶の底部か。141は用途不明の底部。142は瓶蓋。143は舟をモチーフにしたミニチュアの陶製品。144～152は土師器の小皿。153～154は瓦質土器で焙烙。高村焼。155は土製品。神官か。156は陶製品。僧侶のモチーフか。157～158は瓦質土器。157は甕か。158は火消し壺か。159は丸瓦。160は軒平瓦。唐草を施す。161～163は小型の砥石。164は用途不明銅製品。165は寛永通宝。

SK5 (第16図)

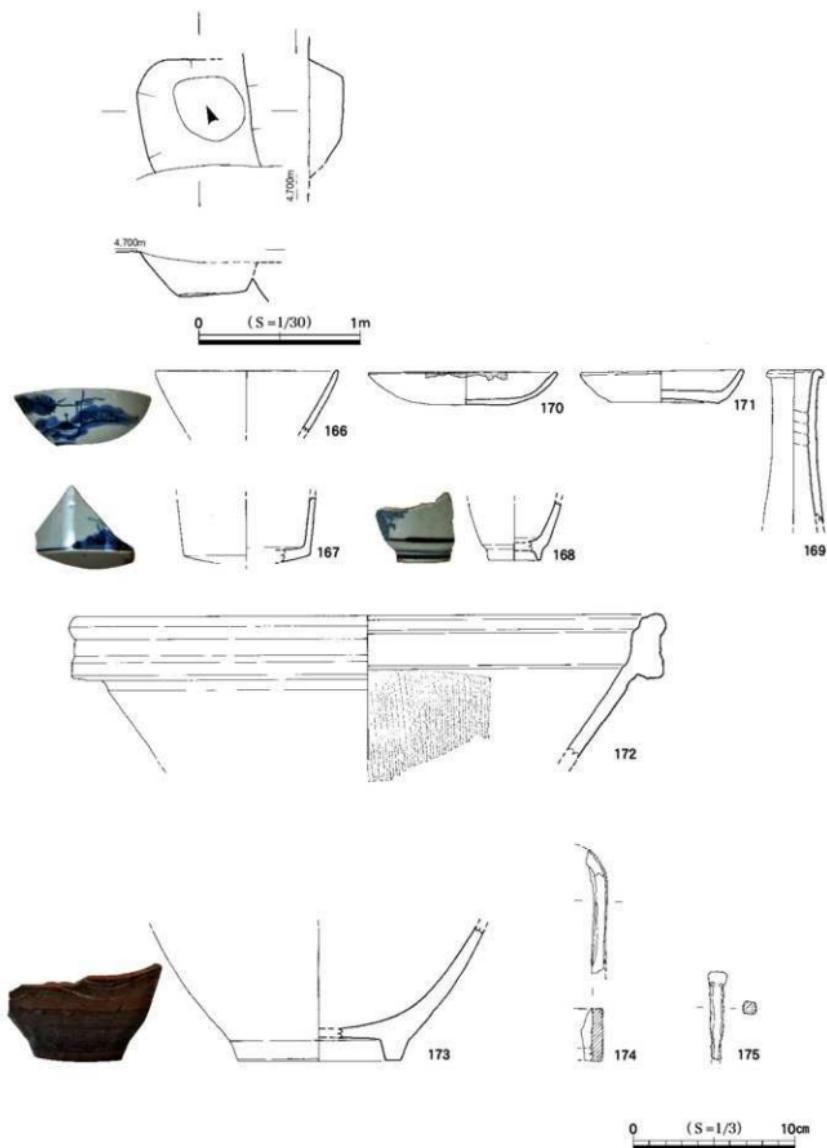
調査区中央南で検出した。南端は調査区外となり全形は不明。後述するSK6に切られ、西側は別の小遺構を切る。北-南方向に $75 + \alpha$ cm、東-西方向に70cm、深さ35cmを測る。遺物は中量出土している。遺構の時期は出土する遺物から18世紀後半以降の所産と考えられる。

166～169は磁器。166は碗。外面に山や家屋を描く。18世紀以降の所産。167は湯のみ。168は猪口。外面にコンニャク印判あり。169は瓶。170・172～174は陶器。170は皿。171は土師器の皿。172は擂鉢。173は鉢。17世紀後半～18世紀前半の時期。174は瓶蓋。175は鉄製品で釘。

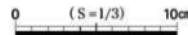
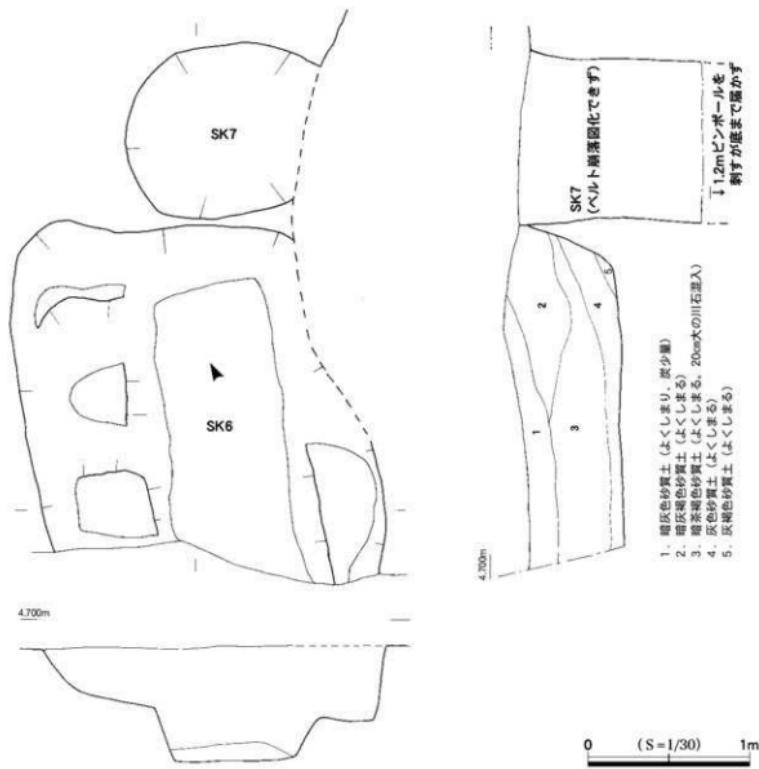
SK6 (第17～21図)

調査区中央で検出した円形の土坑である。SK2・3に東端を切られる。北-南方向に2.1m、東-西方向に2.15m、深さ70cmを測る。底面は西と東側に一段テラス面を有する。埋土の層厚は厚く、一括して埋められた遺構と考えられる。遺物が多く出土しているため廃棄土坑と考えられる。出土遺物から遺構の時期は18世紀後半以降の所産であろう。

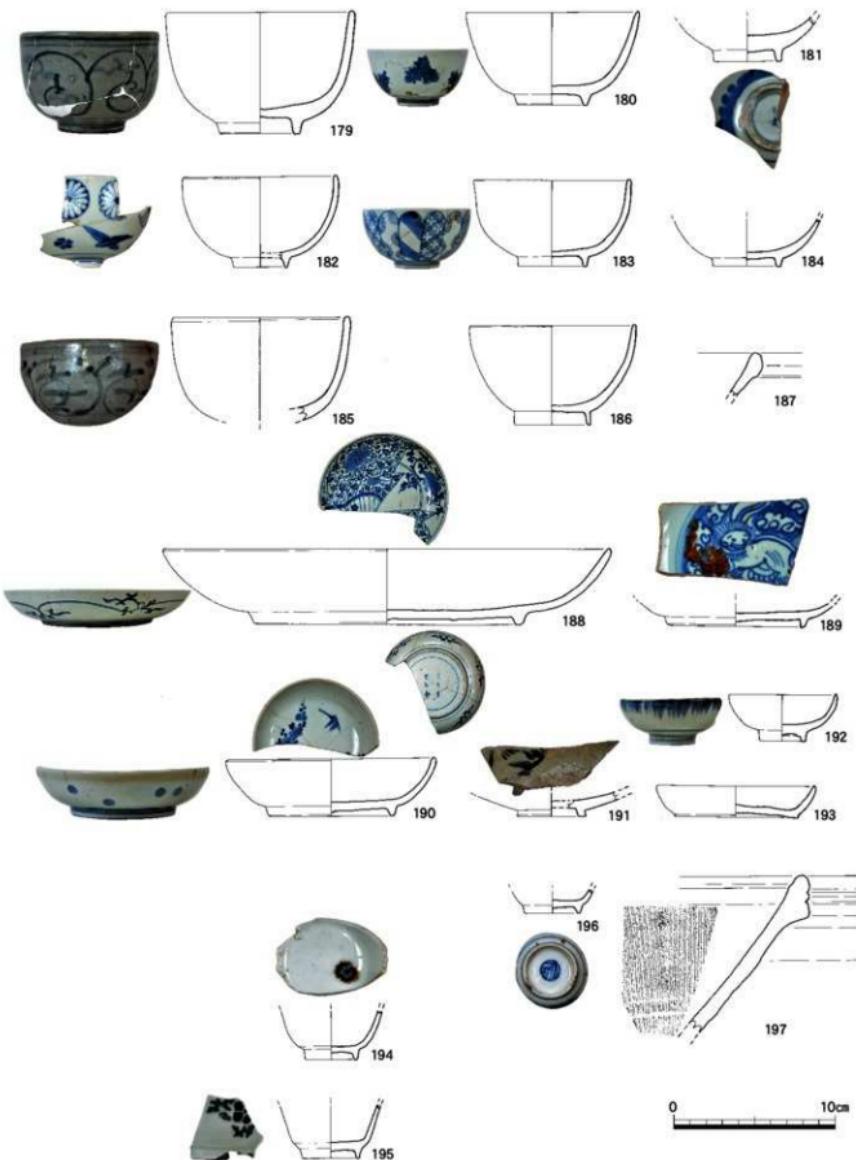
176・179は陶胎染付の碗。17世紀後半～18世紀前半。177・178は磁器の碗。177は外面にコンニャク印判を施す。18世紀代の時期であろう。180～184は磁器の碗。180は外面に紅葉のコンニャク印判を施す。182は菊花文とする。183は蓮弁何に四方擗文とする。185は陶胎染付碗。186～190は磁器。186・187は碗。187は中国製で11世紀後半～12世紀代の時期か。188～191は磁器の皿。188は内面に花唐草を描く大盤。底面に「大明成化年製」あり。189は内面に動物を描く。190は内面に梅の木と鳥を描く。192は磁器小壺。雨降り文を描く。193は土師器小皿。口縁部にスス付着。194～196は磁器で猪口。195の外面紋様は不明。高台に砂目跡あり。197～209は陶器。197は関西系の擂鉢か。198・199は鉢。200～206は碗。200は刷毛目を一周させる。203・205などと同種であろう。206は底面に刻印あり。207は皿。208は鉄軸を施す蓋。209は壺か。210～227は土師器の小皿。口縁部にススが付着しており灯明皿として使用されている。228～232は土師質土器。228～231は焙烙。229は口縁部に穿孔あり。232は鉢の底部。233～237は土製品。233は土鉢。英彦山の土産品か。234～236は土錘。237は蓋か。238～242は鉄釘。242は銅製のキセルである。



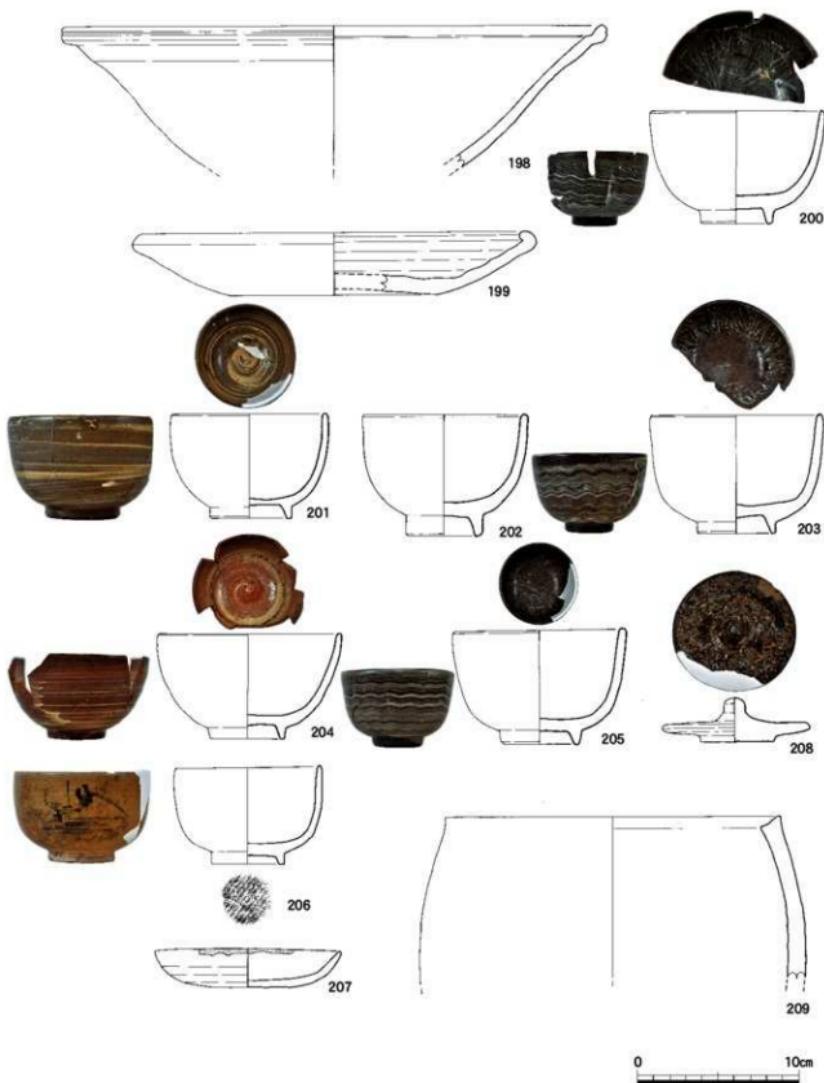
第16図 城下町12次 SK5 平・断面図 ($S=1/30$) 出土遺物 ($S=1/3$)



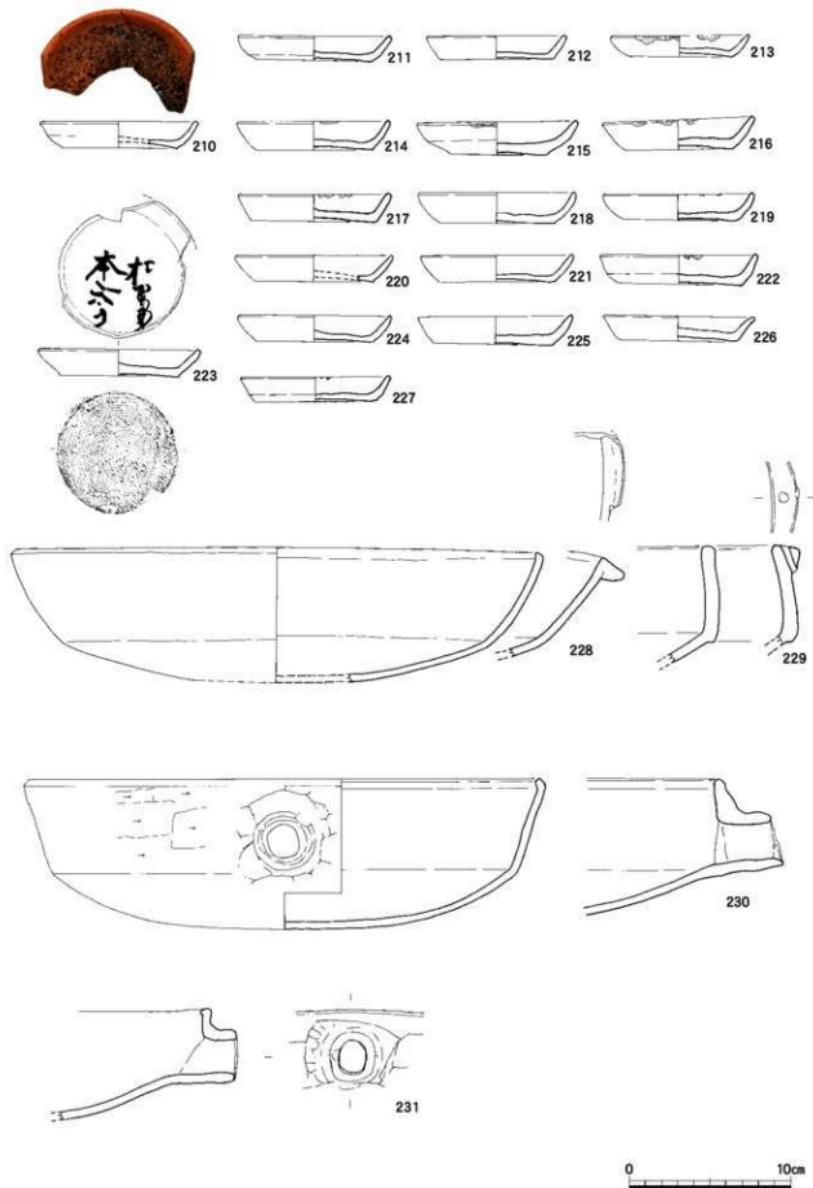
第17図 城下町12次 SK6・7 平・断面・土層図 (S = 1/30) SK6 出土遺物 (1) (S = 1/3)



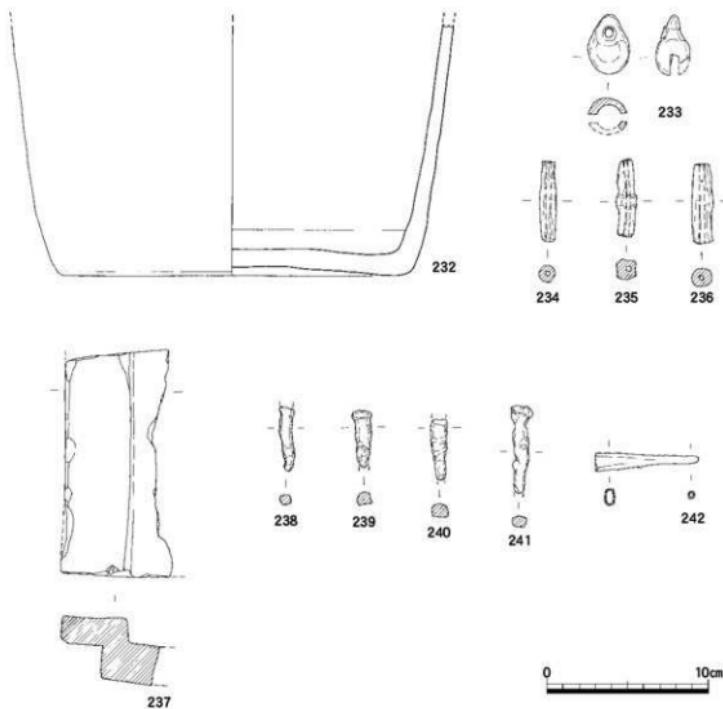
第18図 城下町12次 SK6 出土遺物 (2) (S=1/3)



第19図 城下町12次 SK6 出土遺物(3) (S=1/3)



第20図 城下町12次 SK6 出土遺物 (4) (S=1/3)

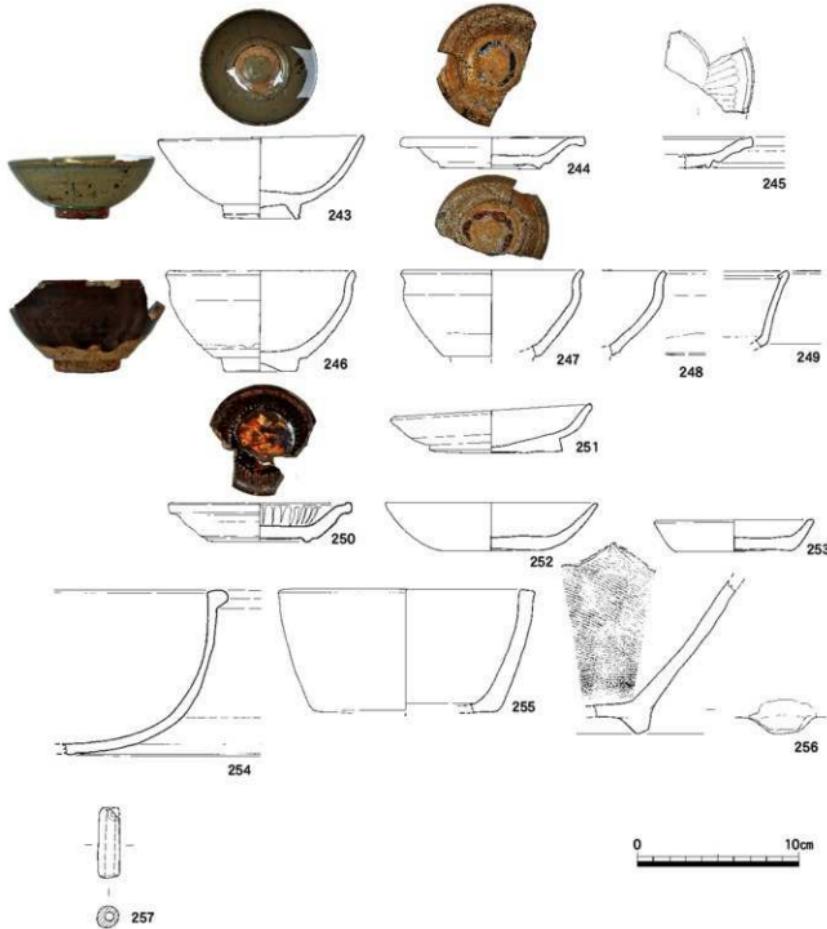


第21図 城下町12次 SK6 出土遺物(5) (S=1/3)

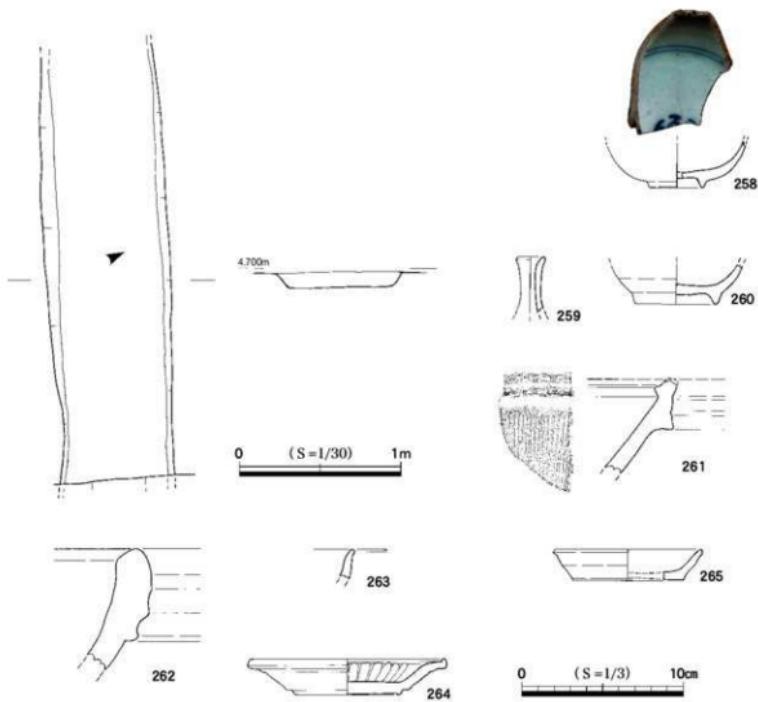
SK7 (第17・22図)

調査区中央で検出した円形の土坑である。SK2・3に東端を切られる。直径1.05m、深さ70cmを測る。1.1mほど掘削したが遺構底面まで到達せず、長さ1.2mのピンボールを刺したものの硬化層に届いていない。これらの状況から本遺構は井戸跡の可能性もある。遺物は少量出土しており、16世紀後半～17世紀前半の所産である。遺構の埋没時期は17世紀前半と考えられる。

243は漳州窯の磁器碗。見込みは蛇ノ目釉剥とする。16世紀末葉の所産。244～250は陶器。244・245は肥前(唐津系)溝縁皿。1600～1630年の所産。244は底部に目跡あり。246～248は瀬戸美濃産の天目茶碗。16世紀後半の所産。249は陶器の火入れ。250は花弁状の彫り込みあり。251～253は土師器の皿。251の底部はヘラ切りか。高台があることが特徴。254～256は瓦質土器の鉢。257は土鍤である。



第22図 城下町12次 SK7 出土遺物 (S=1/3)



第23図 城下町12次 SD1 平・断面図 ($S = 1/30$) 出土遺物 ($S = 1/3$)

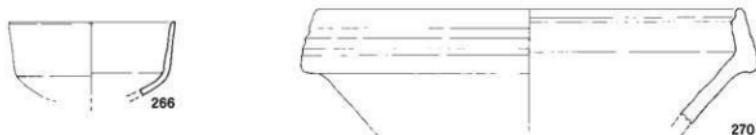
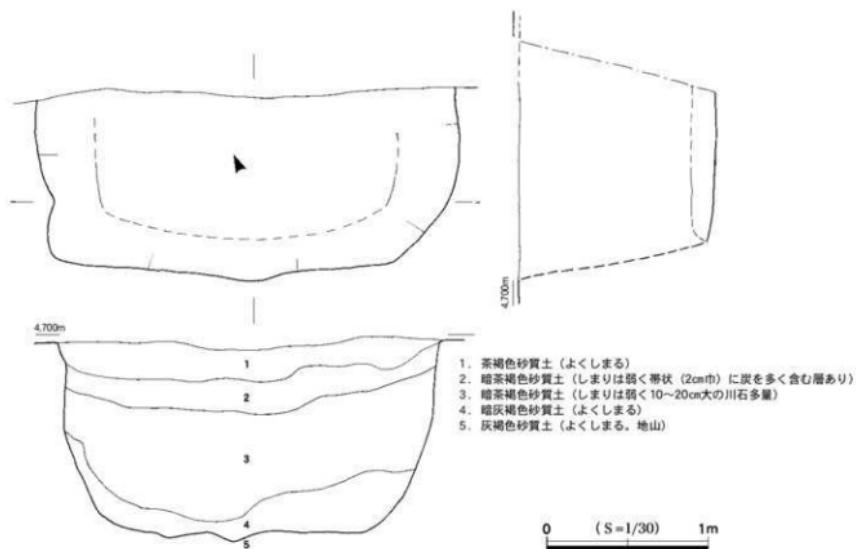
SD1 (第23図)

調査区南西で検出した。長さ2.75m、幅75cm、深さ10cmを測る溝状遺構である。西端は削平を受けたためか遺存せず、東端はSK6により切られる。遺構の時期は遺物から18世紀後半以降の所産と考えられる。

258～260は磁器。258は見込みに五弁花を描く。259・260は瓶。261～265は陶器。261は捕鉢。262は備前焼の甕。263は碗。264は肥前系溝線皿。1600～1630年代の所産。265は土師器の皿である。

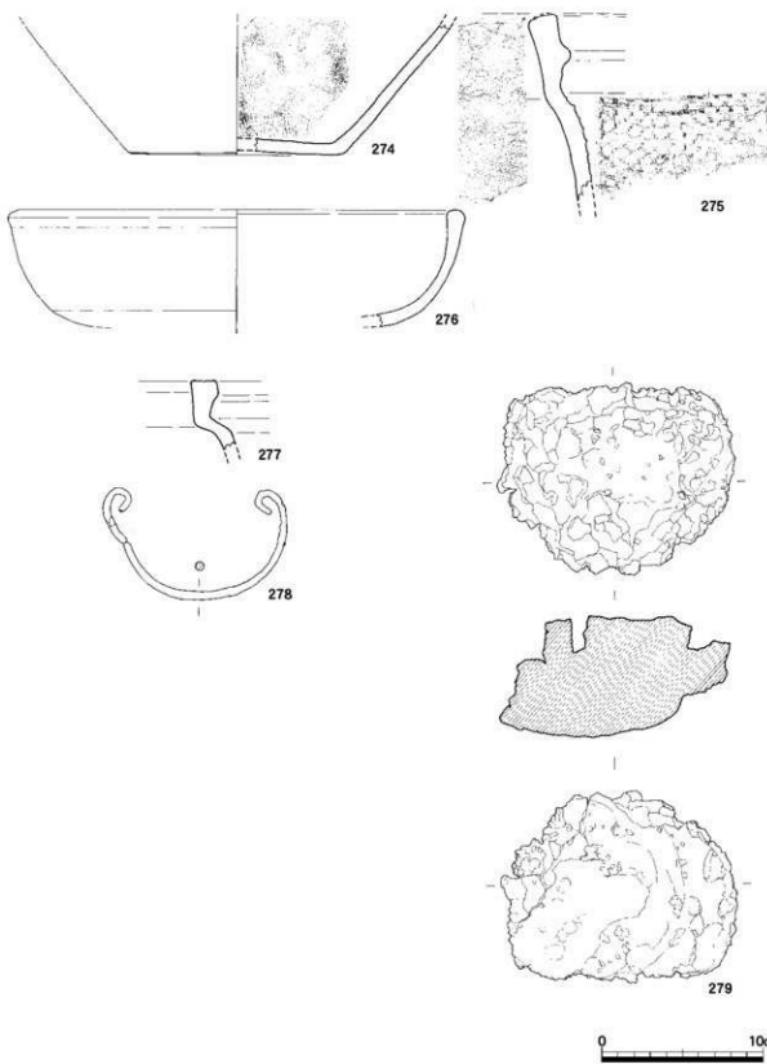
SE1 (第24・25図)

調査区北西端で検出した。北端は調査区外となり全形は不明。北-南方向に1.1m、東-西方向に2.35m、深さ1.3mを測り、隅丸長方形を呈する。層序は茶褐色や灰褐色を基調とするが、3層は層厚60cmほどあり、人為的に埋め戻されたものと考える。調査時点は井戸遺構として調査したが、土坑の形状や深さが浅いことから、土坑とした方がよいかもしれないが、本報告では調査所見を尊重し、井戸遺構として報告する。遺構の埋没時期は遺物から17世紀前半の所産と考えられる。

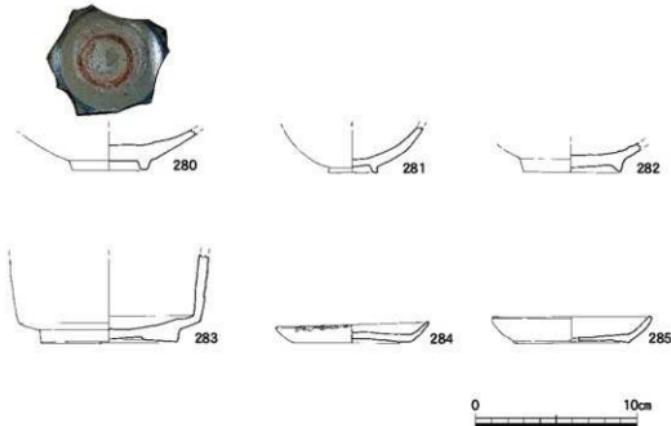


0 (S = 1/3) 10cm

第24図 城下町12次 SE1 平・断面・土層図 (S = 1/30) 出土遺物 (1) (S = 1/3)



第25図 城下町12次 SE1 出土遺物(2) (S=1/3)



第26図 城下町12次 一括出土遺物 (S=1/3)

266・267は磁器。266は碗か。267は皿。268～272は陶器。268は瓶。269は備前焼の壺。270は鉢か。271・272は瀬戸美濃産の天目茶碗。16世紀後半の所産。273は土師質土器でこね鉢。274～277は瓦質土器。274は擂鉢。スリ目の間隔は広い。275・277は甕。275は外面に平行タタキを施し口縁部に段を有す。17世紀前半の所産。276は焙烙か。278は銅製品。取手部。279は碗型滓。重さ1,171gある。

一括 (第26図)

調査区内で検出した一括遺物については次のとおりである。280は磁器の皿か碗。281は陶器で碗。282は磁器碗の底部。蛇ノ目釉剥とする。283は陶器で火入れ。284・285は土師器の皿。284はススの付着から灯明皿と考えられる。

3. 小結

12次調査区は既設建物の基礎の影響を受け遺存状態は良好ではなかった。遺構を確認できた範囲はわずかであったが、中津城下町の歴史を考える上で貴重な調査となった。

遺構は標高4.5m付近で検出され、廃棄土坑が主体、溝跡や井戸が少数であった。検出された遺構は17世紀前半頃に埋没したSK7・SE1が最も古い。それ以前の遺物はSK6より11世紀後半頃の白磁口縁部が1点出土した。18世紀後半以降はSK2・3・6が構築されている。これらの遺構は多量に遺物が出土するため廃棄土坑と考えられる。特にSK2・3は多量の遺物と共に炭や焼土も多く包含しており、建物火災後に構築された火災処理土坑と思われる。この土坑は、最大長3.6m、深さ1.5mを測りその規模の大きさが特筆される。

次に、江戸期の当調査区の土地利用について概観する。幕末に描かれた絵図によると当地には

「逸見栗蔵」の名が見える。逸見栗蔵は御供番の家格で禄高は200石。間口は東側の道路に面している。火災処理土坑SK2・3はこの間口付近に構築されていることになる。往時この付近で建物火災があったことになるが、火災はSK2・3の規模からみて数棟以上に及んだものと推定される。

奥平時代に起きた火災は下記が知られている。火災は、奥平氏が入部した1717（享保2）年～19世紀中頃にかけて5回発生している。このうち京町付近の火災は、1717年の殿町などを焼いた火災があるが、SK2・3構築以前の火災であり、本火災処理土坑と関連しないものと思われる。文献に現れない火災も存在したと思われるため、現時点では本遺構を18世紀後半以降に起きた火災処理土坑と考えておく。

表1 奥平時代火災史（今永正樹「ふるさと年表」より）

1717年(享保2)	11月11日朝、殿町より出火、新博多町、古魚町、江戸町(枝町)を全焼、古博多町半分などを焼く。(罹災230軒)
1734年(享保19)	12月、古博多町より出火、寺町に延焼、7ヶ寺、約160戸焼く。
1783年(天明3)	4月、船町出火、29戸焼く。
1827年(文政10)	9月、蛎瀬出火、174戸焼く。
1853年(嘉永6)	2月、中津下小路の「日田蔵」より出火、85戸焼く。



完成した市営京町住宅

表2 城下町12次出土遺物観察表(1)

遺物 番号	出土遺構	器種	法量(cm)		成形	装飾			底面 内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径		染付	透明釉	外:四方押見込・五弁花 外:日輪?				
1 SK2	磁器・碗		5.6	(8.8)	3.2	口クロ	染付・透明釉	コニャク 目跡?		肥前	18C後半~	
2 SK2	磁器・碗		(3.3)	(9.6)		口クロ	色絵?・透明釉	外:日輪?				反転復元
3 SK2	陶器・碗		5.1	(10.2)	(4.0)	口クロ	染付・透明釉	外:草花文		肥前	18C後半~	くわんか手 反転復元
4 SK2	磁器・碗		5.0	(9.9)	3.4	口クロ	染付・透明釉	外:格子地に菊花文 内:格子地に菊花文	見込に砂目跡	肥前	18C後半~	反転復元
5 SK2	磁器・碗		(4.2)	(20.6)		口クロ	染付・透明釉			肥前	18C後半~	瑞反鏡 外面は褐色の釉
6 SK2	磁器・皿		1.9	(10.4)	(6.1)	口クロ	染付・透明釉	外:唐草 内:松竹梅? 見込・五弁花		肥前?	18C後半~	反転復元
7 SK2	磁器・鉢		4.6	(14.4)	(8.1)		染付・透明釉	外:唐草 内:松竹梅? 見込・五弁花	コニャク 目跡?	肥前	18C後半~	反転復元
8 SK2	磁器・皿		3.0	長さ (5.3)	幅 (3.1)	型打	染付・透明釉	外:唐草文? 内:梅樹		肥前	18C後半~	角皿?
9 SK2	磁器・瓶		(4.8)			口クロ	染付・透明釉	外:梅花・竹?		肥前	18C後半~	
10 SK2	磁器・猪口		3.8	(4.7)	(3.1)	口クロ	白磁			肥前	18C前半~	反転復元
11 SK2	磁器・まとごと焼		1.3	(2.2)	(1.0)	型打	白磁	外:花	高台内部に砂目跡	肥前	18C後半~	反転復元
12 SK2	陶器・鉢		6.6	(16.4)	(6.0)	口クロ	透明釉		見込に足見込・田畠ハチ			反転復元
13 SK2	陶器・埴鉢		(5.1)	(11.6)		口クロ	鉄胎					反転復元
14 SK2	陶器・埴鉢		(4.1)			口クロ						反転復元
15 SK2	陶器・鉢		7.5	28.2	10.2	口クロ	鉄胎・白土	内:新毛目	見込に砂目跡	肥前	17C後半~ 18C前半~	SK3・SE1と接合
16 SK2	陶器・鉢?		(3.7)	(10.0)		口クロ	透明釉				関西系?	18C前~19C 反転復元
17 SK2	陶器・鉢		(2.6)		9.2	口クロ	鉄胎					反転復元
18 SK2	陶器・鉢		6.6	20.3	8.0		鉄胎・白土	外:同心円 内:漫巻き・波状文	見込に重ね模 き痕跡	肥前	18C前半	口縁部は輪花
19 SK2	陶器・碗		6.5	(11.1)	4.0	口クロ	鉄胎・白土?	内:梅花(落葉?)				反転復元
20 SK2	陶器・碗		5.0	(9.4)	4.1	口クロ	鉄胎				関西系?	18C末~19C 反転復元
21 SK2	陶器・碗		5.5	(9.3)	(5.4)	口クロ	色絵・透明釉	外:?			関西系?	19C 反転復元
22 SK2	陶器・碗		(4.5)	(11.6)		口クロ	透明釉?・白土	外:裏手(円文) 内:打拂毛		肥前	18C末~ 19C前半	
23 SK2	陶器・皿		2.0	(10.6)		口クロ	鉄胎?					口縁部にスス付裏 反転復元
24 SK2	陶器・甕?		(4.5)			口クロ						
25 SK2	陶器・蓋		2.5	(10.7)		口クロ	鉄胎				関西系	18C後半~ 19C前半 つまみ部は菊花状 の隔壁
26 SK2 [SK3]	陶器・鍋		8.3	15.8	7.0	口クロ	鉄胎	見込にハリ支 え痕跡				口縁部に半周式の取っ手 底部にスス付裏
27 SK2	土師器・小皿		1.1	(7.3)	(5.8)	口クロ						19世紀?
28 SK2	土師器・小皿		1.2	7.5	5.5	口クロ						
29 SK2	土師器・小皿		1.1	7.5	5.8	口クロ						
30 SK2	土師器・小皿		1.2	(7.3)	(6.0)	口クロ						
31 SK2	土師器・小皿		1.4	(9.5)	(7.1)	口クロ						
32 SK2	土師器・小皿		1.1	8.0	5.5	口クロ						
33 SK2	土師器・小皿		1.4	7.8	5.5	口クロ						
34 SK2	土師器・小皿		1.2	(7.9)	(6.1)	口クロ						
35 SK2	土師器・小皿		1.0	7.6	5.3	口クロ						
36 SK2 [SK3]	土師質土器・こね跡		8.0	30.8	12.9	口クロ						
37 SK2 [SK3]	土師質土器・こね跡		9.4	(35.3)	15.4	口クロ						
38 SK2 [SK3]	土師質土器・焙燒		(7.2)	(33.6)		口クロ						
39 SK2	土師質土器・焙燒		7.2	28.7		口クロ						
40 SK2	土師質土器・焙燒		6.9	29.0		口クロ						
41 SK2	土師質土器・火鉢?		(18.8)			口クロ		外:花唐草文の型押				
42 SK2	銅製品・不明		(5.4)									
43 SK2	銅製品・不明		0.7	1.2								
44 SK3	陶器・鍋		7.4	(11.6)	5.2	口クロ	陶胎染付・透 明釉	外:唐草文	高台腹部に砂 目跡	肥前	17C後半~ 18C前半	反転復元
45 SK3	磁器・碗		5.5	10.1	4.4	口クロ	染付・透明釉	外:一瓣樹 底面:「太明年製」		肥前	18C後半~ 19C前半	瑞反鏡
46 SK3	磁器・碗		(4.9)	(10.2)		口クロ	白磁					反転復元
47 SK3	磁器・碗		5.6	(10.8)	4.2	口クロ	染付・透明釉	外:紅葉	コニャク 目跡?	肥前	18C後半~	反転復元
48 SK3	陶器・碗		(6.2)	(11.2)		口クロ	陶胎染付・透明釉	外:唐草文				反転復元
49 SK3	磁器・碗		(3.2)		4.4	口クロ	白磁					反転復元
50 SK3	磁器・碗		6.4	(11.4)	6.2	口クロ	染付・透明釉	外:家屋・松 見込?		肥前	1780~ 1810	広東風、焼き緞あり
51 SK3	磁器・小坪		(3.1)		3.2	口クロ	染付・透明釉	外:?	コニャク 目跡?	肥前	18C後半	半球状
52 SK3	磁器・小坪		5.7	(8.9)	(4.0)	口クロ	白磁					反転復元
53 SK3	磁器・碗		6.5	9.2	3.7	口クロ	青磁		高台腹部に砂 目跡	肥前	18C後半~	
54 SK3	磁器?・小坪		2.0	(5.7)	2.4	口クロ?	白土?					反転復元
55 SK3	磁器・皿		4.1	(14.3)	(8.3)	口クロ?	染付・透明釉	外:唐草文 底面:「太明成(○)製」 内:?	口鉄	肥前	18C後半~	反転復元

表3 城下町12次出土遺物観察表(2)

遺物 番号	出土遺構	器種	法量(cm)		成形	装飾			底面 内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径		繪付施墨	文様	装飾質				
56	SK3	磁器・皿	3.4	19.4	12.0	口クロ	染付・透明釉	外:唐草文 底面:「萬福」 内:鳥・波涛・落・青海波・菊花・草木・青海波	底面にハリ支 え痕跡	肥前	18C後半~	口縁部は輪花
57	SK3	磁器・皿	2.2	(10.3)	(6.2)	口クロ	染付・透明釉	外:?		肥前	18C後半~	反転復元
58	SK3	磁器・皿	3.1	(16.0)	(10.5)	口クロ	染付・透明釉	外:唐草文 底面:「萬福」 内:鳥・青海波・見込:五弁花		肥前	18C後半~	口縁部は輪花 反転復元
59	SK3	磁器・皿	(2.7)		(4.7)	口クロ	青白磁	見込は施八字	肥前			
60	SK3	磁器・皿	3.4	(11.6)	3.4	口クロ	染付?・透明釉	内:?	見込は施八字	肥前		反転復元
61	SK3	磁器・皿	3.5	(13.6)	(8.1)	口クロ	染付・透明釉	外:唐草文 底面:「丁明〇〇」 内:梅花・唐草文		肥前	18C後半~	反転復元
62	SK3	磁器・皿	1.7	長径 (5.4)	3.9	型打	白磁	内:蓮弁状の薬		肥前	1690~ 1740	平面扇円形
63	SK3	磁器・瓶?	(1.6)	3.3		口クロ	透明釉					反転復元
64	SK3	磁器・瓶?	(2.1)	3.6		口クロ	透明釉			肥前		反転復元
65	SK3	磁器・瓶?	(5.6)	5.9		口クロ	染付?・透明釉	外:?				反転復元
66	SK3	磁器・瓶?	(2.8)	4.6		口クロ	染付・透明釉	外:?		肥前	18C後半~	
67	SK3	磁器・瓶	(10.9)	体部径 (10.9)		口クロ	染付・透明釉	外:?		肥前	18C後半~	反転復元
68	SK3	磁器・皿	(5.6)	(21.6)		口クロ	染付・透明釉	外:梅花・唐草文 内:菊花?・唐草文		肥前	18C後半~	
69	SK3	磁器・皿	4.2	12.3	7.3	型打?	青磁	内:雨刷の波状文	底面にハリ支 え痕跡			口縁部は輪花 反転復元
70	SK3	磁器・鉢	(5.3)	(9.0)		口クロ	染付・透明釉	内:枝?	見込に目跡	肥前	18C後半~	反転復元
71	SK3	磁器・小坪	(3.0)	3.5		口クロ	染付・透明釉	見込:かご?		肥前	18C後半~	反転復元
72	SK3	磁器・小坪	2.5	6.8	3.6	口クロ	染付・透明釉	外:?	臺面端部に目跡	肥前	18C後半~	
73	SK3	磁器・小坪	4.7	(7.9)	3.1	口クロ	染付・透明釉	外:?		肥前	18C後半~	反転復元
74	SK3	磁器・猪口	3.5	(7.3)	(2.7)	口クロ	染付・透明釉	外:?	臺面端部に目跡	肥前	18C後半~	反転復元
75	SK3	磁器・小坪	4.1	(7.5)	4.2	口クロ	染付・透明釉	外:唐草文 内:見込:「通福」		肥前	18C後半~	反転復元
76	SK3	磁器・猪口	(4.0)	4.0		口クロ	染付・透明釉	外:?	臺面端部に目跡	肥前	18C後半~	反転復元
77	SK3	磁器・猪口	(3.3)	(6.3)		口クロ	白磁					輪花
78	SK3	磁器・壺	5.0	(7.2)	(3.4)	口クロ	染付・透明釉	外:紅葉?	コンニャク 印相?	肥前	18C後半~	反転復元
79	SK3	磁器・壺	5.8	7.9	4.2	口クロ	白磁			肥前	18C前半~	
80	SK3	磁器・壺	5.6	7.5	4.6	型打?	白磁					
81	SK3	磁器・皿(蓋?)	(2.8)	(9.2)	3.4	口クロ	白磁					反転復元
82	SK3	磁器・壺	(8.4)	9.2		口クロ	染付・透明釉	外:經韻文・柳樹文		肥前	18C後半~	49と同一個体 反転復元
83	SK3	磁器・壺	(5.5)	7.7		口クロ	染付・透明釉	外:?	高台端部に砂 目跡	肥前	18C後半~	48と同一個体 反転復元
84	SK3	磁器・油壺?	(5.3)	体部径 (10.1)	4.9	口クロ	色繪・透明釉	外:?		肥前	19C?	反転復元
85	SK3	磁器・火入れ	9.0	(12.0)	7.2	口クロ	染付・透明釉	外:唐草文		肥前	18C後半~?	反転復元
86	SK3	磁器・火入れ?	4.8	(8.1)	6.1	口クロ	青磁・铁錆					反転復元
87	SK3	磁器・不明	6.2	5.7	4.5	口クロ	青磁	外:?	底面に鉄錆			反転復元
88	SK3	磁器・仏花瓶	9.7	5.2	3.3	口クロ	染付・透明釉	外:草文・木製(文貼付)		肥前	18C後半~?	一部反転復元
89	SK3	磁器・湯飲み	6.0	(8.3)	3.7	口クロ	染付・透明釉	外:菊花・格子目 内:四方桜		肥前	18C末~	見込に鉄錆の溜ま りあり 反転復元
90	SK3	磁器・香炉?	(4.2)	(6.2)		口クロ	青磁		脚付き			B6と同一個体?
91	SK3	磁器・香炉?	(3.5)	(7.3)		口クロ	青磁					87と同一個体? 反転復元
92	SK3	陶器・壠	13.5	(34.1)	12.4	口クロ	鐵釉					反転復元
93	SK3	陶器・壠	13.6	(35.1)	(15.8)	口クロ			臺面に布紋?注目	関西系	18C後半?	反転復元
94	SK3	陶器・壠	(4.4)		(16.8)	口クロ	鐵釉			関西系	18C後半?	
95	SK3	陶器・壠	(6.1)			口クロ	鐵釉			関西系	18C?	
96	SK3	陶器・壠	(4.9)			口クロ	鐵釉					
97	SK3	陶器・壠	(4.7)			口クロ			口銘			
98	SK3	陶器・鉢	(6.3)			口クロ						
99	SK3	陶器・鉢?	(4.9)			口クロ	白土?・鉄釉			肥前	17C後半~ 18C前半	
100	SK3	陶器・鉢	10.8	(36.0)	(11.5)	口クロ	白土・鉄釉	内:刷毛目		肥前	17C後半~ 18C前半	反転復元
101	SK3	陶器・鉢	(3.2)	(30.0)		口クロ	白土・透明釉					
102	SK3	陶器・鉢	(4.3)	(25.0)		口クロ	白土・透明釉	内:刷毛目		肥前	17C後半~ 18C前半	反転復元
103	SK3	陶器・鉢	(4.4)		(10.7)	口クロ	白土・鉄釉	内:?	臺面に鉄錆の溜ま りあり	関西系?		反転復元
104	SK3	陶器・鉢	6.1	(17.0)	6.0	口クロ	白土・透明釉	内:刷毛目	見込に鉄錆の溜ま りあり	肥前	17C後半~	反転復元
105	SK3	陶器・鉢	(4.6)	(16.2)		口クロ	白土・透明釉					反転復元
106	SK3	陶器・鉢	(7.1)	(24.6)		口クロ	白土・鉄釉	外:刷毛目		肥前	17C後半~ 18C前半	反転復元
107	SK3	陶器・鉢?	(7.5)		11.1	口クロ	白土?・鉄釉	見込:刷毛目				
108	SK3	陶器・碗	7.4	(10.9)	5.0	口クロ	白土?・透明釉	外:?	高台端部に鉄 錆?目跡			反転復元
109	SK3	陶器・碗	7.8	(13.8)	5.2	口クロ	青磁?・黑色の釉					反転復元
110	SK3	陶器・碗	(5.5)		5.1	口クロ	透明釉		臺面端部に目跡			反転復元

表4 城下町12次出土遺物観察表(3)

遺物番号	出土遺構	器種	法量(cm)		成形	装飾			底面内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径		繪付施業	文様	装飾特徴				
111	SK3	陶器・碗	6.9	(11.0)	5.0	ロクロ	白土・透明釉		高台端部に目跡	肥前	17C後半～ 18C前半	反転復元
112	SK3	陶器・碗	6.9	(10.6)	4.6	ロクロ	白土・透明釉	外：刷毛目	高台端部に目跡	肥前	17C後半～ 18C前半	反転復元
113	SK3	陶器・碗	(5.0)		4.8	ロクロ	白土？	透明釉				反転復元
114	SK3	陶器・碗	5.0	(9.5)	3.6	ロクロ	白土？					反転復元
115	SK3	磁器・碗	(5.0)	(10.0)		ロクロ	色絵：透明釉	外：紅葉	高台端部に目跡			反転復元
116	SK3	磁器・碗	(3.4)		(5.6)	ロクロ	白土・透明釉	見込・同心円	高台端部に目跡			反転復元
117	SK3	磁器・碗	(5.2)			ロクロ	色絵：透明釉	外：？				反転復元
118	SK3	陶器・碗	(4.4)	(9.8)		ロクロ	色絵：透明釉	外：竹？？				反転復元
119	SK3	陶器・皿	(3.6)	(17.6)		ロクロ	反釉？透明釉					反転復元
120	SK3	陶器・皿	(2.5)	(12.8)		ロクロ	透明釉					反転復元
121	SK3	陶器・皿	1.7	10.4		ロクロ	鉄釉					口縁部にスス付蓋
122	SK3	陶器・皿	(2.6)		(4.5)	ロクロ	白土		高台端部に目跡			内面に目跡 反転復元
123	SK3	陶器・皿？	(3.2)		(6.8)	ロクロ	透明釉		高台に目跡、足込 に蛇／目跡／ハギ			反転復元
124	SK3	陶器・碗	(2.1)		(4.4)	ロクロ	透明釉		里心窓／目跡／ハギ			反転復元
125	SK3(SE1)	陶器・火入れ	(6.9)	(12.4)		ロクロ	陶胎染付？	外：唐草文				反転復元
126	SK3	陶器・火入れ	(5.9)	(10.0)		ロクロ	白土・透明 釉？	外：刷毛目		肥前	17C後半～ 18C前半	反転復元
127	SK3	陶器・火入れ	(6.0)	(9.8)		ロクロ	透明釉					反転復元
128	SK3	陶器・火入れ	7.2	(9.9)	(6.5)	ロクロ	陶胎染付？	外：紅葉		肥前	17C後半～ 18C前半	輪花 反転復元
129	SK3(SE1)	陶器・甕？	(8.9)			ロクロ		外：環状の貼付				
130	SK3	陶器・鉢？	(4.6)			ロクロ	透明釉？					
131	SK3	磁器・瓶	(12.4)		6.8	ロクロ	白磁	外：？		肥前	17C？	反転復元
132	SK3	土師質土器・壺？	(6.6)	(19.6)		ロクロ						反転復元
133	SK3	磁器・瓶	(9.0)			ロクロ	染付・透明釉	外：？				反転復元
134	SK3	陶器・瓶？	(6.0)		(8.0)	ロクロ	鉄釉					反転復元
135	SK3	陶器・壺	(33.0)	(15.9)	(16.0)	ロクロ				備前	17C？	頭部直下に取っ手 反転復元
136	SK3	陶器・壺	(5.5)			ロクロ						
137	SK3	陶器・甕？	(5.0)	(13.4)		ロクロ	鉄胎・反釉？白土	外：刷毛目				体上部～口縁部に自然乾 燥
138	SK3	陶器・甕？	(3.3)	(8.4)		ロクロ	鉄胎					反転復元
139	SK3	陶器・甕？	(4.1)	(10.0)		ロクロ	鉄胎・透明釉	外：唐草文？				反転復元
140	SK3	陶器・壺？	(3.6)		(6.5)	ロクロ	鉄胎？					反転復元
141	SK3	陶器・不明	(4.3)		5.7	ロクロ	鉄胎？					反転復元
142	SK3	陶器・餐盤	3.5	細長	6.5	型打	板作り	鉄胎？				
143	SK3	陶製品・人形 (舟)	長さ (6.4)	幅 2.8	厚さ (1.6)	型打						穿孔有
144	SK3	土師器・小皿	2.1	(10.2)	(7.4)	ロクロ						糸切り
145	SK3	土師器・小皿	2.3	(10.1)	7.2	ロクロ						糸切り
146	SK3	土師器・小皿	1.6	(9.5)	7.8	ロクロ						糸切り
147	SK3	土師器・小皿	1.6	(9.6)	(7.1)	ロクロ						糸切り
148	SK3	土師器・小皿	1.9	(9.3)	(7.4)	ロクロ						糸切り
149	SK3	土師器・小皿	1.7	(8.8)	6.8	ロクロ						糸切り
150	SK3	土師器・小皿	1.1	(7.3)	5.5	ロクロ						糸切り
151	SK3	土師器・小皿	1.2	(7.2)	5.7	ロクロ						糸切り
152	SK3	土師器・小皿	1.0	(7.4)	(5.3)	ロクロ						口縁部にスス付蓋 反転復元
153	SK3	土師質土器・片口	8.3	(32.5)		ロクロ						外底にもスス状の付着物 反転復元
154	SK3	土師質土器・焰塔	(8.1)	(29.2)		ロクロ						外底にもスス状の付着物 反転復元
155	SK3	土製品・人形(神 官?)	(4.1)	4.5	2.1	型打						
156	SK3	陶製品・人形(男)	高さ 5.4	幅 (2.8)	厚さ 1.8	型打	施釉					穿孔有
157	SK3	瓦質土器・甕？	(13.7)	(32.5)								内外底にもスス状の付着物 反転復元
158	SK2・3	瓦質土器・火消し 甕？	(4.8)			ロクロ						
159	SK3	丸瓦	長さ 28.0	幅 14.2	高さ 6.0							内面に布目痕跡
161	SK3	砥石	長さ (5.2)	幅 3.4	厚さ (1.5)	方柱状						粘板岩？
162	SK3	砥石	長さ (7.8)	幅 4.6	厚さ (0.8)	板状						粘板岩？
163	SK3	砥石	長さ (9.8)	幅 5.6	厚さ (1.0)	板状						側縁部の厚さは 0.23cm
164	SK3	銅製品	長さ (10.3)	幅 (5.4)	厚さ (0.05)	板状						
165	SK3	銅鏡 (萬永通寶)	度 2.4	厚さ 0.08								
166	SK5	磁器・碗	(3.8)	(11.2)		ロクロ	染付・透明釉	外：山・家屋・松？		肥前	18C後半～	端反脾？
167	SK5	磁器・湯飲み	(3.9)			ロクロ	染付・透明釉	外：革？		肥前	18C後半～	反転復元
168	SK5	磁器・猪口	(3.7)		(3.2)	ロクロ	染付・透明釉	外：？	コニック 刮削？	肥前	18C	反転復元
169	SK5	磁器・瓶	(9.5)	(3.4)		ロクロ	透明釉					反転復元
170	SK5	陶器・皿	2.0	11.6		ロクロ						口縁部にスス付蓋
171	SK5	土師器・小皿	2.0	(10.0)	6.7	ロクロ						
172	SK5	陶器・擂鉢	(8.8)	(36.6)		ロクロ	鉄釉？					反転復元
173	SK5	陶器・鉢	(8.2)		(9.9)	ロクロ	白土・鉄釉 内：刷毛目			肥前	17C後半～ 18C前半	反転復元
174	SK5	陶器・餐盤	3.2	長径 (7.6)	短径 (1.0)	板作り	褐色の釉					
175	SK3	鉄製品・釘？	(5.4)	1.2								新面方形

表5 城下町12次出土遺物観察表(4)

遺物 番号	出土遺構	器種	法量(cm)		成形	装飾			底面 内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径		給付釉率	文様	装飾特徴				
176	SK6	陶器・碗	7.0	11.1	5.0	ロクロ	陶胎染付・透 明釉	外:唐草文		肥前	17C後半~ 18C前半	
177	SK6	磁器・碗	6.4	10.8	4.6	ロクロ	染付・透明釉	外:麗?	コンニャク 目跡	肥前	18C代	端反碗
178	SK6	磁器・碗	(1.5)		4.0	ロクロ	染付・透明釉	外:?				
179	SK6	陶器・碗	7.5	11.6	5.0	ロクロ	陶胎染付・透 明釉	外:唐草文	高台端部に目 跡	肥前	17C後半~ 18C前半	
180	SK6	磁器・碗	5.7	(10.5)	4.3	ロクロ	染付・透明釉	外:紅葉	コンニャク 目跡	肥前	18C後半~ 19C前半	端反碗? 反転復元
181	SK6	磁器・碗	(2.7)		(4.1)	ロクロ	染付・透明釉	外:?	高台端部に目 跡 底面:「〇〇年製」	肥前	18C後半~ 19C前半	端反碗? 反転復元
182	SK6	磁器・碗	5.5	(9.6)	(3.4)	ロクロ	染付・透明釉	外:菊花・墨花文		肥前	18C後半~ 19C前半	反転復元
183	SK6	磁器・碗	5.3	9.6	4.1	ロクロ	染付・透明釉	外:蓮瓣・四方梅		肥前	18C後半~ 19C前半	
184	SK6	磁器・碗	(2.9)		4.2	ロクロ	透明釉					
185	SK6	陶器・碗	(6.3)	[11.0]		ロクロ	陶胎染付? 透明釉	外:唐草文		肥前	17C後半~ 18C前半	反転復元
186	SK6	磁器・碗	6.1	10.2	4.6	ロクロ	透明釉					
187	SK6	磁器・碗	(2.7)			ロクロ	白磁			中国	11C~12C	口縁部は玉縁
188	SK6	磁器・皿	4.7	27.4	16.4	ロクロ	染付・透明釉	外:唐草文 底面:「大明成化年製」	高台に砂目 跡、底面にハ リ支え痕	肥前	18C後半~	
189	SK6	磁器・皿	(1.4)		(4.0)	ロクロ	染付・透明釉	内:?	高台側面に目 跡	肥前	18C後半~ 19C前半	反転復元
190	SK6	磁器・皿	3.5	12.9	7.8	ロクロ	染付・透明釉	外:丸 色絵:透明釉	高台に砂目痕、底 面にハリ支え痕	肥前	18C前半~ 19C前半	反転復元
191	SK6	陶器・皿?	(1.5)		(4.2)	ロクロ	透明釉	内:?				
192	SK6	磁器・小坪	2.8	6.6	2.8	ロクロ	染付・透明釉	外:雨降り文		肥前	18C前半~	高台内面に段あり 口縁部にスス付蓋
193	SK6	土師器・小皿	1.9	9.8	7.5	ロクロ	透明釉		糸切り			見込みに褐色釉の斑点 反転復元
194	SK6	磁器・猪口	(3.0)		3.2	ロクロ	透明釉					
195	SK6	磁器・猪口	(3.2)		(3.4)	ロクロ	染付・透明釉	外:?	コンニャク 目跡			反転復元
196	SK6	磁器・猪口?	(1.5)		3.4	ロクロ	染付・透明釉	外:?	高台端部に砂 目跡 底面:「内の中に福」			反転復元
197	SK6	陶器・擂鉢	(9.6)			ロクロ						関西系?
198	SK6	陶器・鉢	(8.7)	[33.5]		ロクロ	白土・灰釉?	内:刷毛目		肥前	17C後半~ 18C前半	反転復元
199	SK6	陶器・鉢	3.8	(24.8)	(12.6)	ロクロ						反転復元
200	SK6	陶器・碗	6.9	(10.7)	(4.4)	ロクロ	白土・透明釉	外:刷毛目 内:刷毛?	高台端部に砂 目跡	肥前	17C後半~ 18C前半	反転復元
201	SK6	陶器・碗	6.4	9.5	4.9	ロクロ	白土・透明釉	外:刷毛目 内:刷毛?	高台端部に砂 目跡	肥前	17C後半~ 18C前半	
202	SK6	陶器・碗	7.5	10.1	4.5	ロクロ	透明釉	外:刷毛目 内:梅樹?	高台端部に砂 目跡	肥前	17C前半~ 18C前半	
203	SK6	陶器・碗	7.2	10.6	4.8	ロクロ	白土・透明釉	外:刷毛目 内:刷毛?	高台端部に砂 目跡	肥前	17C後半~ 18C前半	反転復元
204	SK6 (SD1)	陶器・碗	6.4	11.2	4.6	ロクロ	白土・透明釉	外:刷毛目 内:刷毛?	高台端部に砂 目跡	肥前	17C後半~ 18C前半	反転復元
205	SK6	陶器・碗	7.0	10.6	4.6	ロクロ	白土・透明釉	外:刷毛目 内:?	高台端部に砂 目跡	肥前	17C後半~ 18C前半	
206	SK6	陶器・碗	5.5	8.9	4.4	ロクロ	透明釉	外:風巻?				
207	SK6	陶器・皿	2.3	11.4		ロクロ	鉄輪					口縁部にスス付蓋
208	SK6	陶器・蓋	2.6	9.0	4.5	ロクロ	白土?-鉄輪		糸切り、重ね 鉄輪痕跡			
209	SK6(SE1)	陶器・壺?	(9.9)	(20.6)		ロクロ	鉄輪					反転復元
210	SK6	土師器・小皿	1.6	(9.7)	(7.0)	ロクロ			糸切り			反転復元
211	SK6	土師器・小皿	1.5	9.4	7.0	ロクロ			糸切り			反転復元
212	SK6	土師器・小皿	1.4	8.6	7.1	ロクロ			糸切り			
213	SK6	土師器・小皿	1.3	8.5	6.5	ロクロ			糸切り			口縁部にスス付蓋
214	SK6	土師器・小皿	1.8	9.4	7.2	ロクロ	透明釉	外:刷毛目 内:?	糸切り			口縁部にスス付蓋
215	SK6	土師器・小皿	2.0	9.9	6.0	ロクロ			ハラ切り?			口縁部にスス付蓋
216	SK6	土師器・小皿	1.9	9.3	6.5	ロクロ	透明釉	外:刷毛目 内:?	糸切り			口縁部にスス付蓋
217	SK6	土師器・小皿	1.7	9.4	7.7	ロクロ			糸切り			口縁部にスス付蓋
218	SK6	土師器・小皿	1.9	(9.7)	(7.0)	ロクロ			糸切り			反転復元
219	SK6	土師器・小皿	1.6	9.2	7.1	ロクロ			糸切り			口縁部にスス付蓋
220	SK6	土師器・小皿	1.6	9.7	7.2	ロクロ			糸切り			反転復元
221	SK6	土師器・小皿	1.6	9.4	7.0	ロクロ			糸切り			見込みに重ねの直線? 反転復元
222	SK6	土師器・小皿	1.8	9.6	7.7	ロクロ			糸切り			ほぼぼ形 口縁部にスス付蓋
223	SK6	土師器・小皿	1.6	(10.0)	(7.4)	ロクロ	見込み書「〇〇本〇〇」		糸切り			墨書き有り
224	SK6	土師器・小皿	1.6	(9.4)	7.1	ロクロ			糸切り			
225	SK6	土師器・小皿	1.8	9.4	7.3	ロクロ			糸切り			ほぼぼ形
226	SK6	土師器・小皿	1.5	9.2	7.3	ロクロ			糸切り			
227	SK6	土師器・小皿	1.5	9.1	7.4	ロクロ			糸切り			光形 口縁部にスス付蓋
228	SK6	土師質土器・焰燒	(8.2)	(32.6)		ロクロ						外面にスス状の付着物 口縁部に取っ手あり 反転復元
229	SK6	土師質土器・焰燒?	(7.1)			ロクロ						口縁部の1カ所を肥 厚させ、穿孔する。
230	SK6	土師質土器・片口	9.2	(32.0)	(28.3)	ロクロ						底面にスス状の付着物
231	SK6	土師質土器・片口	(6.8)			ロクロ						
232	SK6	土師質土器・鉢?	(15.4)			21.5 ロクロ	輪模印 ロクロ					一部反転復元
233	SK6	土製品・土鉢	3.6	2.6	2.1	塑打?						上部に円孔

表6 城下町12次出土遺物観察表(5)

遺物番号	出土遺構	器種	法量(cm)		成形	装飾			底面内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径		絵付繪葉	文様	装飾特質				
234	SK6	土製品・土器	長さ 4.9	幅 1.0	孔径 0.3	手づくね						重さ5.3g
235	SK6	土製品・土器	長さ 4.7	幅 1.2	孔径 0.3	手づくね						中央部のみ断面が方形 重さ2.2g
236	SK6	土製品・土器	長さ 4.9	幅 1.2	孔径 0.3	手づくね						重さ7.8g
237	SK6	土製品・蓋?	長さ (13.9) (6.8)	幅 幅								上端部は欠損後、断面を整形?
238	SK6	鉄製品・町	長さ (3.9) (0.8)	幅 幅								重さ3.3g
239	SK6	鉄製品・町	長さ (3.5) (1.2)	幅 幅								一部に木質残存? 重さ3.8g
240	SK6	鉄製品・町	長さ (3.7) (1.0)	幅 幅								重さ3.5g
241	SK6	鉄製品・町?	長さ (5.3) (1.3)	幅 幅								重さ5.0g
242	SK6	銅製品・煙管 (吸口)	長さ (6.3) (1.1)	幅 幅								先端部が扁平にしつぶれ気味、重さ4.4g
243	SK7	磁器・碗	5.2	12.6	4.6	ロクロ	染付・反転?		見込見出/目録ハギ	中国	16C末型	津州窯
244	SK7下層	陶器・皿	2.0	11.3	6.1	ロクロ	灰釉?		見込と裏面に目録	肥前	160~1630	溝縁皿
245	SK7	陶器・皿	1.9			ロクロ	灰釉?	内: 蓋状の彫り込み		肥前	160~1630	溝縁皿
246	SK7下層	陶器・碗	6.2	(11.6)	4.6	ロクロ	鉄輪			瀬戸美濃	16C後半	天目茶碗 反転復元
247	SK7	陶器・碗	(5.3)	(11.2)		ロクロ	鉄輪			瀬戸美濃	16C後半	天目茶碗 反転復元
248	SK7	陶器・碗	(5.2)			ロクロ	鉄輪					天目茶碗
249	SK7	陶器・火入れ	(4.7)			ロクロ	白土・透明釉					天目茶碗
250	SK7	陶器・皿	2.4	11.2	6.2		灰釉?	内: 花弁状の彫り込み	見込と裏面に目録	肥前	1600~1630	底面に重ね書き跡
251	SK7下層	土師器・皿	3.0	12.3	8.2	ロクロ			ハラ切り?			
252	SK7	土師器・皿	3.0	(13.0)	6.4	ロクロ			糸切り?			反転復元
253	SK7	土師器・小皿	1.9	(9.8)	(7.3)	ロクロ			糸切り?			反転復元
254	SK7	瓦質土器・鉢	(10.2)			ロクロ						底面に長い舌台あり
255	SK7	瓦質土器・鉢	(7.6)	(15.8)	(11.4)	ロクロ						反転復元
256	SK7	瓦質土器・火鉢?	(9.5)			ロクロ						断面丸形容あり 表面丹振り?
257	SK7	土製品・土器	長さ 4.3	幅 1.3	孔径 0.5	手づくね						重さ7.8g
258	SD1	磁器・碗?	(2.8)		(3.4)	ロクロ	染付・透明釉	見込・五井花		肥前		反転復元
259	SD1	磁器・瓶	(3.5)	1.8		ロクロ	透明釉					反転復元
260	SD1	磁器・瓶	(2.5)		5.1	ロクロ	染付・透明釉					
261	SD1	陶器・壺	(5.7)			ロクロ						
262	SD1	陶器・壺	(7.4)			ロクロ	鉄輪?			偏前		
263	SD1	陶器・碗	(1.9)			ロクロ	鉄輪					天目茶碗?
264	SD1	陶器・皿	2.2	(12.2)	6.5	ロクロ	灰釉?	内: 蓋状の彫り込み		肥前	1600~1630	反転復元
265	SD1	土師器・小皿	1.9	(9.2)	(6.8)	ロクロ			糸切り?			
266	SE1	磁器・碗	(4.5)	(10.2)		ロクロ	透明釉					
267	SE1	磁器・皿	2.4	(10.3)	(6.0)	ロクロ	染付・透明釉			肥前		反転復元
268	SE1	陶器・瓶	(4.8)	5.4		ロクロ	透明釉?					
269	SE1	陶器・壺	(6.8)			ロクロ		外: 体面上に円窓状の施付		偏前		
270	SE1	陶器・鉢	(7.1)	(28.0)		ロクロ						
271	SE1	陶器・碗	5.9	11.6	4.4	ロクロ	鉄輪			瀬戸美濃	16C後半	天目茶碗
272	SE1	陶器・碗	5.6	(11.8)	4.8	ロクロ	鉄輪			瀬戸美濃	16C後半	天目茶碗 反転復元
273	SE1	土師質土器・こね鉢?	(4.6)		(17.6)	ロクロ						
274	SE1	瓦質土器・焼鉢	(8.0)		(13.2)	ロクロ						
275	SE1	瓦質土器・壺	(11.9)			ロクロ						外側にタキ波
276	SE1	瓦質土器・焰鉢	(7.2)	(28.2)		ロクロ						17C前半
277	SE1	瓦質土器・壺	(4.3)			ロクロ						
278	SE1	銅製品・取手	長さ 11.3	幅 6.9	太さ 0.5							重さ20.7g
279	SE1	碗型壺	14.6	11.7	厚さ 7.4							重さ1,171.4g
280	一括	磁器・皿?	(2.3)		4.7	ロクロ	陶胎染付	外: ?	見込・目録ハギ	肥前		反転復元
281	一括	陶器・碗	(2.8)		3.1	ロクロ	色絵・透明釉	外: ?				反転復元
282	一括	磁器・碗	(1.8)		(6.0)	ロクロ	透明釉		見込見出/目録ハギ			反転復元
283	一括	陶器・火入れ?	(5.3)		(8.4)	ロクロ	色絵?・透明釉	外: ?	見込・目高台			反転復元
284	一括	土師器・小皿	1.3	9.4	7.1	ロクロ			糸切り?			ほぼ完形 口縁部にスス付着
285	一括	土師器・小皿	1.6	(9.8)	(7.1)	ロクロ			糸切り?			反転復元

表7 城下町12次出土軒平瓦観察表

擇因番号	出土遺構	種別	瓦当長	瓦当幅	文様帶長	文様帶幅	額部幅	備考
160	SK3	軒平瓦	(12.4)	3.0	(8.7)	1.7	1.3	

第2節 中津城下町遺跡13次調査

1. 調査の概要

平成21年8月28日、中津市役所道路課より市教委へ中津市904-3（鷹匠町）他における市道鷹匠町おかこい山線新設工事に伴う発掘調査について協議依頼がなされた。道路敷地の土地所有者は鈴木一郎市長（当時）であり、鈴木市長宅には「おかこい山」が遺存していた。おかこい山は近世に中津城外堀沿いに築かれた城下を守る土塁で、往時は総延長2.4kmに渡り、外堀沿いに構築されていたと考えられる。おかこい山は外堀だけではなく、中堀・内堀沿いにも築かれており、城下を幾重にも防備していた。絵図を見るとおかこい山上部には松が植えられていたようであるが、調査時には松は遺存していなかった。周辺のおかこい山の遺存状況は、大法寺と本伝寺の境に一部残存するものの、当該地のおかこい山が最も遺存状態が良好であった。本事業に伴いおかこい山の調査は行っていない。鈴木氏は所有地を宅地分譲する予定であったが、おかこい山の歴史的重要性に鑑み、おかこい山部分を中津市へ寄附された。本路線はおかこい山に向かうための道という目的のもと敷設され延長約150m、幅員5mの規模である。

8月31日に調査を開始し、その結果、地表50～70cm下位において複数の土坑を検出した。本調査へ移行し、調査は9月10日まで行った。

平成30年度、出土遺物の実測・撮影・清書等の整理作業を行った。

2. 遺構と遺物

出土した主な遺構は、土坑11基、井戸跡1基等を検出した。遺物は、各遺構内でまとまって出土している。

出土遺物は、18世紀後半以降の陶磁器類が最も多く、幕末～近代の遺物がそれに次ぐ。各遺構は、出土した遺物を基本に遺構時期を比定した。

土 坑

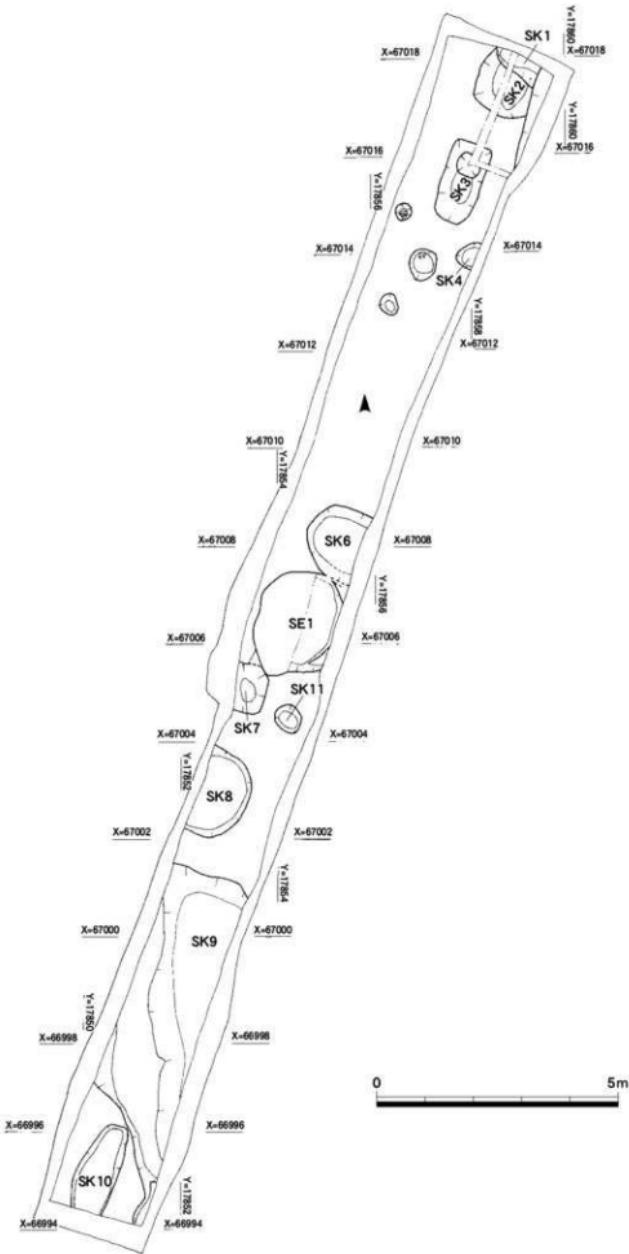
SK1・2（第29図）

調査区北東端で検出した。SK1がSK2を切る。SK1は調査区外となり全形は不明。SK2の平面形状は梢円形に近い。SK1は北・南方向に40cm、東・西方向に1m、深さ20cmの規模である。SK2は北・南方向に1.15m、東・西方向に1.3m、深さ70cmの規模である。遺物は両遺構共に少量出土している。遺構の時期は遺物から18世紀後半以降の所産と考えられる。

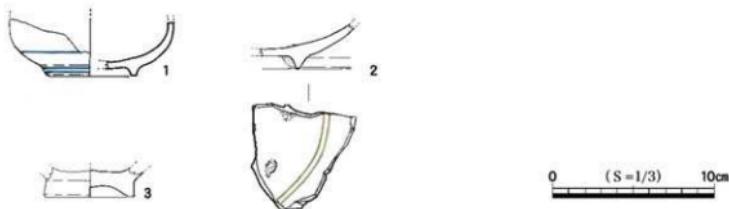
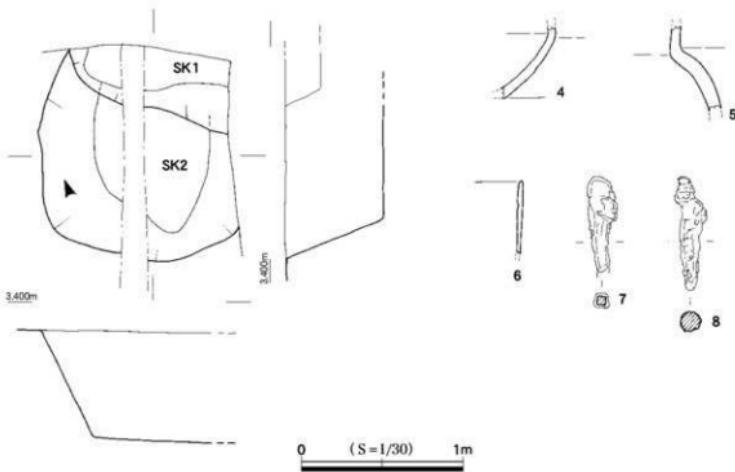
1～3はSK2出土遺物。1・2は磁器で共に18世紀後半以降の時期。1は鬢付油壺。2は皿。高台に砂目跡。3は陶器で碗の底部。4～8はSK1出土。4は天目茶碗の胴部片。5は壺。6は碗か。7・8は釘である。



第27図 城下町13次 調査区位置図



第28図 城下町13次 遺構配置図 (S=1/100)



第29図 城下町13次 SK1・2 平・断面図 ($S=1/30$) 出土遺物 ($S=1/3$)

SK3 (第30図)

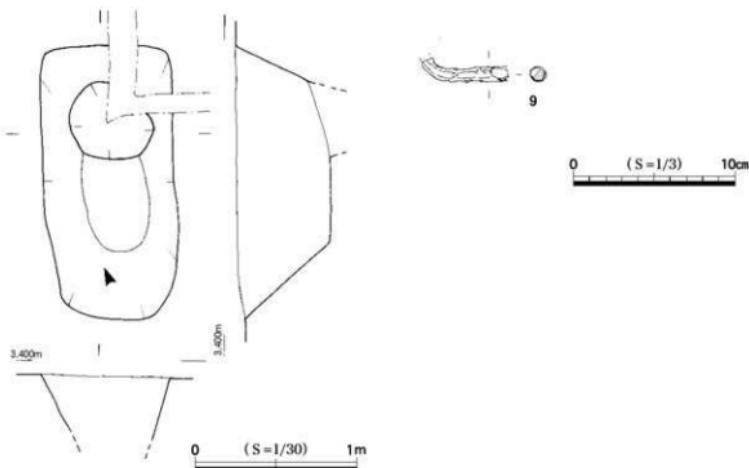
調査区北で検出した長楕円形の土坑である。北-南方向に1.7m、東-西方向に80cm、深さ55cmを測る。断面形状は捕鉢状を呈する。遺物は9のキセル1点のみが出土している。

SK4 (第31図)

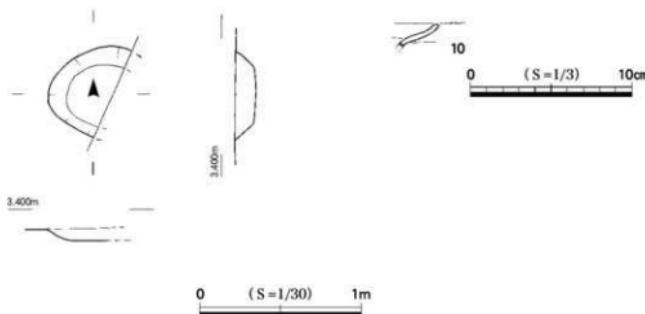
調査区北で検出した土坑である。東端は調査区外となり全形は不明である。直径50cm、深さ10cmを測る。遺物は10の陶器の皿が出土した。口縁部は輪花状を呈する。

SK6 (第32図)

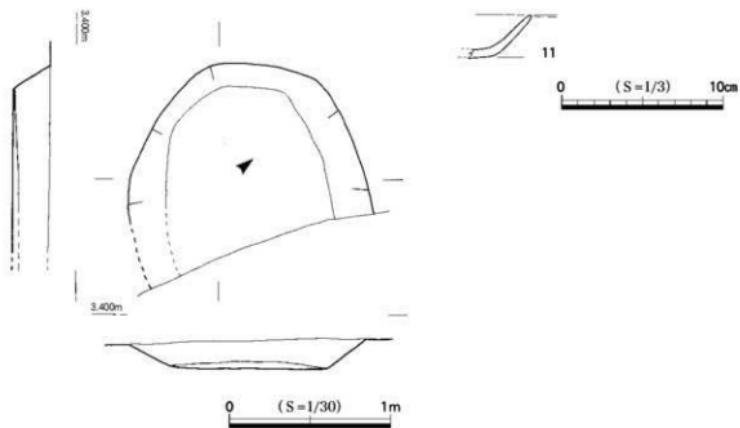
調査区中央で検出した。東端は調査区外となり全形は不明である。北-南方向に2m、東-西方向に1.5m、深さ20cmを測る。遺物は11の土師器の皿が出土した。



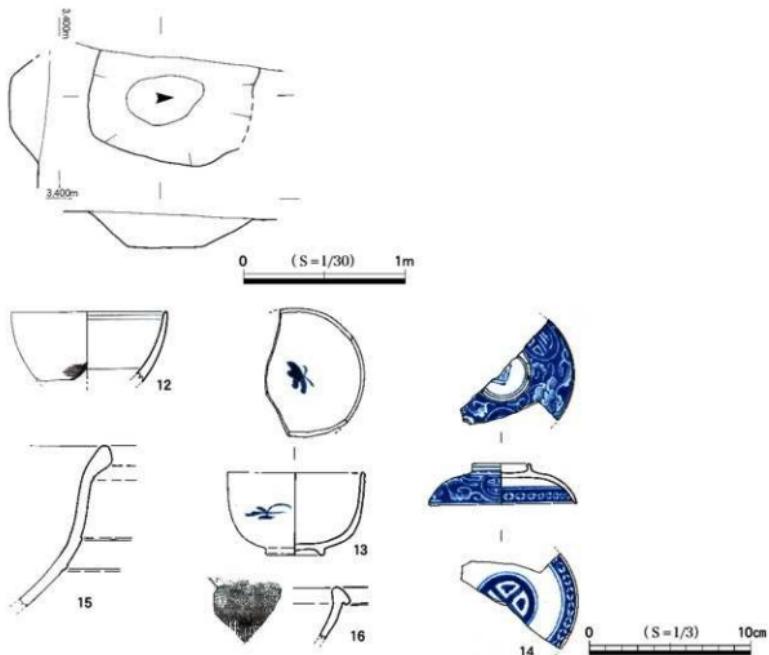
第30図 城下町13次 SK3 平・断面図 ($S=1/30$) 出土遺物 ($S=1/3$)



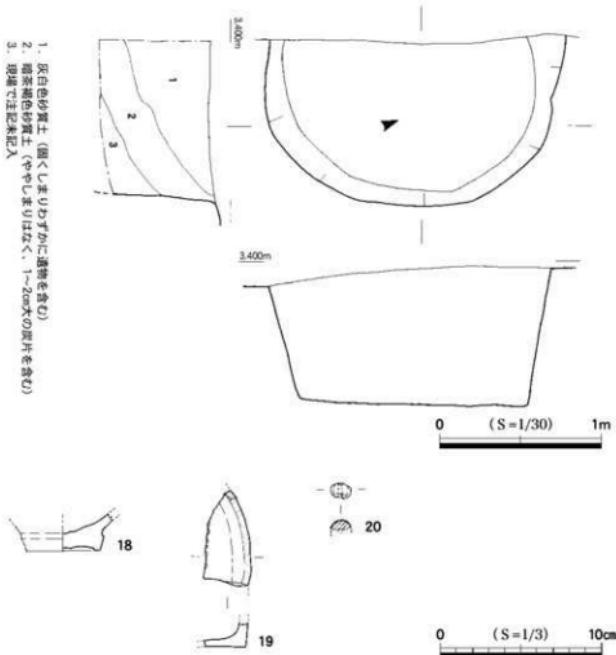
第31図 城下町13次 SK4 平・断面図 ($S=1/30$) 出土遺物 ($S=1/3$)



第32図 城下町13次 SK6 平・断面図 ($S=1/30$) 出土遺物 ($S=1/3$)



第33図 城下町13次 SK7 平・断面図 ($S=1/30$) 出土遺物 ($S=1/3$)



第34図 城下町13次 SK8 平・断面・土層図 ($S=1/30$) 出土遺物 ($S=1/3$)

SK7 (第33図)

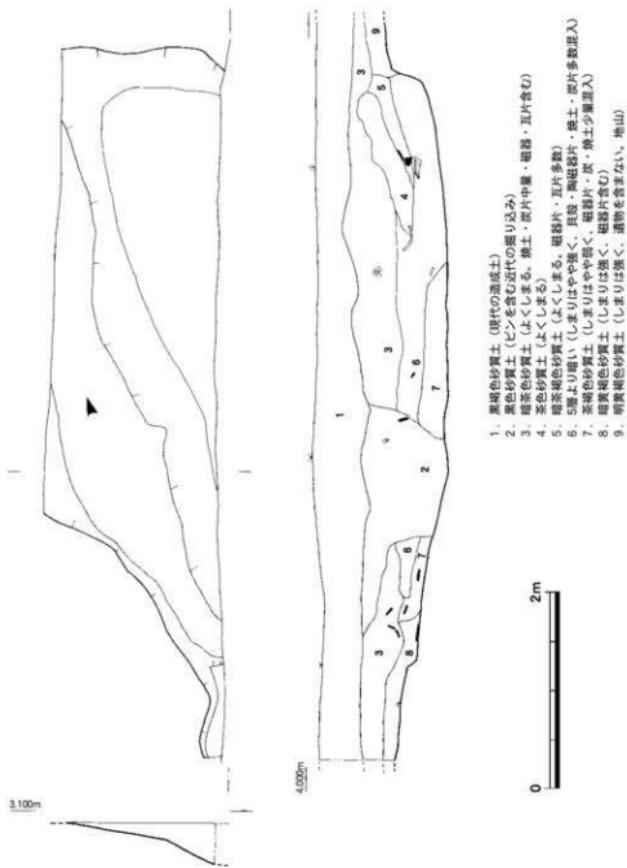
調査区中央で検出した。西端は調査区外となり全形は不明である。北-南方向に60cm、東-西方向に10cm、深さ25cmを測る。遺物は少量出土している。遺構の時期は遺物から18世紀後半以降の所産と考えられる。

12～14は磁器。12は碗。13は湯飲みであろう。14は蓋。15は土師質土器の鉢。16は陶器で擂鉢である。

SK8 (第34図)

調査区中央南よりで検出した。西端は調査区外となり全形は不明である。北-南方向に1.75m、東-西方向に1m、深さ90cmを測る。遺物は少量出土している。

17～20は陶器。17・18は碗。19は瓶壺。20は用途不明の中央に円孔のある玉。



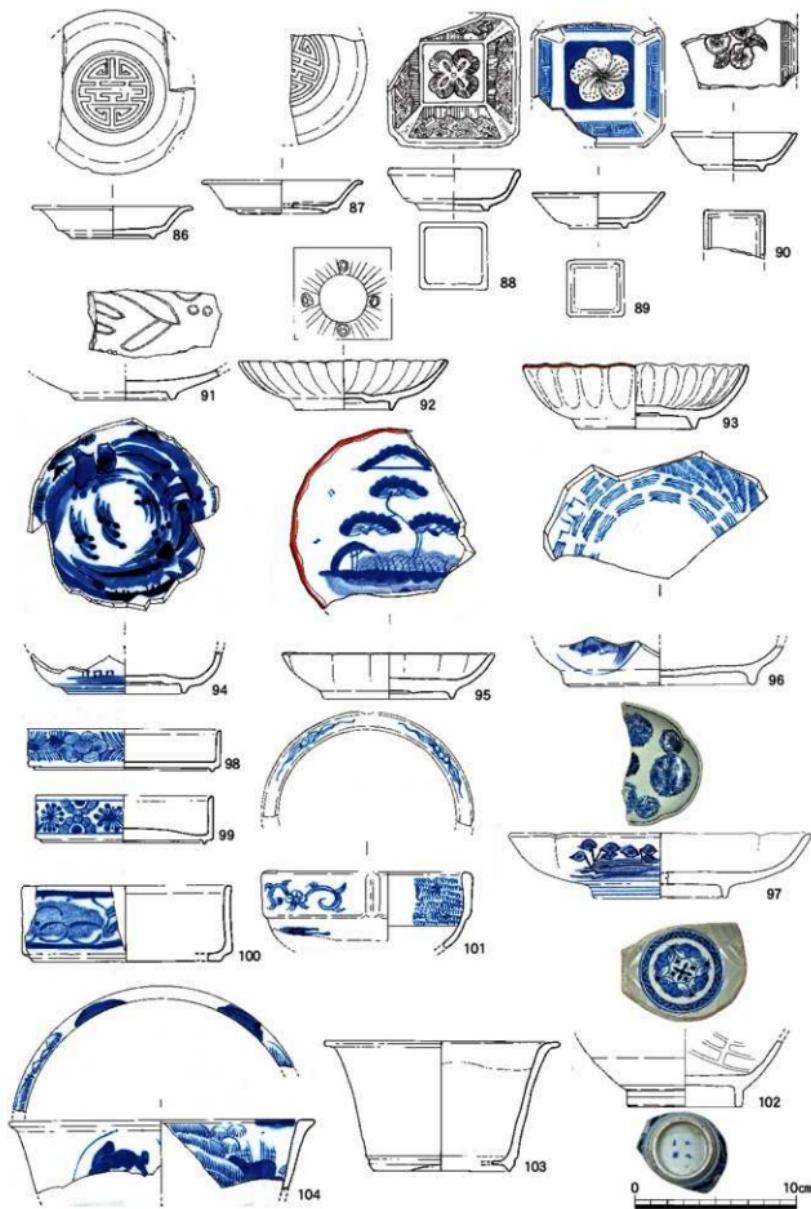
第35図 城下町13次 SK9 平・断面・土層図 ($S=1/50$)



第36図 城下町13次 SK9 出土遺物 (1) (S=1/3)



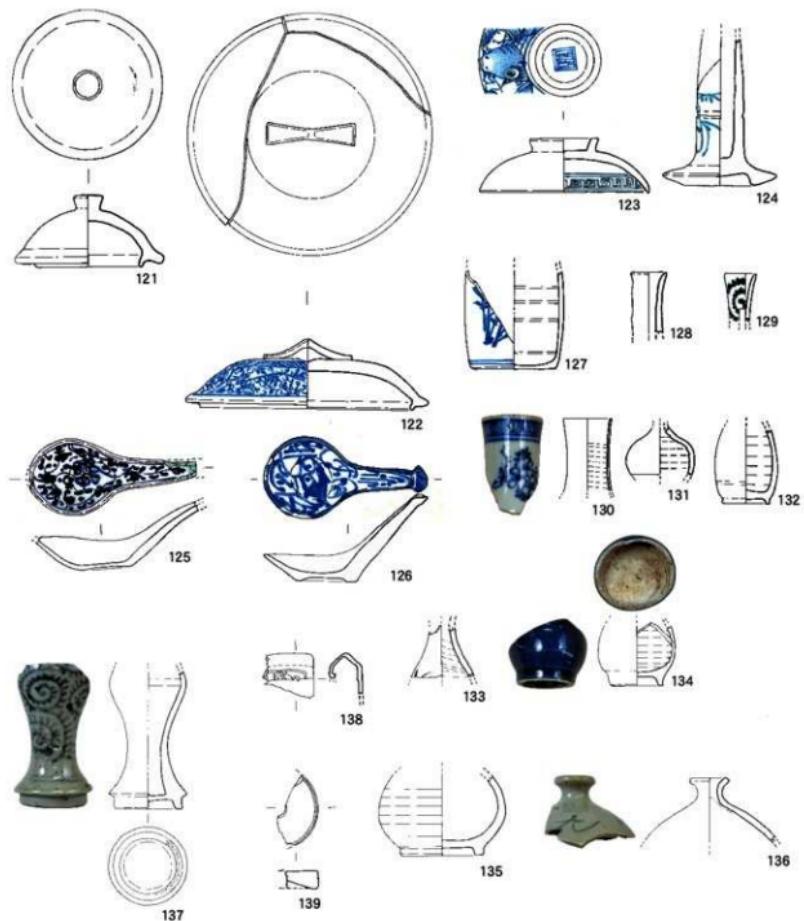
第37図 城下町13次 SK9 出土遺物 (2) (S=1/3)



第38図 城下町13次 SK9 出土遺物 (3) (S=1/3)

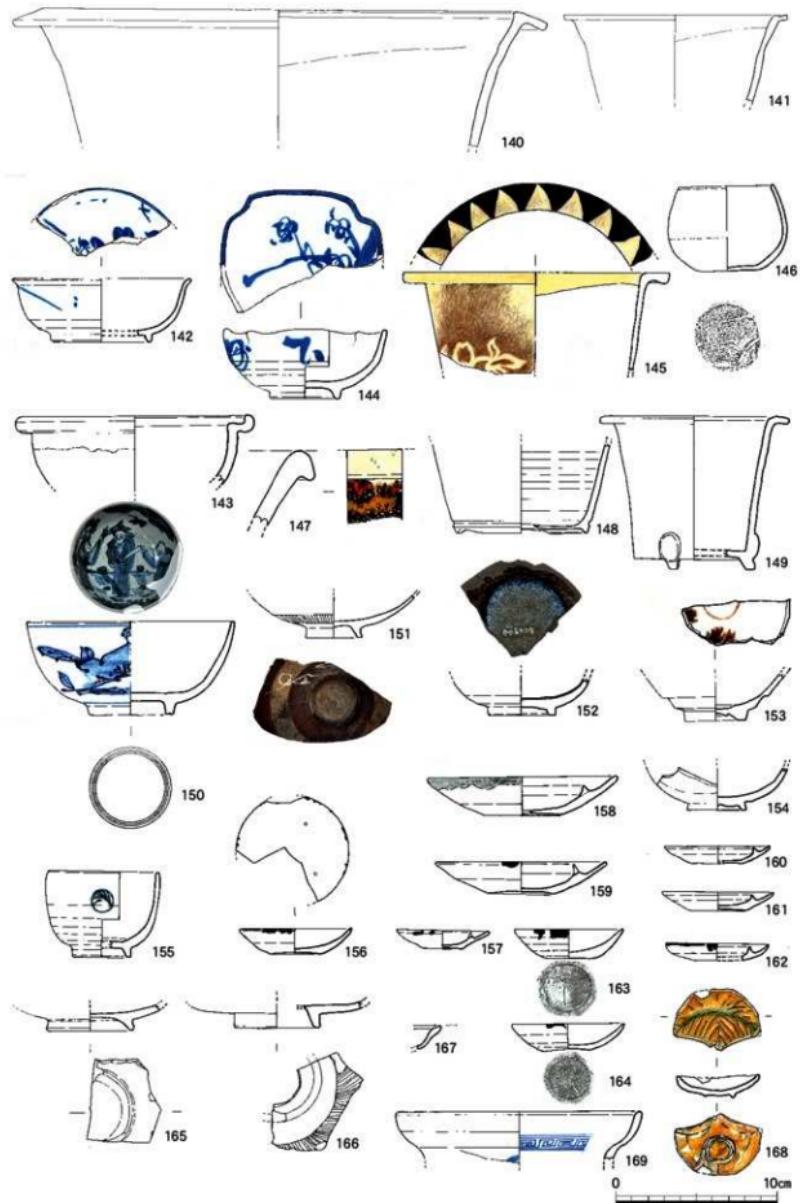


第39図 城下町13次 SK9 出土遺物(4) (S=1/3)

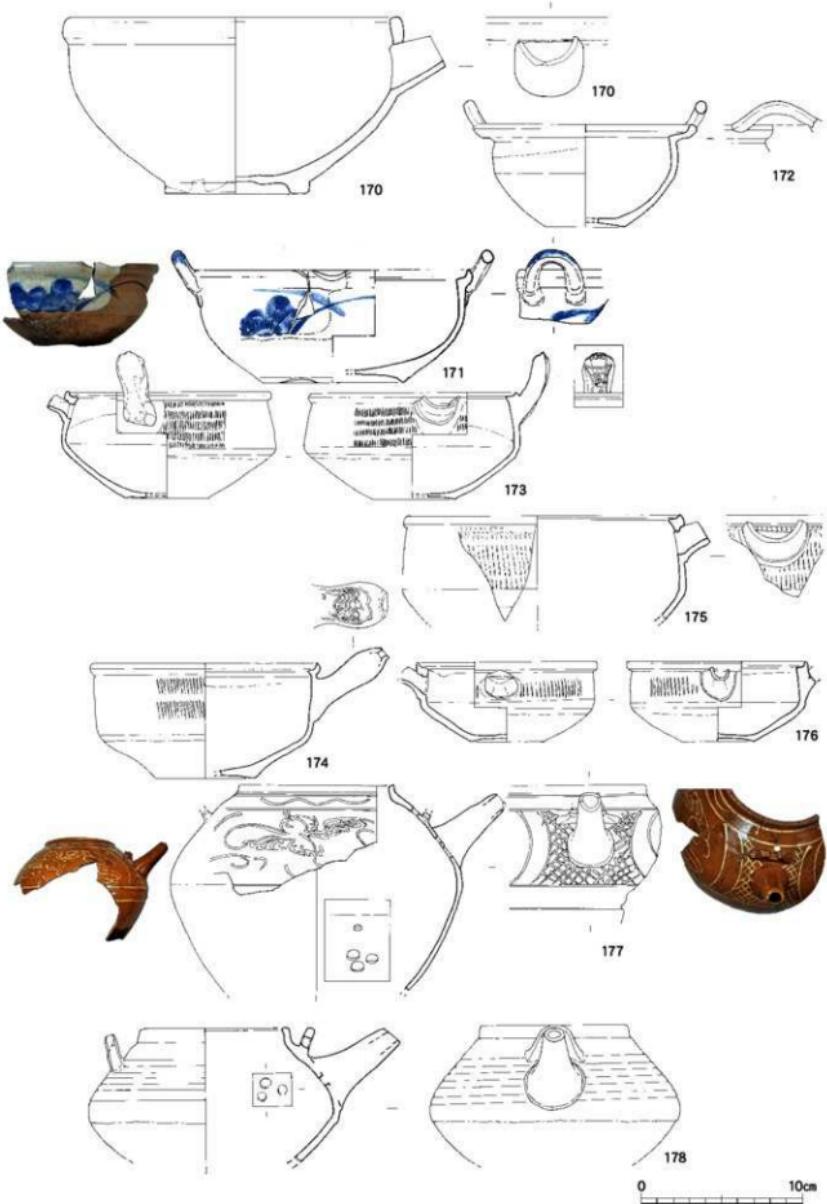


0 10cm

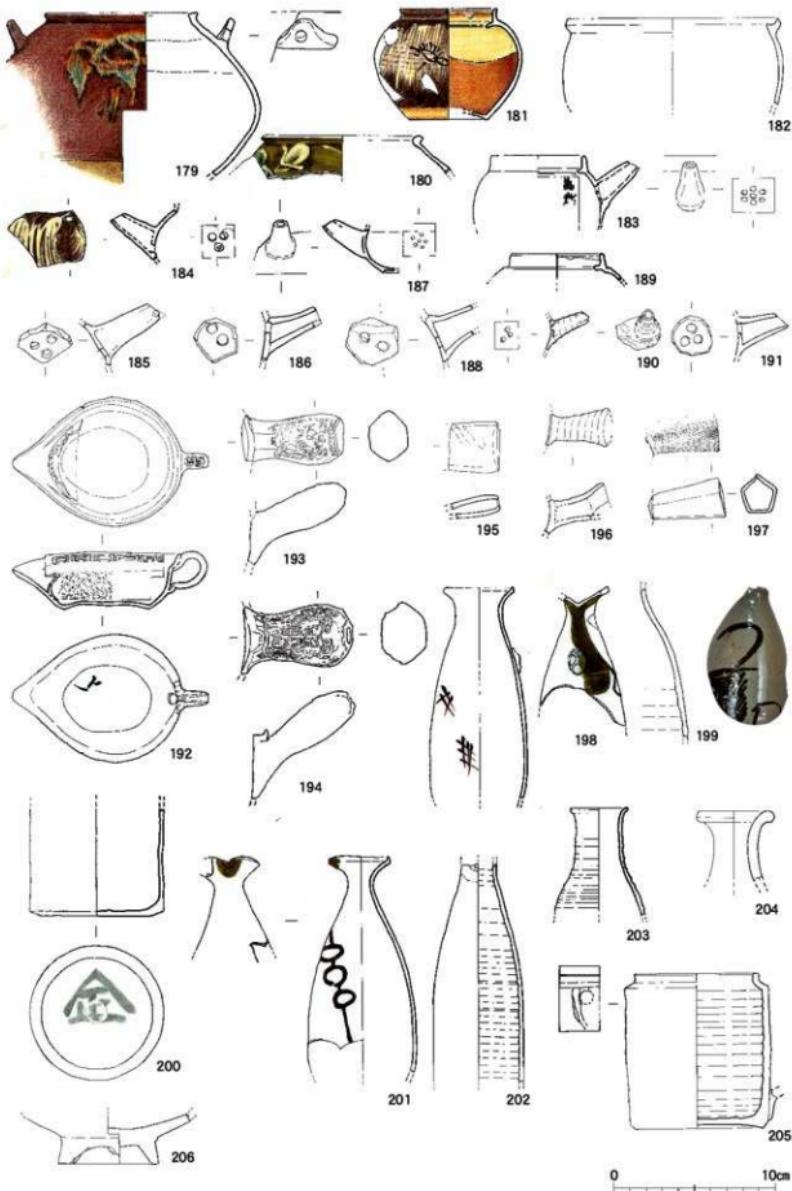
第40図 城下町13次 SK9 出土遺物 (5) (S=1/3)



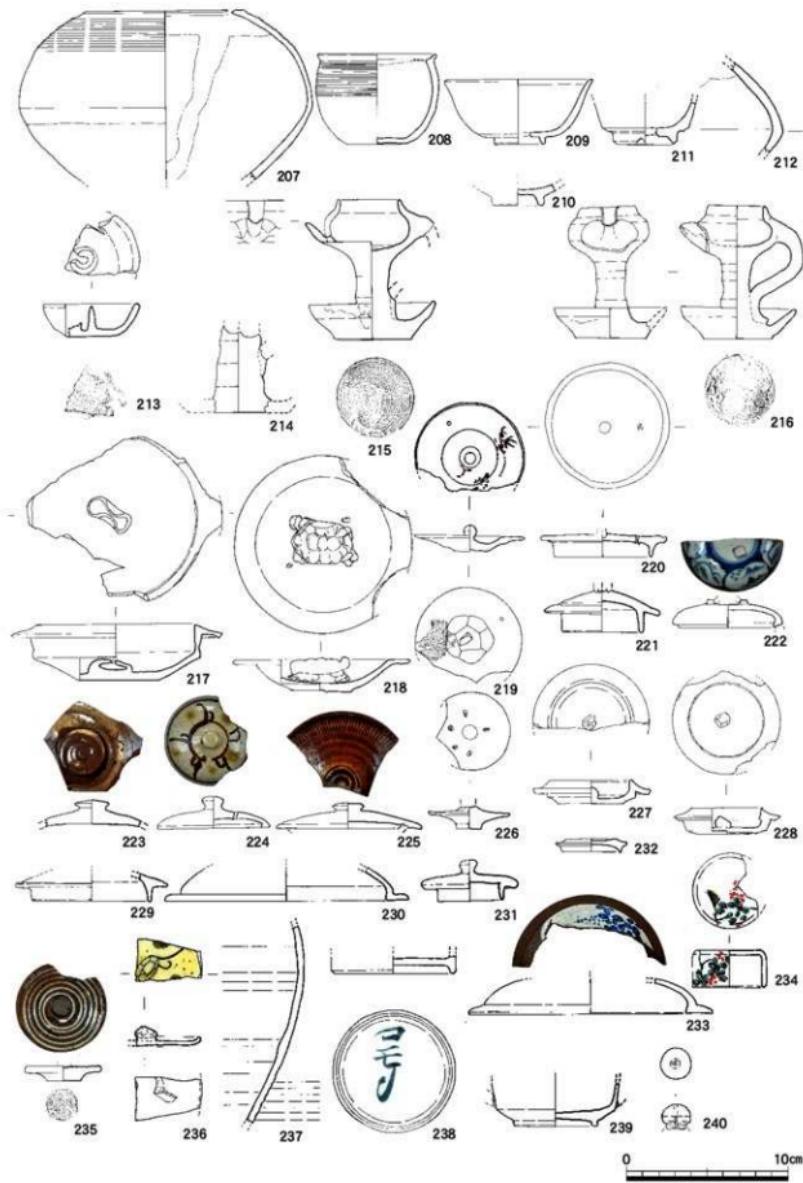
第41図 城下町13次 SK9 出土遺物 (6) (S=1/3)



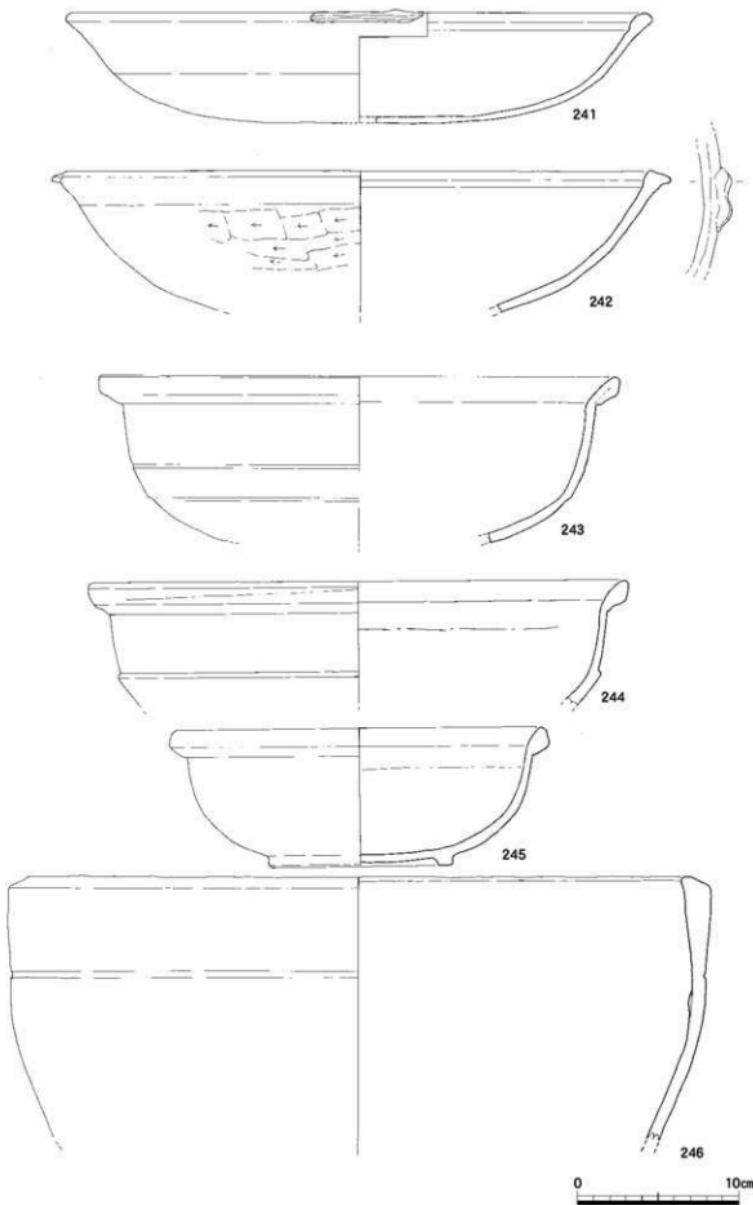
第42図 城下町13次 SK9 出土遺物 (7) (S=1/3)



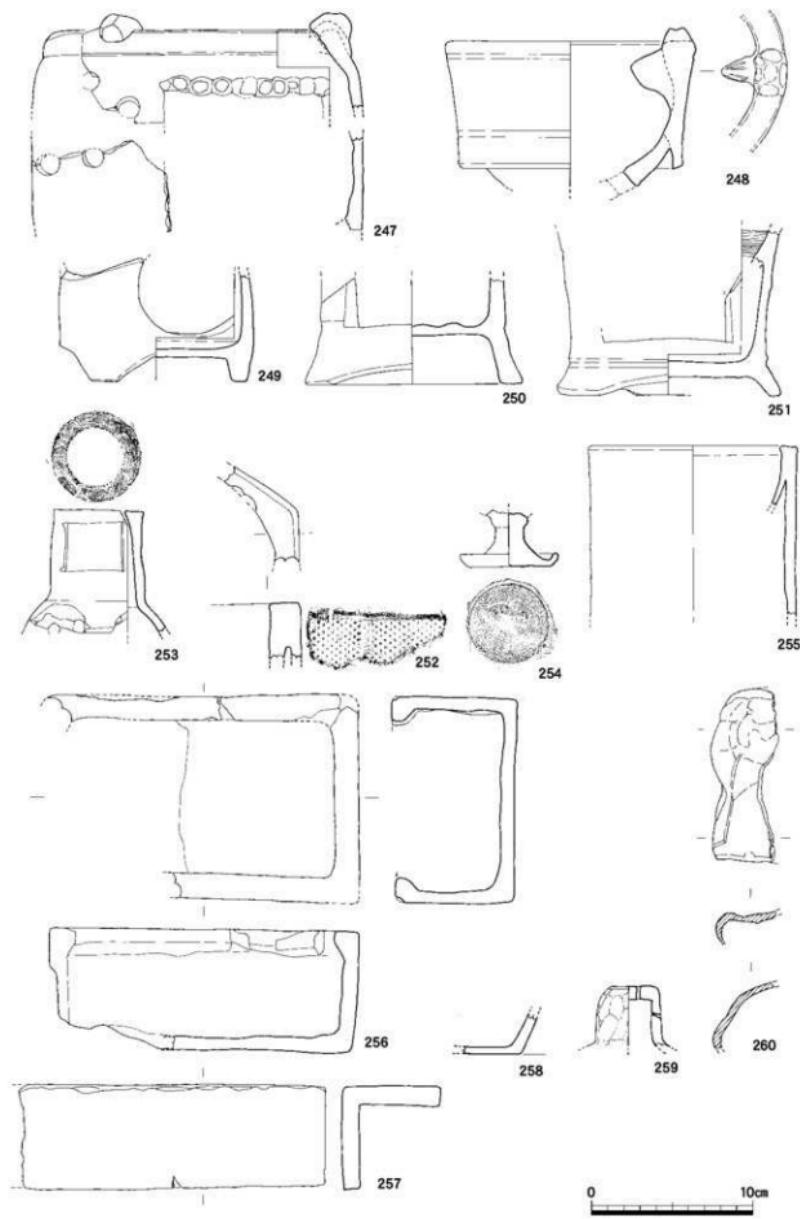
第43図 城下町13次 SK9 出土遺物(8) (S=1/3)



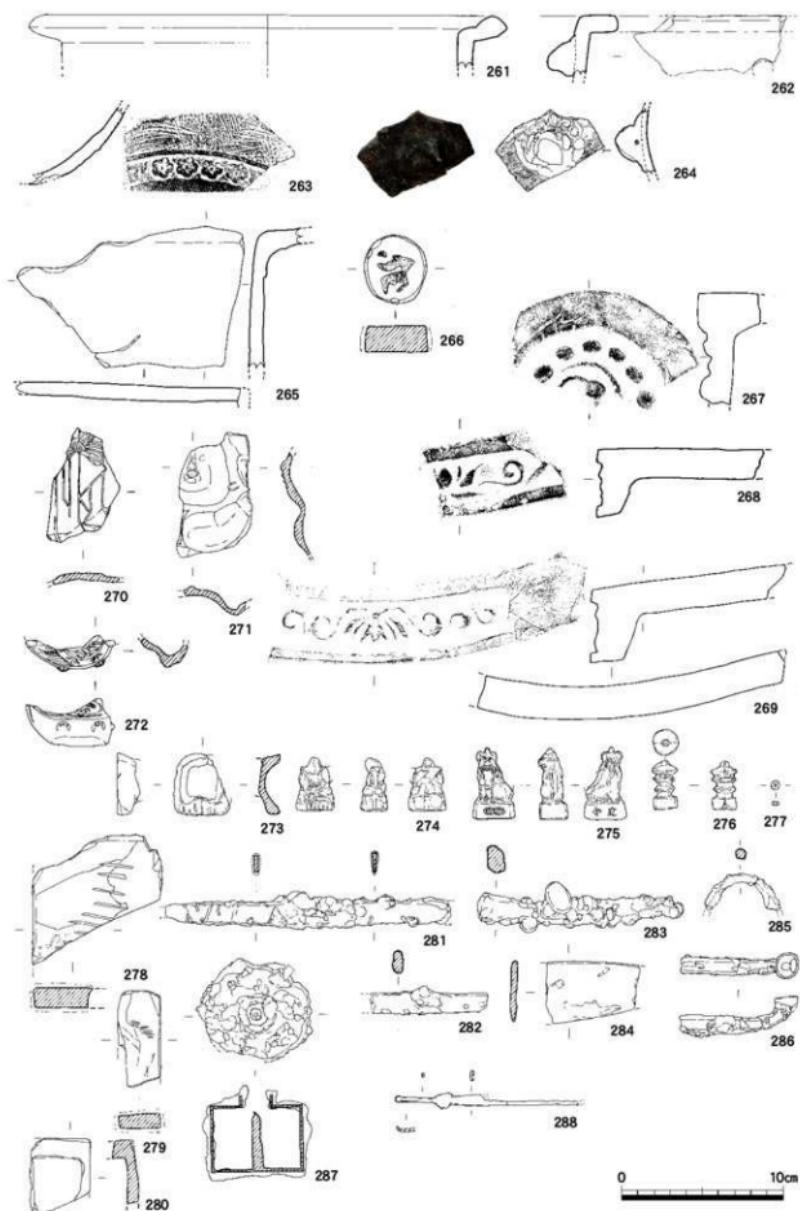
第44図 城下町13次 SK9 出土遺物 (9) (S=1/3)



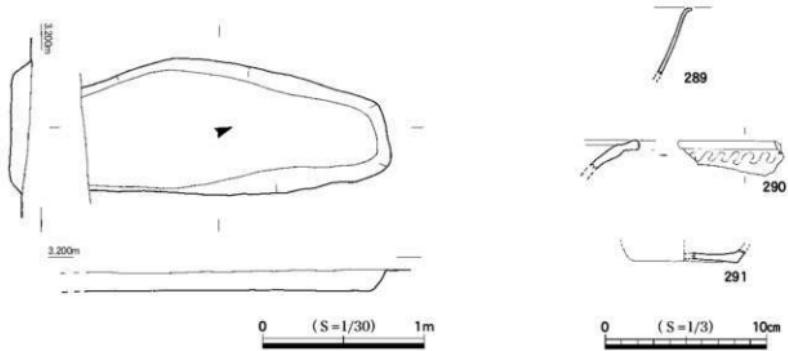
第45図 城下町13次 SK9 出土遺物 (10) ($S=1/3$)



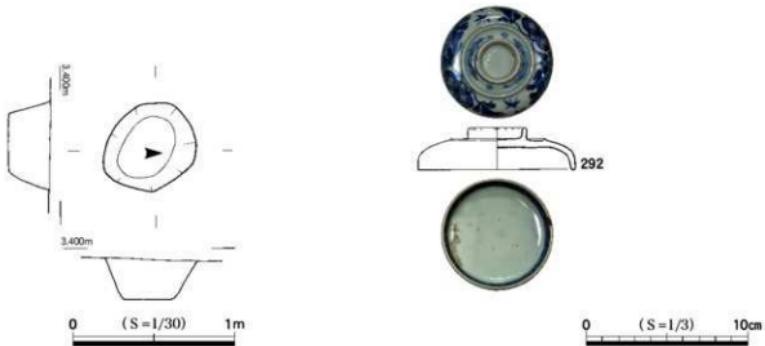
第46図 城下町13次 SK9 出土遺物 (11) (S=1/3)



第47図 城下町13次 SK9 出土遺物 (12) (S=1/3)



第48図 城下町13次 SK10 平・断面図 ($S=1/30$) 出土遺物 ($S=1/3$)



第49図 城下町13次 SK11 平・断面図 ($S=1/30$) 出土遺物 ($S=1/3$)

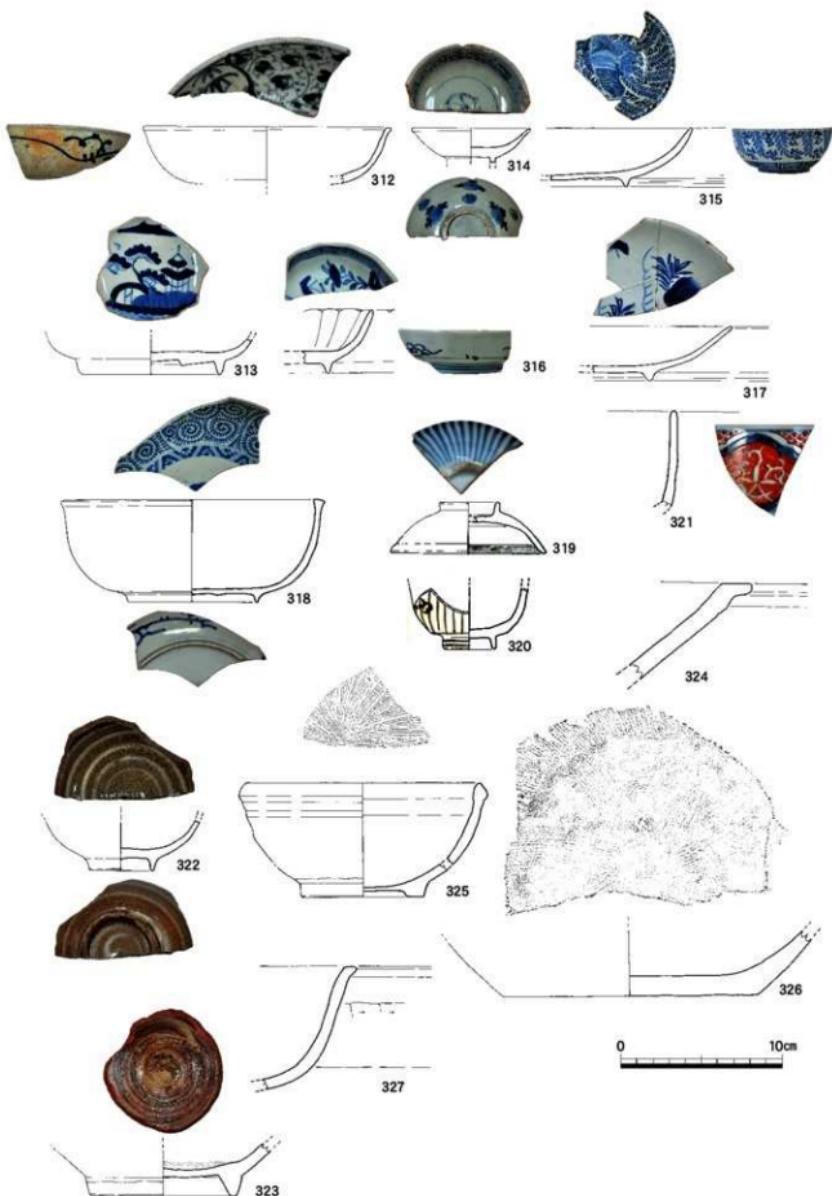
SK9 (第35～47図)

調査区南で検出した。東端と西端の一部は調査区外となり全形は不明である。北-南方向に7.25m、東-西方向に1.8m、深さ1.35cmを測る。遺物の出土量は多量である。埋土に焼土が含まれていることから火災処理土坑と考えられる。遺物には17世紀後半の時期のものも含まれるが、幕末～近代の遺物が一定量出土しており、その時期の所産と考えられる。268点を図化した。

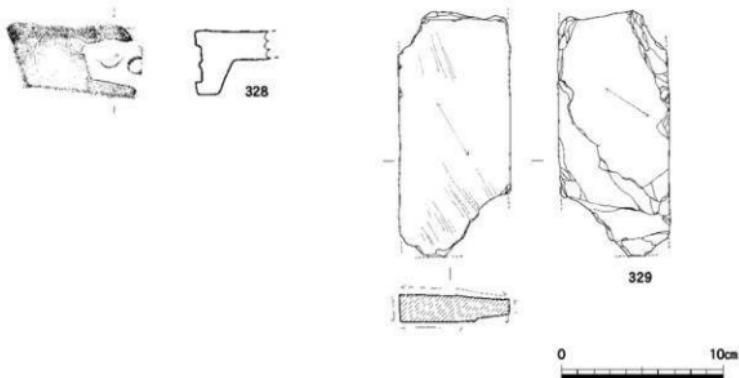
21～139は磁器。21～25、27～40、42、44～48・72は碗。21は高台に櫛歯文、口縁部内面に雷文を施す。19世紀以降の所産。22は外面に梅・松・鶴・亀を描く。見込みに紅色の不明紋様がある。23・24は外面に丸文を描き、22同様見込みに不明紋様がある。25は外面に蝶を描く。広東碗。18世紀後半～19世紀前半の所産。26は大振りの碗。30は青磁染付け。32は碗であろうか。



第50図 城下町13次 一括出土遺物 (1) (S=1/3)



第51図 城下町13次 一括出土遺物 (2) (S=1/3)



第52図 城下町13次 一括出土遺物(3) (S=1/3)

青磁釉で型打ちの蓮弁が認められる。36は広東碗。37は端反碗。38・39の見込みには紅色の不明紋様あり。22～24と同種であろう。40は外面紋様は23・24と同じ。見込みに絵付けはない。41・43・59・60は猪口。44は色絵。49～58は湯のみ。57は蛸唐草を描く。58は大振りの碗。61～71、73～76は小坪。62の紋様は昆虫か。63は「玉川」の文字あり。65は内面に「桜泉亭」の文字あり。67は外面に「峨眉山」の文字あり。70は内面に女を描く。74は内面に「市楽○」の文字あり。75は塩田風景を描く。77～97は皿。77は「為雲為兩林」の文字あり。78は底面に「吉」の文字あり。81・82は楕円形の型打皿。内面に風景を描く。83・84は菊花連弁皿。86・87は見込みに「寿」を描く。88～90は方形の高台をもち、角を切る角皿である。92・93は輪花の手塙皿。19世紀～幕末の所産。94は外面に帆掛舟を描く。95は内面に松を描く。97の内面紋様は松ぼっくりと松葉であろうか。98～100は段重。100は外面に雲を描く。101～107は鉢。101は体部に4箇所縱方向の凹みあり。102は見込みに昆虫紋様、底部に「成化年製」の文字あり。103は灰釉とする。105は外面に草花・唐草・浪を描き、見込みに龍・青海波を描く。赤・青など多種の釉薬を使用している。上物か、底部に「太明成化年製」の文字あり。107は頸部ですばまる碗状の鉢。109は鉢か。108～124は蓋である。110～115・123の口縁部内面は雷文とする。117の外面は金魚を描いたものか。120は外面に蝶を描き、見込みに「壽」の文字あり。121は白磁でつまみがある。122は焼継ぎ痕跡あり。きちんと接合せずややすれる。土状物質が付着。原料は黄色の液体か。125・126は蓮華。125は内面に花唐草文を描く。127～134は瓶。129は外面に蛸唐草文を描く。130は内面をへらで成形する。132は小形。ままごと道具か。134は瑠璃釉とする。137は御神酒徳利。138は型打ちの水滴。139は戸車である。

140～191、193～196、198～239は陶器。140～149は鉢。144はくずした文字がある。145は口縁部に鋸歯文。146は外面に「由八○」の文字あり。148・149は植木鉢か。149には脚が3つ付く。150～154は碗。150は内面に3名人物を描く。156～164は灯明皿。157～162は受け部がある。165は碗。166～169は皿。168は手塙皿であろう。169は内面に雷文を描く。170は片口。

171・172は鍋。173～176は行平。外面は飛び鉢を入れる。174の取手部に亀の型打ちあり。182は行平か。177～180は土瓶。177は鳥を描く。181、183～196は急須。183は外面に「萬歳」の文字あり。186の注口部の穴は2つ。192は土師質土器。内面に墨書で記しあり。194は「霞晴山」を型打ちする。198～204は徳利。201は櫛团子を描く。205は油注か。206は鉢の底部。207は土瓶か。208は壺。209は碗。210は小环。211は猪口か。212は壺の胴部か。213～216、254は秉燭。217～236は蓋。218のつまみは亀をモチーフとする。219は球形のつまみあり。222は焼き継ぎ痕跡あり。234は合子の蓋。236は関西系。19世紀代の所産。238は徳利か。底面に「コモ〇」の墨書あり。239は器種不明。240は器種不明の陶製品。241～259は土師質土器。241・242は焰烙。243～245はこね鉢。端部が外側に肥厚する。高村産。246は甌。247～252は焜炉。249は体部下位に円形の窓あり。250・251は方形の窓を作る。252の平面形は多角形か。253は瓦灯か。255は焜炉か。256・257は器種不明。258は皿か。259は器種不明。260は土製品。人形か。261～265は器種不明の瓦質土器。262は焜炉か。264は獅子頭か。266は瓦を転用した円盤。270・271・273～276は土製品。272は陶製の人形か舟。273は僧侶か武士。275は狛犬。276は三重塔。胎土は赤褐色を呈す。277はガラス小玉。278～280は石製品。278・279は砥石。280は硯。281～288は鉄製品。281・282は刀子か。284は幅広い。刀か。285は何かの取手か。286はキセル。287は用途不明。内部中央に棒状の軸あり。288はかんざし。先端部を円形とする。

SK10（第48図）

調査区南端で検出した。南端は調査区外となり全形は不明である。北・南方向に1.85m、東・西方向に80cm、深さ10cmを測る。遺物は少量出土している。289は磁器の碗。290は陶器の鉢。291は土師器で皿の底部である。

SK11（第49図）

調査区中央で検出した円形土坑である。直径55cm、深さ25cmを測る。遺物は少量出土している。292は磁器の蓋。牡丹や蝶を描く。

一括（第50～52図）

遺構検出時にSK9付近に設定したサブレンチから一定量の遺物が出土している。ガラス瓶などは第35図土層図2層から出土したものと思われるが、取り上げ時の記録不備のため本項目にて報告する。

294は磁器の瓶。口縁部にネジ溝あり。295～303はガラス製品。295は目薬瓶。体部に「DAIGAKU」「EYE LOTION」の銘あり。296は薬瓶か。297は雲丹瓶。体部に「下之関名産 雲丹」「下之関市赤間町 あ」尼安本店製」の銘あり。298は薬瓶。301は体部に「るり羽」「定量」の銘あり。299・300は薬瓶か。300は体部に「PRINCE」の銘あり。301・302は薬瓶か。301は黄褐色透明。303はビール瓶。肩部に「DB」のロゴ、体部下端に「大日本麦酒株式会社」の銘あり。304は磁器碗の底部。305は陶器の皿。306は陶器の片口。307～321は磁器。307～308は碗。307は笛を描く。309～317は皿。309は底面に「大明〇〇」の文字あり。310は海浜風景や山を描く。19世紀代の所産か。311は外面に唐草文を描く。312は内面に笛や唐草を描く。313は松・樓閣・山・海などを描く。314は内面に雷文を描く。見込みは笛文か。315は内面に蛸唐草を描く。316は内面に雷

文を描く。318は鉢で、内面に鳳凰・唐草を描く。319は蓋で外面に条線を描く。320は小壺。321は色絵の段重。金を一部使用。322～326は陶器。322は碗。323・324は鉢。325・326は捕鉢。327は瓦質土器の鍋。328は軒平瓦。329は砥石である。

3. 小結

13次調査区は道路建設に伴う調査ということで縦に長い調査区であった。遺構は標高3.1～3.3m付近で検出し、中央から南にかけて多く検出した。遺構は廃棄土坑が主体で、井戸跡1基や柱穴状遺構を少数検出した。火災処理土坑は発見されていない。遺構の時期は18世紀後半以降の所産がほとんどで、遺構の性格は日常生活で生じた陶磁器の破損品などを廃棄する土坑であったと考える。一方、幕末～近代初頭（明治期）にまで下るSK9からは多量の遺物と共に焼土が出土している。遺物は18世紀後半以降に量産された陶磁器類が大半を占め、遺物の量を考慮すると火災により生じた破損品を廃棄した火災処理土坑と考えられる。

幕末に描かれた絵図では当地に「井上圭之助」の名が見える。井上家については、家格・禄高共に今回の調査では明確にできなかった。間口は北側の道路に面していることがわかり、今回検出された土坑群は屋敷の東端部で検出されることになる。18世紀後半頃、屋敷のどの位置に建物や庭があったのか不明であるが、遺構密度は先述したように北側が低く、南側で高い。この遺構配置が屋敷内の土地利用とどのように関係したのか不明であるが、屋敷地の奥（南側）に土坑が多いことは特筆される。屋敷地の奥には先述したおかこい山があり、山と調査区南端の土坑の距離は直線で10mに満たない。土坑がおかこい山の間際まで構築されていたことがわかる。

表8 城下町13次出土遺物観察表(1)

遺物番号	出土遺構	器種	法量(cm)		成形	装飾			底面内底	製作地	製作年代	備考	
			器高	口径		染付	文様	装飾特質					
1 SK2	磁器・餐付油壺	(3.4)	(5.6)	口クロ	染付・透明釉	外:下部に一重、底部に二重網線			肥前	18C後半~			
2 SK2	磁器・皿	(2.7)		口クロ	染付	内:二重網線			肥前	18C後半~	見込に白釉に移行		
3 SK2	陶器・碗	(1.7)	5.6	口クロ	透明釉							高台に砂目跡	
4 SK1	陶器・天目茶碗	(4.5)		口クロ	鉄釉								
5 SK1	陶器・壺	(5.5)		口クロ	透明釉								
6 SK1	陶器・碗?	(4.6)		口クロ	白土・鉄釉	外:?							
7 SK1	鉄製品・釘?	長さ (5.8)	幅 (1.8)									錆が進行 重さ15g	
8 SK1	鉄製品・釘?	長さ (6.9)										錆が進行 重さ12.3g	
9 SK3	銅製・煙管	(5.3)										表面に錆が進行 重さ4.1g	
10 SK4	陶器・皿	(1.5)		口クロ	透明釉							口縁に輪花?	
11 SK6	土師器・皿	2.6		口クロ								部分的にスス付着	
12 SK7	磁器・碗	(4.4)	(9.5)	口クロ	染付・透明釉	外:草木文? 内:上端に二重網線			肥前	18C後半~			
13 SK7	磁器・湯飲み	5.1	(8.4)	3.6	口クロ	染付・透明釉	外:草木文? 内:草木文?			肥前	18C後半~		
14 SK7	磁器・蓋	2.5	(9.1)	(3.6)	口クロ	染付・透明釉	外:花葉草・つるみに二重網線 内:七宝文	縁有り	肥前	18C後半~		見込?/?	
15 SK7	瓦質土器・鉢	(10.0)		口クロ									
16 SK7	陶器・埴跡	(3.2)		口クロ									
17 SK8	陶器・碗	(2.7)		口クロ	鉄釉?・白土								
18 SK8	陶器・碗	(2.0)		4.6	口クロ	墨灰釉							
19 SK8	陶器・餐盤	(1.4)			板作り	鉄釉・白土・墨灰釉							
20 SK8	陶器製・丸玉	長さ (1.0)	直径 (1.2)									表面を褐色に着色 中央に円孔	
21 SK9	磁器・碗	4.5	10.6	4.0	口クロ	染付・透明釉	外:草花文・高台に唐草文 内:雲文		肥前	19C~			
22 SK9	磁器・碗	5.2	10.0	3.6	口クロ	染付・透明釉	外:梅・松・梅・兔・圓線 内:青花(青花)・圓線	口紅	肥前	18C~1800			
23 SK9	磁器・碗	5.0	9.8	3.6	口クロ	染付・透明釉	外:風塵・丸文(花) 内:風塵	口紅					
24 SK9	磁器・碗	4.8	(9.0)	(3.6)	口クロ	染付・透明釉	外:風塵・丸文(花) 内:風塵	口紅				端反碗	
25 SK9	磁器・碗	6.1	(11.0)	(5.6)	口クロ	染付・透明釉	外:蝶		肥前	1780~1810			
26 SK9	磁器・鉢	(5.7)	(5.6)	口クロ	染付・透明釉	内:?	二重圓線		肥前	18C後半~			
27 SK9	磁器・碗	(5.5)	4.8	口クロ	染付・透明釉	外:風塵?			肥前	18C後半~			
28 SK9	磁器・碗	5.6	(9.2)	(3.6)	口クロ	染付・透明釉	外:草文 内:二重圓線・一重圓線		肥前	18C後半~			
29 SK9	磁器・碗	(3.9)	(8.8)	口クロ	染付・透明釉	外:?		口紅				端反碗	
30 SK9	磁器・碗	(3.9)		口クロ	青磁付・透明釉	内:梅型?		口緑	肥前	18C後半~		見込にハリ支え痕 外側に青磁釉	
31 SK9	磁器・碗	(3.9)	3.6	口クロ	色絵(黒・青)・透明釉	外:草木文? 内:圓線	見込:?						
32 SK9	磁器・碗?	5.2	(9.0)	3.7	型打	青磁	外:透井(型打)					西系?	
33 SK9	磁器・碗?	5.1	(9.8)	4.4	口クロ	染付・透明釉	内:?					18C後半~ 19C 青磁の釉が厚い 口縁に口状の部分有り	
34 SK9	磁器・碗	2.5		4.8	口クロ	染付・透明釉	外:詩歌・二重圓線 内:鳥の尾羽根引			肥前	18C後半~	蛇?/目高台	
35 SK9	磁器・碗	(3.9)	(3.8)	口クロ	染付・透明釉	外:花(椿?)			肥前	18C後半?~		内外面に實入有り	
36 SK9	磁器・碗	(4.5)	5.4	口クロ	染付・透明釉	外:草 内:?			肥前	1780~1810	広東碗		
37 SK9	磁器・碗	4.8	(9.2)	(3.6)	口クロ	色絵(朱・青)? 透明釉	見込:?	口紅				端反碗 燒繼文有り	
38 SK9	磁器・碗	5.5	(9.6)	3.4	口クロ	色絵(朱・黄・青) 絞(じぞう)・透井	外:竹・花	口紅				端反碗	
39 SK9	磁器・碗	6.1	10.6	4.6	口クロ	色絵(朱・黒・青)・透明釉	外:草花文・圓線 内:唐草文					端反碗	
40 SK9	磁器・碗	5.1	(9.6)	(3.0)	口クロ	色絵(朱・青)? 透井・煎餅	外:丸文(花)・圓線	口紅				端反碗	
41 SK9	磁器・猪口	4.8	(6.6)	3.0	口クロ	染付・透明釉	外:?, 上間に二重圓線 底, 高台に二重圓線			肥前	19C代~		
42 SK9	磁器・碗	4.4	(8.0)	(3.2)	口クロ	染付・透明釉	外:?	口緑				端反	
43 SK9	磁器・猪口	4.0	(6.4)	2.4	口クロ	染付・透明釉	外:草木文・	表面に乳斑有り	肥前	19C代~			
44 SK9	磁器・碗	(4.0)	(9.0)		口クロ	色絵(赤・青・緑)・透明釉	内:?	燒繼				端反碗 反転復元	
45 SK9	磁器・碗	4.0	(8.4)	(3.4)	口クロ	色絵(朱・青) 絞(じぞう)・透井	外:草花文・圓線					端反碗	
46 SK9	磁器・碗	(1.5)	(3.8)	口クロ	染付・透明釉	外:花・松?・?							
47 SK9	磁器・碗	(2.4)	(4.0)	口クロ	染付・透明釉	内:木?・?							
48 SK9	磁器・碗	(5.3)	(5.0)	口クロ	染付・透明釉	外:木?裏文?に二重圓線							
49 SK9	磁器・湯飲み	5.0	(7.2)	(3.0)	口クロ	染付・透明釉	外:松葉文			肥前	18C後半?~		
50 SK9	磁器・湯飲み	(4.8)	(6.2)	(2.8)	口クロ	染付・透明釉	外:松葉文	口緑	肥前	18C後半?~	高台に砂目跡		
51 SK9	磁器・湯飲み	5.6	(6.6)	3.0	口クロ	染付・透明釉	外:松葉文	口緑	肥前	18C後半?~	高台に砂目跡		

表9 城下町13次出土遺物観察表(2)

遺物番号	出土遺構	器種	法量(cm)		成形	装飾			底面内底	製作地	製作年代	備考
			高さ	口径		給付釉裏	文様	装飾質				
52 SK9	磁器・湯飲み	4.7 (6.2) (3.2)	ロクロ		染付・透明釉	外:草甲文・編蝠文?			肥前	18C後半~		
53 SK9	磁器・湯飲み	(4.6) (6.4)	ロクロ		染付・透明釉	外:丸文(スキ)			肥前	18C後半~		
54 SK9	磁器・湯飲み	(3.4)	(3.2) ロクロ		染付・透明釉	外:草甲文・二重圓紋、高台に一重圓紋			肥前	18C後半~	内面に砂目痕	
55 SK9	磁器・湯飲み	4.1 (6.6)	3.2 ロクロ		染付・透明釉	外:蕃草・楓葉・一重圓紋、高台に三重圓紋			肥前	18C後半~	内外面に質入有り	
56 SK9	磁器・湯飲み	(4.4)	7.0	ロクロ	染付・透明釉	外:草木文?			肥前	18C後半~		
57 SK9	磁器・湯飲み?	4.8 (7.8) (7.5)	ロクロ		染付・透明釉	外:草花文・圓紋			肥前	19C後半?	口縁部と底部が黒化	
58 SK9	磁器・湯飲み	8.3 8.0	4.8 ロクロ		染付・透明釉	外:竹林・人物・二重圓紋			肥前	19C後半~		
59 SK9	磁器・猪口	(3.9) (6.0)	ロクロ		染付(金)-透明白	外:竹林・人物・二重圓紋			肥前	18C後半~		
60 SK9	磁器・猪口	5.9 6.0	3.2 ロクロ		染付・透明釉	外:松葉文			肥前	18C後半~	高台に砂目跡	
61 SK9	磁器・小坪	1.9 (5.6) (2.4)	白磁			外:?			肥前	18C後半~		
62 SK9	磁器・小坪	2.5 6.4	2.2 ロクロ		染付・透明釉	外:星虫?			肥前	18C後半~	高台に砂目痕	
63 SK9	磁器・小坪	3.2 7.4	2.1 ロクロ		染付・透明釉	外:草花文・玉川川鶴			肥前	18C後半~		
64 SK9	磁器・小坪	4.6 (6.0) 2.8	ロクロ		染付・透明釉	外:アヤメ			肥前	18C後半~	高台に砂目跡	
65 SK9	磁器・小坪	2.8 (6.6) (2.2)	ロクロ		染付(金)-透明白	外:二重圓紋	口紅	底面に絵	肥前	19C後半?	端反	
66 SK9	磁器・小坪	(2.7) (6.4) (3.4)	ロクロ		染付・透明釉	内:松?					幕末~近代	
67 SK9	磁器・小坪	(3.0) (5.4)	ロクロ		染付(金)-透明白	外:山水風景、礫山	口紅				幕末~近代	
68 SK9	磁器・小坪	3.4 (5.0) (2.8)	白磁			外:?						
69 SK9	磁器・小坪	3.7 (6.6) 2.8	ロクロ		染付・透明釉	小(火)草文・高台に二重圓紋	底面に絵・圓紋		肥前	19C後半~	端反	
70 SK9	磁器・小坪	(2.7) (6.3) (2.6)	ロクロ		染付(青・黄・緑)	外:?						
71 SK9	磁器・小坪	2.7 6.6	2.5 ロクロ		染付(青・黄・緑)	外:?						
72 SK9	磁器・碗	(3.9) (9.6)	ロクロ		染付(金)-透明白	外:盤?	口縁		肥前	19C後半~	高台内側に砂目痕	
73 SK9	磁器・小坪	4.4 (6.6) (3.2)	ロクロ		染付・透明釉	手足・二重圓紋			肥前	19C後半~		
74 SK9	磁器・小坪	2.9 (6.6) 2.6	ロクロ		染付・透明釉	内:「市」の文字			肥前	19C後半?	端反	
75 SK9	磁器・小坪	(2.3) (5.0) (2.2)	ロクロ		染付・透明釉	島(鹿児島県鹿屋)?、扇形					幕末~近代	器底がぐく薄い
76 SK9	磁器・小坪	(2.0) (2.6)	ロクロ		染付・透明釉	見込・草木(松?)					幕末~近代	
77 SK9	磁器・皿	2.0 (9.2) (4.8)	ロクロ		染付・透明釉	片(高台に文字・柱の跡)			肥前	19C後半~		
78 SK9	磁器・皿?	(1.3)	ロクロ		染付・透明釉	外:?	底面に「吉」絵		肥前	19C後半~		
79 SK9	磁器・皿	2.9 (8.6) (2.6)	ロクロ		染付・透明釉	内:松・松			肥前	19C後半~		
80 SK9	磁器・皿	(1.5)	(3.4) ロクロ		染付・透明釉	外:桜花文			肥前	19C後半~		
81 SK9	磁器・皿	1.5 高8.4 幅5.9 厚3.4	型打		染付・透明釉	内:風景(山水)					幕末~近代?	平面形が橢円形 口縁にゆがみ有り
82 SK9	磁器・皿	1.7 高8.0 幅5.9 厚3.4	型打		染付・透明釉	内:風景(山水)					幕末~近代?	高台内側に砂目痕
83 SK9	磁器・皿	2.5 高3.4	4.4 型打		青磁	内:変形菊花渦弁(型打)						口縁部は輪花、 青磁地が厚い
84 SK9	磁器・皿	2.3 (9.0) (5.4)	型打		青磁							
85 SK9	磁器・皿	3.6 (14.0) (8.6)	ロクロ		染付・透明釉	外:?			肥前	18C後半~	蛇/自凹型高台	
86 SK9	磁器・皿	2.0 (10.0) 5.0	型打		白磁	見込・「夷」(型打)					鍋戸美濃	
87 SK9	磁器・皿	2.0 (10.0) 5.4	型打		白磁	見込・「夷」(型打)					鍋戸美濃	
88 SK9	磁器・皿	2.5 (8.2) 4.2	型打		白磁	内:繪形文・柳葉文 見込・花文					角皿	
89 SK9	磁器・皿	2.2 8.2	3.5 型打		染付・透明釉	内:雷文 見込・海(花型打・染付)					隅を切った角皿	
90 SK9	磁器・皿	2.3 (7.8) (3.7)	型打		透明釉	内:繪形(型打) 見込・桜花文(型打)					平面形・高台は方形	
91 SK9	陶器・皿	(1.8)	(6.0) ロクロ			外:草文(麻刻)						
92 SK9	磁器・皿	3.0 (12.8) (6.0)	型打?		鉄釉・透明釉	口縁	ヘラ切り		肥前	19C後半?	口縁部は輪花、 蛇/自凹型高台見込	
93 SK9	磁器・皿	3.9 13.8	7.4 型打		透明釉	見込・吹墨?	口縁		肥前	19C~幕末	口縁部は輪花、 蛇/自凹型高台見込	
94 SK9	磁器・皿	(2.3)	7.6 ロクロ		染付・透明釉	外:波・帆掛舟 内:風景			肥前	18C後半?	蛇/自凹型高台	
95 SK9	磁器・皿	2.9 (13.0)	(8.0) 型打?		染付・透明釉	内:風景(松他)	口縁		肥前	18C後半?	口縁部は輪花、 蛇/自凹型高台	
96 SK9	磁器・皿	(3.0)	(11.6) ロクロ		染付・透明釉	外:?			肥前	18C後半?	蛇/自凹型高台	
97 SK9	磁器・皿	4.0 (18.6) 4.0 (14.6)	(8.2) 型打		染付・透明釉	外:水草 内:松葉?			肥前	19C後半?	口縁部は輪花、 蛇/自凹型高台見込	
98 SK9	磁器・段巻	2.5 11.8	10.8 ロクロ		染付・透明釉	外:里花文?					18C後半?	口縁部と高台外側が輪花
99 SK9	磁器・段巻	2.9 10.9	10.0 ロクロ		染付・透明釉	外:草花文?					18C後半?	口縁部と高台外側が輪花
100 SK9	磁器・段巻	4.7 (12.8) (11.6)	ロクロ		染付・透明釉	外:草・雲 内:花唐草					18C後半?	口縁部と高台外側が輪花
101 SK9	磁器・鉢	(4.7) 13.0	ロクロ		染付・透明釉	内:?					18C後半~	口縁上端に雲の文様 全体に4つ所輪花印判有り
102 SK9	磁器・鉢	(4.2) 7.0	ロクロ		染付・透明釉	外:輪?雲?・團解 見込・草・草花・團解	底面に「成化年製」絵		肥前	19C後半~		
103 SK9	磁器・鉢?	8.0 (14.6) (8.4)	ロクロ			外:?						高台に強烈の抉り
104 SK9	磁器・鉢	(4.5) (18.8)	ロクロ		染付・透明釉	外:?						
105 SK9	磁器・鉢	8.1 (15.4) (6.6)	ロクロ		色絵(赤・青・緑) 黄(ウイス・白) 透明釉	外:草花・文・草文・波 内:井?配?	見込・草・青波・雲・團解			1810~1860	端反・114と同一	

表10 城下町13次出土遺物観察表(3)

遺物番号	出土遺構	器種	法量(cm)			成形	装飾			底面内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径	底径		給付輪軸	文様	装飾部				
106 SK9	磁器・器種不明	(3.9)	ロクロ	染付・透明釉	外:風景 内:草花・風景 見込:?	肥前	19C代	口縁部に織文様					
107 SK9	磁器・鉢?	6.6 (11.4)	(6.6)	ロクロ	染付・透明釉				平面形は隅丸方形				
108 SK9	磁器・蓋	(2.3) (9.6)	ロクロ	染付・透明釉	外:蝶?-? 内:?	肥前	18C後~						
109 SK9	磁器・鉢?	5.0	ロクロ	青磁				口縁部を削り出し					
110 SK9	磁器・蓋	2.5 (8.8)	2つ穴 (3.4)	ロクロ	染付・透明釉	外:豪牡丹・真重、二重圓線 内:雷文、團練 見込:松竹梅円形文?	底面有り	肥前	19C代?~				
111 SK9	磁器・蓋	2.8 9.0	2つ穴 (3.7)	ロクロ	染付・透明釉	外:?							
112 SK9	磁器・蓋	2.9 (8.8)	2つ穴 (3.7)	ロクロ	染付・透明釉	外:前立・重ね立、二重圓線 内:雷文 見込:管円形		肥前	19C代?~				
113 SK9	磁器・蓋	2.4 (8.7)	2つ穴 (3.4)	ロクロ	染付・透明釉	外:裏面、裏面に梅? 内:雷文?	底面に鋸	肥前	19C代?~				
114 SK9	磁器・蓋	2.9 (9.6)	2つ穴 (3.8)	ロクロ	染付・透明釉	外:草花文?、二重圓線 内:雷文 見込:管円形		肥前	19C代?~				
115 SK9	磁器・蓋	2.8 (9.4)	2つ穴 (4.0)	ロクロ	染付・透明釉	外:雅樂の文字、風景 内:雷文 見込:管円形							
116 SK9	磁器・蓋	2.1 (7.4)	2つ穴 (2.9)	ロクロ	色絵(赤・黒・ 青・金白)・ 透明釉	外:金魚? 内:一重圓線	底面に手描き 鋸	肥前	19C代?~				
117 SK9	磁器・蓋	2.6 (9.2)	2つ穴 (4.0)	ロクロ	染付・透明釉	外:金魚? 内:一重圓線		肥前	19C代?~				
118 SK9	磁器・蓋	2.3 (9.4)	2つ穴 (4.3)	ロクロ	染付・透明釉	内:梅花、團練 見込:?		肥前	19C代?~				
119 SK9	磁器・蓋	2.3 8.8	3.6	ロクロ	染付・透明釉	外:花蝶文、丸に二重圓線 内:一重圓線 見込:?		肥前	19C代?~	底面に買入有り			
120 SK9	磁器・蓋	2.7 (8.7)	2つ穴 (3.6)	ロクロ	染付・透明釉	外:扇・蝶 内:?		肥前	19C代?~				
121 SK9	磁器・蓋	4.2	9.2	ロクロ	白磁			肥前	19C代?~	2つ穴は断面逆台形 外側に買入有り 焼継ぎ痕有り			
122 SK9	磁器・蓋	4.2 15.0		ロクロ	染付・透明釉	外:唐草文		肥前	19C代?~				
123 SK9	磁器・蓋	3.2 10.6	4.2	ロクロ	染付・透明釉	外:満春文・蝶 内:雷文	底面に「福」鋸	肥前	19C代?~				
124 SK9	磁器・蓋?	(9.0) 7.0	4.4	ロクロ	染付・透明釉	外:竹		肥前	19C代?~				
125 SK9	磁器・蓮華	(3.6) [10.0]	4.8	型打	染付・透明釉	外:唐草文 内:花唐草文		肥前	19C代?~	焼継ぎ痕有り			
126 SK9	磁器・蓮華	長さ 5.4	10.0 5.0	型打	染付・透明釉	内:草花文		肥前	19C代?~				
127 SK9	磁器・瓶	(6.0)	(5.0)	ロクロ	染付・透明釉	側面:?		肥前	19C代?~				
128 SK9	磁器・瓶	(3.8) 2.2		ロクロ	透明釉	外:草木文、二重圓線				小型・長瓶 買入有り			
129 SK9	磁器・瓶	(3.2) (1.4)		ロクロ	染付・透明釉	外:鍋唐草文		肥前	19C代?~				
130 SK9	磁器・瓶?	4.5 (3.0)		ロクロ	染付・透明釉	外:雷文・梅樹		肥前	19C代?~	内面にへらによる彫形痕			
131 SK9	磁器・瓶	(3.0)	最大径 4.2	ロクロ	瑠璃釉								
132 SK9	磁器・ままごと道具 (瓶)	半部径 (4.0)	3.0	ロクロ	白磁	外:沈綴							
133 SK9	磁器・瓶	(3.0)		ロクロ	染付・透明釉	外:?							
134 SK9	磁器・瓶	(3.6)		ロクロ	瑠璃釉								
135 SK9	磁器・餐付油壺?	(5.0)	半部径 (7.8)	(5.0)	ロクロ	透明釉							
136 SK9	磁器・餐付油壺	(4.1) 2.4		ロクロ	染付・透明釉	外:折れ松葉		肥前	19C代?~				
137 SK9	磁器・御神酒德利	体部径 (8.4)	4.2	ロクロ	染付・透明釉	外:鍋唐草、二重圓線		肥前	19C代?~	底面に砂目跡			
138 SK9	磁器・水滴?	(2.3)		型打	透明釉	外:?(型打の文様)							
139 SK9	磁器・戸車	厚さ 1.1	長径 (5.1)	ロクロ?	透明釉					側面と中央の孔に透明輪			
140 SK9	陶器・鉢?	(8.3) (32.8)		ロクロ	綠釉?								
141 SK9	陶器・鉢	(5.5) (13.6)		ロクロ	灰釉?					買入有り			
142 SK9	陶器・鉢?	3.9 (11.0)	(6.2)	ロクロ	染付・白土・ 透明釉	外:?				端反			
143 SK9	陶器・鉢?	(4.2) (14.6)		ロクロ	透明釉	内:?				体部外面にスズ付蓋 四隅が凹んだ方形 全体に買入有り			
144 SK9	陶器・鉢	4.3 (8.0)	(4.4)	型打	染付・白土・ 透明釉	外:花文(白土)、口縁 部に团練文(銀板)				買入有り			
145 SK9	陶器・鉢	(6.0) (16.4)		ロクロ	鉢輪・白土・ 透明釉	内:花?							
146 SK9	陶器・鉢	5.2 6.0	4.0	ロクロ	白土・透明釉	外:由(ハシ)	角切り						
147 SK9	陶器・鉢	(4.5)		ロクロ	白色釉・鉄釉					鉄釉は外側 買入有り			
148 SK9	陶器・植木鉢	(5.5) (8.0)		ロクロ	透明釉					底部に中央に孔有り 高台に切り込み有り			
149 SK9	陶器・植木鉢?	9.3 (11.6) (7.2)		ロクロ	透明釉					小さい脚が3つ付く			
150 SK9	陶器・碗	5.7 12.8	5.2	ロクロ	陶胎染付・土・ 灰釉?	外:花、團練 内:草花、風景							
151 SK9	陶器・碗	(2.5)	(3.5)	ロクロ	陶胎・土・透明釉	ホーリンサウナイト							
152 SK9	陶器・碗	(2.2)	(4.2)	ロクロ	墨釉?								
153 SK9	陶器・碗	(2.8)	3.7	ロクロ	鉢輪・墨釉	内:?							
154 SK9	陶器・碗	(2.6)	(3.6)	ロクロ	鉢輪								

表11 城下町13次出土遺物観察表(4)

遺物 番号	出土遺構	器種	法量(cm)			成形	装飾			底面 内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径	底径		給付釉面	文様	装飾特徴				
155	SK9	陶器・基盤のみ	5.3	6.8	3.6	ロクロ	染付・灰釉	外:丸文					口縁部にスス付裏 見込式ハリ支承板?
156	SK9	陶器・灯明皿	1.5	6.8	3.0	ロクロ	透明釉						内面に貢入有り
157	SK9	陶器・灯明受け皿	1.1	(5.8)	(2.6)	ロクロ	透明釉			ヘラ切り			受け皿に切込み 口部外側にスス付裏
158	SK9	陶器・灯明受け皿	2.2	(11.6)	(4.6)	ロクロ	透明釉			ヘラ切り			受け皿に切込み 内面に貢入有り
159	SK9	陶器・灯明受け皿	1.9	10.4	3.8	ロクロ	透明釉			ヘラ切り			受け皿に切込み有り 貢入有り
160	SK9	陶器・灯明受け皿	1.1	(6.5)	(3.0)	ロクロ	透明釉			ヘラ切り?			口縁部にスス付裏
161	SK9	陶器・灯明受け皿	1.1	(6.8)	(3.5)	ロクロ	透明釉			ヘラ切り			外側に少しあ付裏
162	SK9	陶器・灯明受け皿	1.0	(6.3)	(3.0)	ロクロ	透明釉			ヘラ切り			内面に貢入有り
163	SK9	陶器・灯明皿?	1.6	6.8	3.0	ロクロ	透明釉			糸切り			口縁部にスス付裏
164	SK9	陶器・灯明皿?	1.8	6.7	2.6	ロクロ	透明釉			糸切り			口縁部にスス付裏
165	SK9	陶器・碗?	(1.6)		(5.2)	ロクロ	墨染付・薄灰釉	外:線文様(白土)					外側に少しあ付裏
166	SK9	陶器・皿?	(1.7)		(5.2)	ロクロ	透明釉						内面に貢入有り
167	SK9	陶器・皿	(1.5)			ロクロ	緑釉						受け皿に切込み 内面に貢入有り
168	SK9	陶器・手塩皿?	1.4	長さ 5.0	1.8	型打	綠釉・透明釉	内:葉脈(型打)、綠釉 の鉢縁					全体に貢入有り
169	SK9	陶器・皿?	3.0	(15.0)		ロクロ	染付・釉薬	外:?					平面形が吸音の形 小さい輪高台
170	SK9	陶器・片口	10.9	(21.0)	9.0	ロクロ	透明釉						
171	SK9	陶器・瓶	(8.1)	(17.2)	(8.5)	ロクロ	染付・白土・ 透明釉	外:草花文(染付)					半環状の取手が2つ 注口有り 底面に吸音があり 半環状の取手付き 見込式ハリ支承板?
172	SK9	陶器・瓶	7.8	(13.9)	(4.9)	ロクロ	鉄釉						底部にスス付裏
173	SK9	陶器・行平	8.0	12.6	5.1	ロクロ	鉄釉	外:飛び鉄					
174	SK9	陶器・行平	(8.0)	(14.1)	(6.2)	ロクロ	鉄釉	外:飛び鉄					関西系 18C後半?
175	SK9	陶器・行平	(7.4)	(17.2)		ロクロ	鉄釉・灰釉?	外:飛び鉄					内面に灰釉?
176	SK9	陶器・行平	(4.8)	11.1	4.5	ロクロ	鉄釉	外:飛び鉄					内外面にスス付裏
177	SK9	陶器・土瓶	(12.7)	9.5	(17.9)	ロクロ	体表面 白土・透明釉	外:鳥・格子紋・圓彫					注口部の孔はつ 体表面にスス付裏
178	SK9	陶器・土瓶	(8.3)	9.0	15.3	ロクロ	灰釉?						注口部の孔はつ 体表面に沈線
179	SK9	陶器・土瓶	(10.1)	(9.4)		ロクロ	時白土?・透明白	外:?(白土)					内外面に貢入有り
180	SK9	陶器・土瓶?	(2.3)	(10.0)		ロクロ	白土・透明釉	外:イッヂ印掛け?					貢入有り
181	SK9	陶器・急須	6.8	5.8	4.8	ロクロ	鉄釉・白土	外面:?					
182	SK9	陶器・行平?	(5.4)	(12.8)	(13.5)	ロクロ	透明釉						内外面に貢入有り
183	SK9	陶器・急須	(4.2)	(5.8)		ロクロ	透明釉	外:「萬歳」の金泥文字					注口部の孔は2つ 外側面に貢入有り
184	SK9	陶器・急須?	(3.4)			ロクロ	白土・透明釉	外面:イッヂ印掛け?					注口部の孔は3つ
185	SK9	陶器・急須	(3.8)			ロクロ	透明釉						注口部の孔は3つ 買入有り
186	SK9	陶器・急須?	(3.3)			ロクロ	白土・透明釉						注口部の孔は2つ 外側面に貢入有り
187	SK9	陶器・急須?	(3.2)			ロクロ							小形の圓形 注口部の孔は6つ
188	SK9	陶器・急須	(3.5)			ロクロ	鉄釉						注口部の孔は2つ 外側面に貢入有り
189	SK9	陶器・急須?	(1.6)	(5.6)		ロクロ	透明釉						注口部の孔は3つ 注口部に孔は3つ
190	SK9	陶器・急須?	(2.4)			ロクロ	白土・透明釉	外:?					注口部の孔は3つ 注口部に孔は3つ
191	SK9	陶器・急須?	(2.6)			ロクロ	透明釉						
192	SK9	土師質土器・急須	3.6	長さ 12.1	幅 7.9	不明		外:雷文		底面に墨書き	関西系		
193	SK9	陶器・急須?	(4.8)			型打		上面:?(型打)					取手部
194	SK9	陶器・急須?	(6.4)			型打	鉄釉	「青磯山」(型打)					取手部
195	SK9	陶器・急須?	(1.4)			手づくね?	透明釉						取手部
196	SK9	陶器・急須	(3.2)			ロクロ	白土・反釉	外:?(白土)					取手部
197	SK9	土師質土器・急須?	(2.4)			板作り							五角形の筒状 内外面とも白目白
198	SK9	陶器・德利	(13.0)	(2.2)	体表面 (5.0)	ロクロ	鉄釉・緑釉・ 透明釉	外:円板状の貼付、唇 子状(鉄釉)					口縁部から体部上 位に鉄釉
199	SK9	陶器・德利	(9.2)			ロクロ	鉄釉・透明釉	外:?					外側面に貢入有り
200	SK9	陶器・德利	(6.6)			8.2	ロクロ	透明釉		ヘラ切り 墨書き有り			注ぎ口に鉄釉
201	SK9	陶器・德利	(13.3)	(3.4)	体表面 (6.8)	ロクロ	鉄釉・緑釉・ 透明釉	外:串だんご(鉄釉)					全体に細い貢入有り
202	SK9	陶器・德利	(13.3)	(3.4)	体表面 (5.5)	ロクロ	緑釉・透明釉						外側に細かい横ナデ
203	SK9	陶器・德利	(6.6)	3.5		ロクロ	鉄釉?						外側に細かい横ナデ
204	SK9	陶器・德利	(4.3)	(2.2)		ロクロ	鉄釉						注口・取手部欠損 外側面に貢入有り
205	SK9	陶器・油注?	9.5	(7.6)	7.8	ロクロ	透明釉		ヘラ切り				底面に円形の切り込み
206	SK9	陶器・鉢?	(3.2)		(6.1)	ロクロ	鉄釉・白土						

表12 城下町13次出土遺物観察表（5）

遺物 番号	出土遺構	器種	法量(m)		成形	装飾			底面 内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径		繪付絵葉	文様	装飾特徴				
207	SK9	陶器・土瓶?	(10.4)	(10.0)	底部厚(18.0) ロクロ	鉄船	外: 体部上位に細い 多条の横縞					
208	SK9	陶器・壺	5.6	7.3	3.6	ロクロ	鉄船		あ切り後ナデ			体部全盛の上半にカキ目 トシノ痕
209	SK9	陶器・壺	4.0	(9.2)	(3.2)	ロクロ	透明釉					貰入有り
210	SK9	陶器・小壺	(1.3)		(3.2)	ロクロ	透明釉					
211	SK9	陶器・口?	(2.5)		(3.4)	ロクロ	透明釉					高台に切りこみ
212	SK9	陶器・甕?	(5.5)			ロクロ						
213	SK9	磁器・東風	(2.0)	(6.0)	(2.8)	ロクロ	鉄船		あ切り			スヌ井義
214	SK9	陶器・東風	(5.2)			ロクロ	鉄船		あ切り			
215	SK9	陶器・東風	8.6	3.9	4.8	ロクロ	鉄船		あ切り			取手・注口有り
216	SK9	陶器・東風	8.2	3.4	4.3	ロクロ	鉄船		あ切り			
217	SK9	陶器・蓋	3.5	(13.0)	(5.0)	ロクロ	透明釉		ヘラ切り			天井部につまみ? 中央部に少々貰入有り
218	SK9	陶器・蓋	3.1	10.9	3.7	ロクロ	白土・透明釉	外面: イッヂン掛け	口紅	あ切り		つまみは電
219	SK9	陶器・蓋	1.6	7.6	2.0	ロクロ	透明釉			ヘラ切り?		つまみが球形 孔は船でふさがる 外側面入有り
220	SK9	陶器・蓋	(1.4)	7.8	6.1	ロクロ						体部に小孔有り つまみ欠損
221	SK9	陶器・蓋	(2.5)	7.0	4.8	ロクロ	透明釉					つまみは欠損
222	SK9	磁器・蓋	(1.7)	(6.8)		ロクロ	染付・透明釉	外: 風景				つまみ・巻き模様有り
223	SK9	陶器・蓋	(1.4)			ロクロ	白土・透明釉					上部に貰入有り
224	SK9	陶器・蓋	2.0	(7.0)		ロクロ	白土・白土・絵葉	外: 蓋草文				
225	SK9	陶器・蓋	2.0	(9.0)		ロクロ	鉄船	つまみ・渦巻きの文様				つまみは扁平
226	SK9	陶器・蓋	(1.4)	5.0	1.6	ロクロ	鉄船	外: ?	あ切り			
227	SK9	陶器・蓋	1.4	7.2		ロクロ	透明釉		あ切り			貰入有り
228	SK9	陶器・蓋	1.6	6.6	3.4	ロクロ	透明釉		口紅?	あ切り		貰入有り
229	SK9	陶器・蓋	(1.7)	(9.4)	(7.4)	ロクロ	白土・透明釉					部分的に貰入有り
230	SK9	陶器・蓋?	(2.0)	(15.0)		ロクロ	鉄船	外: 飛び鉄?				
231	SK9	陶器・蓋	(2.5)	5.9	4.0	ロクロ	白土・透明釉					つまみ有り
232	SK9	陶器・蓋	0.8	4.4	3.6	ロクロ	透明釉					
233	SK9	陶器・蓋	(2.2)		(15.0)	ロクロ	白土・吹付・反推動	外: 草花文(藤?)				内外面に貰入有り
234	SK9	陶器・蓋	2.3		4.6	ロクロ	輪(黒・青色)	外: 花文				合子の蓋
235	SK9	陶器・蓋	(0.9)	4.7	2.0	ロクロ	白土・透明釉	外: 滾渦巻き	あ切り			取手は欠損
236	SK9	陶器・蓋	1.2			ロクロ	鉄船	外: 蓋草文				内面中央に胎土目 窓?
237	SK9	陶器・器種不明	(12.2)			ロクロ	鉄船・白土	外: 線文様(鉄船・白土)				
238	SK9	陶器・拂利?	(1.1)		7.6	ロクロ	白土・透明釉	内: 線文様(白土)				
239	SK9	陶器・器種不明	(2.7)		5.6	ロクロ	透明釉		封印? (モルタル)			把手状の突起の跡有り 内面に貰入有り
240	SK9	陶製品・不明	高さ (1.5)		1.8							半球状の中央に小孔
241	SK9	土師質土器・焰壺	(6.8)	(36.0)		ロクロ						全体的にスヌ付蓋
242	SK9	土師質土器・焰壺?	(8.6)	(37.2)		ロクロ						口部深部に2つの把手 内部に直上から口縫部に赤色粘土を塗布
243	SK9	土師質土器・ごね跡?	(10.2)	(32.0)		ロクロ						口部下部に赤色粘土を塗布
244	SK9	土師質土器・ごね跡?	(7.7)	(53.2)		ロクロ						口部下部に赤色粘土を塗布
245	SK9	土師質土器・ごね跡?	(8.4)	(23.4)	(23.3)	ロクロ						口部下部に赤色粘土を塗布
246	SK9	土師質土器・甕	(16.0)	(43.0)		ロクロ						口部下部に赤色粘土を塗布
247	SK9	土師質土器・燈炉	(7.6)	(18.8)		ロクロ						口部側面に起じた2つの 凹部内に円孔多数
248	SK9	土師質土器・燈炉	(9.7)	(15.4)		ロクロ		2条の凹線				口部前面に突出した2つの 凹部内に尖点状の痕有り
249	SK9	土師質土器・燈炉	(6.5)			ロクロ						口縫部の一部にスヌ付蓋
250	SK9	土師質土器・燈炉	(6.5)		(13.6)	ロクロ						体部下部に円孔の意有り 脚は3つか
251	SK9	土師質土器・燈炉	(10.1)		14.0	ロクロ						体部下部に方形の意有り 脚は3つ
252	SK9	土師質土器・燈炉	(3.5)			不明						平面形状が多角形 外側に凸状の痕有り
253	SK9	土師質土器・瓦灯?	(7.6)	5.5		ロクロ						上位に方形の窓、下位に円孔有り
254	SK9	土師質土器・東風	(3.3)		5.0	ロクロ			あ切り			
255	SK9	土師質土器・燈炉?	10.4	12.8		ロクロ						口縫部の一部にスヌ付蓋
256	SK9	土師質土器・器種不明	7.5	19.5	12.8	板作り						平面形状が長方形の 箱型
257	SK9	土師質土器・器種不明	6.1	6.3	(18.6)	板作り						内外面ともスヌ付着
258	SK9	土師質土器・甕?	(2.5)			型打?						破壊部内に被熱 外底に輪錐状痕有り
259	SK9	土師質土器・器種不明	(3.7)			手づくね						天井部と体部に小孔有り
260	SK9	土製品・人形 (神官?)	(10.7)	(41.1)		型打						立像
261	SK9	瓦質土器・器種不明	(3.0)	(29.3)		ロクロ						口縫部は外反
262	SK9	瓦質土器・器種不明	(3.7)			ロクロ						内面に口縫部下に巻起 留めか
263	SK9	瓦質土器・器種不明	(4.6)			ロクロ	外: 梶・管?					
264	SK9	瓦質土器・器種不明	(4.0)			ロクロ	外: 罂子頭?(型打・ 貼付)・四方彌					
265	SK9	瓦質土器・器種不明	(2.9)	幅 (7.6)	長さ (13.9)	板作り						
266	SK9	瓦軸用品・円盤	厚さ 1.6	長径 4.2								梵字?の墨書き有り

表13 城下町13次出土遺物観察表(6)

遺物 番号	出土遺構	器種	法量(cm)		成形	装飾			底面 内底	製作地	製作年代	備考
			高さ	口径		繪付繪葉	文様	装飾質				
270	SK9	土製品・人形(人物?)	高さ (7.2)	幅 (4.5)	型打							
271	SK9	土製品・人形(人物)	高さ (7.6)	幅 (4.6)	型打							
272	SK9	陶製品・人形(舟?)	高さ (2.9)	幅 (2.2)	長さ (5.5)	型打						表面に銀色の光沢 有り
273	SK9	土製品・人形(人物)	高さ (1.4)	幅 (3.7)		型打						足部
274	SK9	土製品・人形(人物)	高さ (3.2)	幅 (2.3)	1.6	厚さ	型打					坐像
275	SK9	土製品・人形(狛犬)	高さ (4.4)	幅 (2.5)	1.7	厚さ	型打					台座付き
276	SK9	土製品・人形(三重塔?)	高さ (3.0)	幅 (1.6)		型打						
277	SK9	ガラス製・小玉	高さ (0.2)	直径 (0.5)								淡青色
278	SK9	砾石	長さ (8.0)	幅 (7.9)	厚さ (1.2)							板状・直岩製? 上下両面を削面とし、 側面に赤色顔料付着
279	SK9	砾石?	長さ (5.9)	幅 (2.6)	厚さ (0.9)							板状・磨灰岩製? 上部の斜面を削りとする
280	SK9	石製品・鏡	長さ (4.8)	幅 (3.7)	厚さ (1.7)							平面方形 胡蝶紫色の青岩製?
281	SK9	鉄製品・刀子?	長さ (17.6)	幅 (2.3)								茎部に木質やひも 状の痕迹有り
282	SK9	鉄製品・刀子?	長さ (7.2)									錆が進行
283	SK9	鉄製品・用途不明	長さ (12.6)									棒状で、一方の端部 は扁平(刃部分)
284	SK9	鉄製品・刀?	長さ (5.7)	幅 (3.8)	厚さ (0.35)							刃部の両面から錆 が出てる
285	SK9	鉄製品・用途不明	長さ (4.6)									取手? 半埋状
286	SK9	銅製品・煙管	長さ (7.2)									表面は錆が進行
287	SK9	鉄製品・用途不明	高さ (5.8)	幅 (8.1)								円形の鋸の跡状で、内部 の中央に複数の軸有り 錆が進行
288	SK9	銅製品・かんざし	長さ (11.2)	幅 (0.9)								基部先端が円形で 屈曲
289	SK10	磁器・碗	(4.1)		口クロ	透明釉						錆反側
290	SK10	陶器・鉢	(2.2)		口クロ	鉢身・白土?・反側						口縁部に白土?漆付
291	SK10	土師器・皿	(1.3)		(6.6)	口クロ						糸切り
292	SK11	磁器・壺	2.6	9.6	3.6	染付・透明釉	外:牡丹・蝶他 内:?					
293	サブト2	土師質土器・焼拂	(5.9)		口クロ							
294	サブト2	磁器・化粧瓶?	11.0	1.1	幅 5.5	型打	白磁					肩丸底、口部はネジ溝 容量 ml
295	サブト2	ガラス器・自業瓶	8.6	幅 2.7	厚さ 1.7							肩丸底、淡青色透明 ゴム栓付、容量 ml
296	サブト2	ガラス器・薬瓶?	7.0	2.2	幅 5.5							肩平丸底、赤褐色透明 口締めネジ式 肩丸底、容量 ml
297	サブト2	ガラス器・ウニ瓶	13.1	5.6	6.3							肩平丸底、容量 ml 無色透明 丸底、容量 ml
298	サブト2	ガラス器・薬瓶?	7.1	1.4	2.8							丸底、無色透明 丸底、容量 ml
299	サブト2	ガラス器・化粧瓶?	11.9	2.3	5.0							丸底、無色透明 丸底、容量 ml
300	サブト2	ガラス器・化粧瓶?	13.6	2.2	4.7							丸底、黃褐色透明 丸底、容量 ml
301	サブト2	ガラス器・薬瓶?	18.2	2.6	6.1							丸底、淡青色透明 丸底、容量 ml
302	サブト2	ガラス器・薬瓶?	17.8	2.6	7.3							丸底、淡青色透明 丸底、容量 ml
303	サブト2	ガラス器・ビール瓶	22.6	2.5	6.5							丸底、明灰色透明 丸底、容量 ml
304	サブト2	磁器・碗	(3.5)		口クロ	青磁						丸底、無色透明 丸底、容量 ml
305	サブト2	陶器・皿	(1.2)		口クロ	白土						丸底、黃褐色透明 丸底、容量 ml
306	サブト2	陶器・片口	(6.0)		口クロ	白土・透明白釉	内:波状文					丸底、淡青色透明 丸底、容量 ml
307	2トレ3層	磁器・碗	5.7	(11.9)	6.0	口クロ	染付・透明釉	外:斑・一重團紋				伝東湖 見込みにハリマえだ4つ
308	2トレ3層	磁器・碗	5.2	(10.0)	4.0	口クロ	染付・透明釉	外:草花文?・一重團紋				くわんか手 高台に砂目跡 口縁は輪花
309	2トレ3層	磁器・皿	3.5	(12.0)	6.7	型打	染付・透明釉	外:「大物」の墨				
310	2トレ3層	磁器・皿	(3.5)		15.8	型打	染付・透明釉					角皿 底面中央に目跡
311	2トレ3層	磁器・皿	3.8	(10.6)	4.8	口クロ	染付・透明釉	底面に純有 り?				
312	2トレ3層	磁器・皿	(3.5)		(15.2)	口クロ	染付・透明釉	外:唐草文・團紋 内:草花文・團紋				
313	2トレ3層	磁器・皿	(2.2)		8.6	口クロ	染付・透明釉	内:松・梅・蘭・山・海・船				蛇ノ目凹型萬台

表14 城下町13次出土遺物観察表(7)

遺物 番号	出土遺構	器種	法量(cm)			成形	装飾			底面 内底	製作地	製作年代	備考	
			器高	口径	底径		檢付結果	文様	装飾箇所					
314	2トレス層	磁器・皿	(2.3)	(7.2)	(3.0)	口クロ	染付・透明釉	外:草花文、一重圓線 内:雷文、二重圓線 見込:晋文?						
315	2トレス層	磁器・皿	3.7	(17.8)		口クロ	染付・透明釉	外:唐草文、圓線 内:鈎唐草文 見込:花文		肥前	19C代?~			
316	2トレス層	磁器・皿	3.9			型打	染付・透明釉	外:草花文?、圓線 内:雷文、圓線 見込:草花文			肥前	19C代?~	口縁は繪花 底面は柏ハギ	
317	2トレス層	磁器・皿	3.4			口クロ	染付・透明釉	内:草花文			肥前	19C代?~		
318	2トレス層	磁器・鉢	6.3	(16.1)	8.0	口クロ	染付・透明釉	外:草・葉、二重圓線 内:墨、墨、唐草、葉 見込に「寿」 鉢?	肥前	18C末?~	意匠は蛇/目輪ハギ			
319	2トレス層	磁器・蓋	3.1	(9.6)	(3.6)	口クロ	染付・透明釉	外:朱線 内:圓線						
320	2トレス層	磁器・小壺	(3.8)			口クロ	白土・朱竹・絞釉	外:朱線文・雪?、圓線						
321	2トレス層	磁器・段重	(5.9)			口クロ	色絵(赤・濃紺・金)・透明釉	外:格子・丸文、圓線						
322	2トレス層	陶器・碗	(3.1)	(4.0)		口クロ	白土・透明釉	外:渦巻き 内:渦巻き						
323	2トレス層	陶器・鉢	(3.2)	9.0		口クロ	鉄輪・白土							見込に円形の砂目跡
324	2トレス層	陶器・鉢	(5.9)			口クロ	鉄輪							
325	2トレス層	陶器・擂鉢	(7.0)	(14.4)	(7.6)	口クロ	鉄輪							
326	2トレス層	陶器・擂鉢	(3.9)		(15.6)	口クロ					備前?			
327	2トレス層	瓦質土器・鉢?	(7.6)			口クロ								
329	2トレス層	砾石	長さ (15.0)	幅 (6.7)	厚さ (1.6)									板状、粘板岩製? 上下両面を研面とする

表15 城下町13次出土瓦観察表

陶器 番号	出土遺構	種別	瓦当径	周縁幅	瓦当厚	朱文数	瓦当長	瓦当幅	文様帶長	文様帶幅	額部幅	備考
267	SK9	軒丸瓦	(13.6)	2.1	1.9							左三ツ巴
268	SK9	軒平瓦					(8.3)	4.0		2.6	1.3	連續文
269	SK9	軒平瓦					(19.5)	4.3	(14.3)	3.0	1.5	馬文
328	2トレス層	軒平瓦							3.8	2.3	1.3	

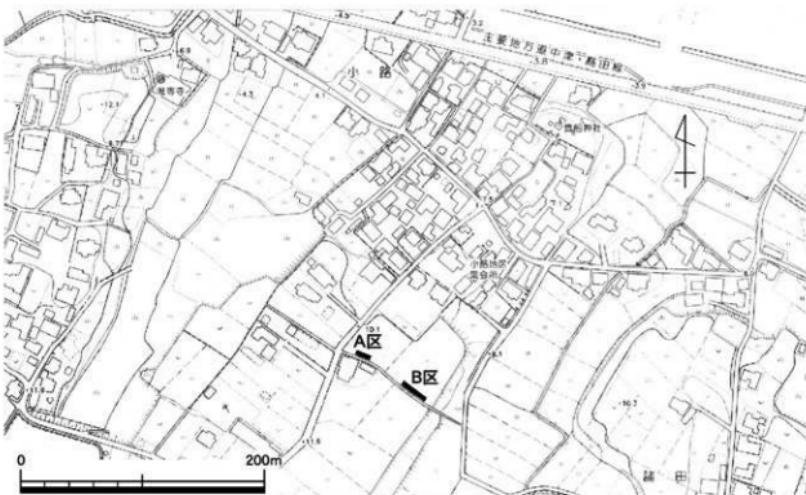
第3節 定留遺跡7次調査

1. 調査の概要

定留遺跡は中津市東部の台地に所在し、東方約1.5kmには犬丸川が北流し、古代においては湾入する海岸線に近接していたと考えられる。この遺跡は弥生時代から中世にかけての集落跡で、これまでに向地区・八反ガソウ地区・赤松地区・田畠地区などで圃場整備事業に伴う大規模な発掘調査が実施されている。これらの調査では古墳時代の堅穴住居跡や古墳、奈良・平安時代の掘立柱建物跡、中世の居館を構成する掘立柱建物跡と区画溝などが確認され、特に奈良時代の蛸壺焼成土坑が多数検出され、土鍤も多いことから漁労に関わる海浜集落の様相が考えられた。また、平安時代の綠釉陶器・灰釉陶器が10点以上出土し、両面廻の掘立柱建物跡も検出された赤松地区は、海上交通を背景にした交易に着手していた集落の可能性も考えられている。

今回の調査は中津市大字定留256-1外における市道定留・諸田線道路新設に伴うもので、対象地の現況は畠地で、標高は10m程度である。平成29年6月8日に市の担当部局から大分県教育委員会にて文化財保護法第94条第1項の通知が提出された。市教委では6月16日に施工範囲内の3か所にトレーンチを設定して、確認調査を実施した結果、複数の土坑やピットが検出されたため本発掘調査が必要と判断された。

本発掘調査は8月23日から9月7日まで実施し、調査区は確認調査の結果を参考に西側にA区、東側にB区を設定した（第53図）。調査はまず基盤層の上層に深さ20cmから50cmにわたって堆積する表土層・クロボク層などを重機で掘削し、その後人力による遺構の検出・掘削を行った。検出した遺構は1/20実測図及びデジタル写真によって記録保存した。調査面積は合計で約97m²である。



第53図 定留遺跡7次 調査区位置図 (S=1/4,000)

2. 遺構と遺物

(1) A区

A区は調査対象地の西側に設定した調査区で、幅約2.7m・長さ約12.6mの東西方向に長い調査区である(第54図)。A区の基本的な層位は、表土層である耕作土が20cm前後、その下にクロボク層が20cm前後あり、遺構検出面である基盤層は茶褐色弱粘質土の地層である。遺構検出面の標高は西端部で地表面から0.43m深い8.80m、東端部では0.38m深い8.95mと、東側に向かってやや高くなっている。

遺構の分布状況はB区に比較するとやや密で、土坑やピットが多数検出された。ピットのなかには柱穴状の構造のものもあるが、明確な住居跡や建物跡・柱穴列を構成する遺構としては把握できなかった。このため、ここで詳細を報告する当区の主な遺構は土坑3基のみである。

土 坑

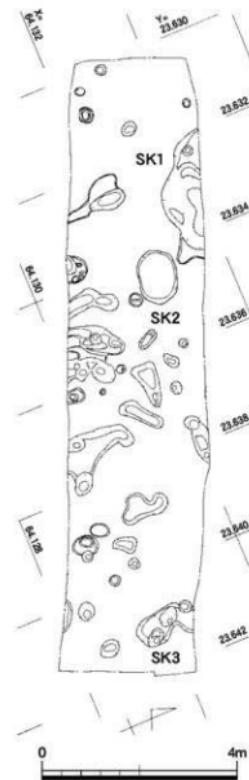
土坑は調査区の西部に2基、東端部に1基分布する。

SK1 (第55図)

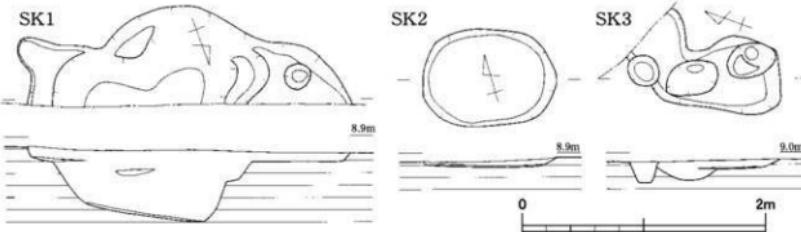
SK1は調査区西部に位置し、北側が調査区外までのびている。遺構検出面の標高は約8.81mである。

遺構は複数の土坑が切り合っていた可能性があり、全体として平面形は梢円形に近いが、やや不整形である。遺構の規模は東西方向の長さが検出部分で2.68m、幅は0.80mのみ調査した。深さは中央部の最深部で0.62mと深いが、東西両側には平坦面をもち、この部分は0.10m程度と浅い。中央部の床面は平坦ではあるが、西側が東側に比べ0.16mほど深くなっている。壁面は50°～60°の傾斜で立ち上がる。

出土遺物はない。



第54図 定留遺跡7次
A区全体図 (S=1/100)



第55図 定留遺跡7次 A区SK1・SK2・SK3実測図 (S=1/40)

SK2 (第55図)

SK2は調査区西部に位置し、SKIの南東に隣接する。遺構検出面の標高は約8.87mである。

遺構は平面形が楕円形を呈し、規模は長さ1.10m・幅0.80mである。深さは最深部でも0.09mと浅く、床面は水平な平坦面をなす。壁面は外上方に開きながら立ち上がる。主軸の方位はN-74°-Wである。

遺物は土師器の甕の体部破片が出土しているが、小片のため図示していない。

SK3 (第55図)

SK3は調査区東端部に位置し、遺構検出面の標高は約8.94mである。

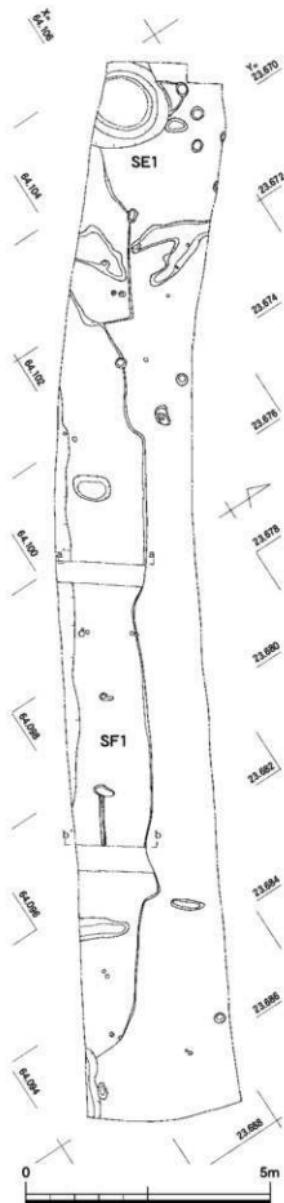
遺構は複数の土坑やピットが重複するが、主たる部位は南北方向に長い丸窓長方形の平面形を呈する。切り合う遺構はこの部位の内部に2基のピットと北東側の調査区外にかけて小土坑状の遺構があり、北側の小ピットは当遺構を切る新しい時期のものである。主たる部位の規模は長さ約1.00m・幅0.61mで、深さは0.08mである。中央部のピット状遺構の最深部は0.18mである。主たる部位の床面は全体的に水平な平坦面をなし、壁面は南側短辺では約30°の角度で大きく開きながら立ち上がる。

遺物は遺構内の埋土から土錘が1点出土している(第59図)。1は先端部がわずかに欠損するが、ほぼ完形の土錘で、縦長の棒状の形態を呈する。大きさは長さ4.4cm、最大径1.2cmで、中央に径0.35cmの円孔を穿つ。重量は5.7gである。

(2) B区

B区は調査対象地の東側に設定した調査区で、幅約2.9m・長さ約21.7mの東西方向に長い調査区である(第56図)。遺構検出面は表土層である耕作土の直下20cm前後と浅く、基盤層は茶褐色弱粘質土の明快な地層である。遺構検出面の標高は西端部で地表面から0.21m深い9.40m、東端部では0.14m深い9.15mと、東側に向かってやや低くなっている。なおB区の東方は崖状に標高が3mほど低くなっている。

遺構の分布状況はA区に比べてややまばらで、短い溝状の遺構やピットを複数検出したが、ここでは井戸1基と道路状遺構1条のみを報告する。



第56図 定留遺跡7次
B区全体図 (S=1/100)

井戸

SE1 (第57図)

SE1は調査区西端部に位置し、遺構検出面の標高は9.38mである。

遺構は南東側の一部が現在使用されている道路の下になっているため、この部分を調査区外とした。遺構の平面形は検出面では南北にやや長い楕円形を呈し、長径が2.0m程度と推定され、短径が1.75mである。断面形は上位では漏斗状に開くが、中位以下ではほぼ垂直に立ち上がる。深さは検出面から1.83mまで掘削したが、床面はさらに1.0m以上深くなっている。掘削した最深部では長径1.05m・短径0.96mとやや円形に近い平面形をなす。壁面は素掘りのままで、西側には遺構検出面から0.90m・1.30m、東側には1.45mの深さにそれぞれ浅いくぼみが掘り込まれている。

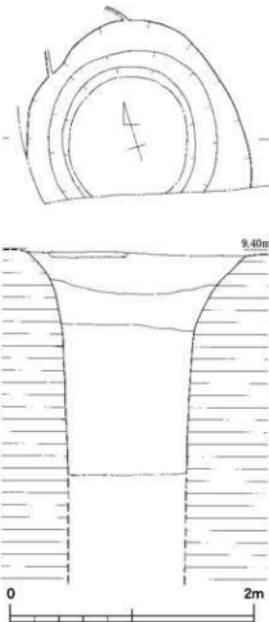
遺物は埋土中から土師器・土師質土器・瓦器・陶器・磁器などが少量出土している（第59図）。2は瓦器塊の口縁部の小片で、内面にヘラミガキの痕跡がわずかに残る。3は陶器の皿かと考えられる口縁部の小片である。内外面に薄く白土を施す。4は土師質土器の鍋かと考えられる口縁部から体部上位の破片で、口縁部と体部の境に段を有する。内面にはヨコナデの器面調整を施し、外面の器面調整は不明であるが煤が多く量に付着する。5は土師質土器の鉢の底部かと考えられる。底部が平底で器壁が薄い。器面調整は内面がナデ、外面はタテハケの後ナデを施し、底部との境にはヨコ方向にヘラケグリを施している。法量は底径が11.7cm程度と考えられる。

道路状遺構

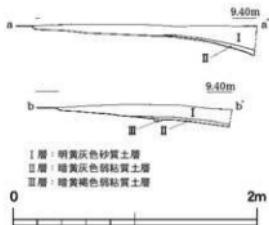
SF1 (第58図)

SF1はB区の調査区の南辺に沿って、西端から東端まで連続して検出された。ただし、南側は現在の道路の下層に続いているため、幅員などの全容は把握できなかった。

遺構の内部では細い溝状遺構や杭の抜き跡状の小ビットが数ヶ所で検出された。溝状遺構は調査区の東端から5.6mの地点から道路状遺構と主軸をあわせて西方に1.05m分が確認された。幅が0.08m・深さが0.02mと小規模なものではあるが、主軸の方位の画一性から道路状遺構に付随する施設の可能性がある。また、小ビットは調査区の東端から1.7mと3.0mの位置にそれぞれ2基ずつが所在し、同じく東端から10.0mの地点では主軸に直交するような配置で、北側に2



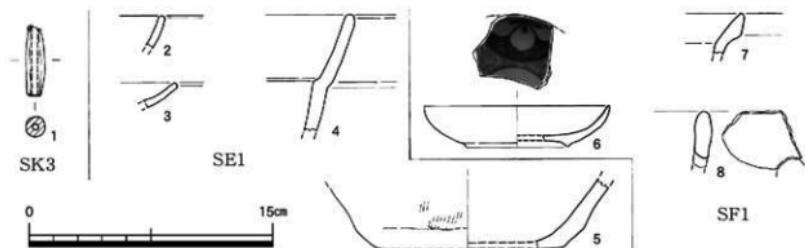
第57図 定留遺跡7次
B区SE1実測図 (S=1/40)



第58図 定留遺跡7次
B区SF1土層断面図 (S=1/40)

基、南側に3基が確認された。さらに東端から14.0mと17.0mの地点でも2基ずつが検出された。これら的小ピットは直径が0.05mから0.10m程度と小さいものではあるが、東端から10.0m地点の一群などは主軸と直交する配置を示す特徴から道路状遺構との関連が窺われる。道路状遺構の本体は検出した全長が20.00mに達し、幅は最も広い部分で1.88mである。標高は検出面では西端部が9.34m、東端部が9.16mである。調査区内の2か所で横断面の土層堆積状況（第58図）を確認したが、基本的に埋土の大部分は3mm程度の小砂礫を多く含む明黄色灰砂質土で占められる。その下層は南側の床面上に暗黃灰色弱粘質土が基盤層の地山への薄い漸移層として堆積する。道路状遺構の検出面からの深さは最深部で0.24mであるが、南側に向かって深度を増している。本道路状遺構の主軸の方位はN-57°-Wである。

遺物は埋土中から土師器・土師質土器・陶器・磁器などが出土している（第59図）。6は磁器の皿で、内面に緑釉で梅花文・同心円文等を施し、見込には二重輪線、口縁部に輪線をめぐらし、全面に透明釉を施している。高台は断面三角形で低い。法量は器高2.5cmで、口径約11.5cm・底径約6.4cmである。7は土師質土器の鉢かと考えられる口縁部の小片である。外縁部を肥厚させて断面が三角形を呈する。器面調整は外面がナデで、内面には赤色顔料を塗布する。8は土師器の銷壺で口縁部の破片である。器面調整はナデで、口縁部下位に直径2cm弱の円孔の一部が残存する。



第59図 定留遺跡7次 調査出土遺物実測図 (S=1/3)

表16 定留遺跡7次調査出土遺物観察表

遺物 番号	出土遺構	器種	法量(cm)		成形	装飾			底面 内底	製作地	製作年代	備考
			器高	口径		繪付輪渠	文様	装飾特徴				
1	SK3	土錐	長さ 4.4	直径 1.2	手づくね							重量5.7g
2	SE1	瓦器・壇	(2.0)		ロクロ							内面へラミガキ
3	SE1	陶器・皿?	(1.5)		ロクロ	白土						
4	SE1	土師質土器・鍋?	(7.1)		ロクロ					在地系?		外側に多量の保が付着
5	SE1	土師質土器?・鉢?	(4.2)	(11.7)	ロクロ					在地系?		
6	SF1	磁器・皿	2.5	(11.5) (6.4)	ロクロ	緑釉・透明釉	内:梅花・同心円他					
7	SF1	土師質土器・鉢?	(2.5)		ロクロ					在地系?		内面に赤色顔料を塗布
8	SF1	土師器・銷壺	(3.4)		手づくね							穿孔1カ所残存

3. 小結

調査の概要の項でも記述したとおり、今回の定留遺跡7次調査地の周辺ではこれまでにも圃場整備事業に伴う発掘調査が大規模に実施され、古墳時代から中世までの多数の遺構が確認されている。今回調査地の北西約700mに位置する定留遺跡八反ガソウ地区では堅穴住居跡5軒・掘立柱建物跡18棟・横穴式石室1基・蔵骨器1基とともに蛸壺焼成坑が15基調査されている。報告書では「蛸壺焼成坑が密集している場所には小型の建物や、堅穴住居跡が単発で存在するだけで、蛸壺製作のための空間であり、建物は製作に伴う作業小屋的性格のものであろう」と考察されている（註1）。また、北西約500mの赤松地区では堅穴住居跡2軒・掘立柱建物跡44棟・井戸2基・中世墓1基などが調査されている。ここでは9世紀後半頃の綠釉陶器が10点数点出土し、「この時期には経済的な基盤が向上していたと考えられる。可能性の一つとして、生産活動が漁労だけではなく、海上交通を背景にした交易にも着手していたかもしれない」とされている（註2）。さらに、西方約700mの田畠地区（註3）では堅穴住居跡1軒・掘立柱建物跡9棟、南西約600mの向地区（註4）でも堅穴住居跡1軒が確認されている。

このような時代背景がある定留遺跡で、ここでは今回調査した各種遺構のうち主要遺構である井戸と道路状遺構について、用途や時期などに関して以下で検討する。

確認された井戸の位置は、通行に支障をきたしかねないほどに現在の道路に接している。現在では上部の構造物が失われているが、少なくとも井戸枠などが設けられていなければ、通行する人の転落などが危惧される位置関係である。井戸の使用目的は、水田や畠地の灌漑用なのか、人馬の飲料水用なのか断定はできないが、埋土中から煤が付着した土師質土器の鍋が出土していることから、食生活に関連した用途が考えられる。また、埋土中からは瓦器の塊が出土しているが、時期的には近世を中心とした時代の所産であろう。

今回の調査対象地の北側に展開する小路集落は、北東に所在する貴船神社をランドマークとして方格の地割を形成するようである（第53図）。調査対象となった道路は北西-南東方向に延びているが、その方位は小路集落の地割と並行するものである。また、この道路の下層で確認したSFIの埋土中からは、近世の土師質土器・陶磁器を中心とした遺物が出土している。小路集落の形成時期は不明であるが、貴船神社の鳥居には寛政8年（1796）の銘がある。これらのことから、この道路は小路集落の形成と密接に関連し、近世以降改修されながら使用されてきたものと考えられる。

出土遺物全体を概観すると、近世以降の陶磁器が多いが、古代の蛸壺・土錐や中世の瓦器塊なども出土していることから、今回の調査地周辺は古代以降現代にいたるまで断続的に人々の生活の舞台となっていたことが窺われる。特に、古代においては漁労が生業のひとつの柱となっていたことが再確認された。

〔註〕

- 1 定留遺跡八反ガソウ地区発掘調査報告書 中津市文化財調査報告第38集 2006.3.23
- 2 定留遺跡赤松地区発掘調査報告書 中津市文化財調査報告第89集 2018.3.15
- 3 定留遺跡田畠地区 中津市文化財調査報告第35集 2005.2.28
- 4 福島遺跡入垣地区(III) 定留遺跡向地区 中津市文化財調査報告第22集 1998.3.31

第4章 総 括

本書では都合3箇所の遺跡について報告を行った。

中津城下町遺跡12・13次の調査は、両地区共に武家屋敷跡での調査であった。検出された遺構は土坑・火災処理土坑・井戸などであった。ここでは総括としてこれまで城下町で行われてきた各調査区の遺構検出面について概観する。

遺構は、12次調査では標高4.5m付近、13次調査では3.1～3.3m付近で検出された。過去に城下南の古金谷地区で行った11次調査区（註1）では標高4.8m付近で遺構が検出され、39次調査では標高2.4m付近で遺構が検出された（註2）。遺構は、山国川の自然堤防、もしくは河川堆積により形成された地形に構築されていることから、川の上流部の調査区では標高が高く、川の下流部は低い標高で検出されたということになるのであろう。遺構検出層はハード層で黄褐色・茶褐色を基調とするが、13次調査区から39次調査区近辺ではハード層もしくは砂層で検出されている。海岸に近い調査区であることが影響しているのであろう。問題はこの遺構検出層が地山（自然堆積層）なのか整地層なのかということにある。中津城下町地下の地山は整地層と極めて似ており、地山に到達したと認識しても、それは整地層であり下位に16世紀末の遺構が存在する例がある（註3・14次調査区）。この整地層が城下のどの範囲まで及ぶか明確でないが、砂地を検出した留守居町付近の遺構検出標高2.4m付近が現時点では整地層の北限と考えることもできる。整地が行われた時期は、16世紀末の遺構の上に構築されていることからそれ以降の整地であることは間違いない。

さて、これまで城下町では16世紀末～17世紀前半の溝状遺構が検出されている。遺構は幕末に描かれた絵図の屋敷境と重なり、城下町形成当初より地割りラインは基本的に踏襲されていることが指摘された（註4・3次調査区）。一方、19次調査区（註5）で確認された当該期の溝状遺構や先述した14次調査区の溝状遺構、近年の諸町地区の調査（註6・29次調査区）で検出された溝状遺構などは幕末のそれとは一致しない。

よって、現段階では次のことが確認できる。①中津城下町地下には整地層が分布し、それは海岸付近にまで及んでいない。②16世紀末～17世紀前半段階、城下に溝状遺構が敷設されていた。③溝状遺構は幕末の屋敷境と重なる部分もあれば、重ならない部分もある。④整地によって初期の町割りが変更された際、以前の溝状遺構の位置を踏襲するものもあれば、踏襲しないものもある。

現在、中津城下町は中津に入部した黒田氏の町割りを基本として整備されたと考えられている。この初期城下町の実態は先述したように部分的にしか判明しておらず、その解明が今後の課題である。また、城下形成以前の景観の復元、自然堆積層と整地層の分布範囲の確認、各時代における屋敷地内の土地利用のあり方、これらの点も今後城下町を調査する際に留意する必要があろう。

定留遺跡7次調査では中世～近世にかけて使用された井戸跡、道路状遺構を検出している。道路状遺構は小路集落の地割と並行していることが小結において指摘された。恐らくは「小路」地名も中世もしくは近世のある段階で付けられた地名と考えられる。集落内にある程度規格的な地割が意識されていたことにならうが、この傾向は市内の石神城跡や一つ松城跡、八並城跡周辺にも見ることができる。これらの城跡の周辺では小路という名にふさわしい小道が主要道から派生する形で配されている。しかし、これらの「路」は近世の城下町ほどの規模と規格性はもっていない。いわゆる一本街村状の短冊型地割とも呼べる景観が、中世もしくは近世のある段階、市内の城跡を中心とした諸々で形成されていたものと考えられる。城跡が周知されていない本調査区周辺でこのような



第60図 城下町調査箇所

地割が確認された事実は、一般集落にまで短冊型地割を意識した町割が導入された可能性や同地にいまだ知られていない城館跡が存在する可能性を示すものであり、興味深い。

以上、中津城下町遺跡12・13次調査、定留遺跡7次調査の発掘調査とその意義を述べ、総括とする。

(註)

- 1 中津城下町遺跡11次調査 中津市文化財調査報告第68集 2014.3.29
- 2 近年道路拡幅工事に伴い発掘調査が行われた。
- 3 中津城下町遺跡竹下義兵衛屋敷跡 中津市文化財調査報告第51集 2010.3.31
- 4 中津城下町遺跡殿町地区発掘調査報告書 中津市文化財調査報告第32集 2004.3.29
- 5 中津城下町遺跡・寺町 中津市文化財調査報告第65集 2013.12.20
- 6 中津城下町遺跡29・31次調査 中津市文化財調査報告書第87集 2018.3.31

写 真 図 版

写真図版1 (城下町 12次)



調査区全景(西から)



SK3 完掘(北から)



SK3 土層②(西から)

写真図版2（城下町12次）調査区出土遺物



5



6



7



26



62



69



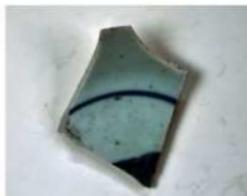
92



223



251



267



271



272



278

写真図版 3 (城下町 13 次)



調査区全景(北から)



SK8(東から)



SK9(西から)

写真図版4（城下町13次）調査区出土遺物



38



39



64



105



105



105



122



122



179



181



192



192



208



218



238



274



275



276



297

302

301

303

写真図版5（定留遺跡7次）



調査区全景（北から）



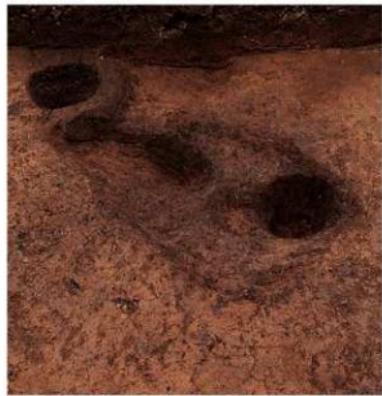
A区全景（北西から）



SK1（南東から）



SK2（北西から）



SK3（南西から）

写真図版 6 (定留遺跡 7 次)



B区全景（北西から）



SF1 (南東から)



SE1 (南東から)



SE1 (北東から)



調査区出土遺物

報 告 書 抄 錄

ふりがな	なかつじょうかまちいせき	じちょうさ	さだのゆいせき	じちょうさ
書名	中津城下町遺跡12・13次調査 定留遺跡7次調査			
副書名	市営京町住宅建設、市道鷹匠町おかこい山線新設、市道定留・諸田線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書			
卷次				
シリーズ名	中津市文化財調査報告			
シリーズ番号	第91集			
編集者名	浦井 直幸 末永 弥義			
編集機関	中津市教育委員会			
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111			
発行年月日	2019年3月29日			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯 東経 調査期間 面積(m ²) 調査原因
中津城下町遺跡 12次調査	大分県中津市 1441番地2(京町)	44203	203002	33°36'7" 131°11'9" ~ 20091102 130 市営住宅建設
中津城下町遺跡 13次調査	大分県中津市 904-3 (鷹匠町)	44203	203002	33°36'14" 131°11'32" ~ 20090910 70 市道新設
定留遺跡 7次調査	大分県中津市大字 定留256-1外	44203	203034	33°34'41" 131°15'17" ~ 20170823 97 市道新設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物 特記事項
中津城下町遺跡 12次調査	城下町	近世	土坑・井戸	陶磁器 18世紀後半以降の大規模な火災処理土坑を確認した。
中津城下町遺跡 13次調査	城下町	近世	土坑・井戸	陶磁器 18世紀後半以降の廃棄土坑を確認した。
定留遺跡 7次調査	集落	中世～近世	土坑・井戸 道路状遺構	土師器・瓦器 陶磁器 中世以降、近現代まで使用された井戸、道路状遺構等を確認した。
要約	中津城下町遺跡12次調査:土坑・火災処理土坑・井戸などを確認した。特に火災処理土坑は最大長3.6mの大規模なものであった。18世紀後半以降に調査地やその付近で大規模な火災のあったことがわかった。 中津城下町遺跡13次調査:土坑を11基確認した。屋敷地の土地利用を考える貴重な資料を得た。 定留遺跡7次調査:今回対象となった道路は、小路集落の幹線道路と相似した方位を示し、遺物も近世以前のものが中心となることから、改修されながら長期間使用されていることが判明した。			

**中津城下町遺跡12・13次調査
定留遺跡7次調査**

市営京町住宅建設、市道鷹匠町おかこい山線新設、市道定留・
諸田線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第91集

2019年3月29日

発行 中津市教育委員会
印刷 榛川原田印刷社